ISSN 1341-8548

# 館報 2013 62

# ANNUAL REPORT

## OF BRIDGESTONE MUSEUM OF ART & ISHIBASHI MUSEUM OF ART

石橋財団 ブリヂストン美術館
石橋財団 石橋美術館

# 館報 2013 62

# ANNUAL REPORT

OF BRIDGESTONE MUSEUM OF ART & ISHIBASHI MUSEUM OF ART

石橋財団 ブリヂストン美術館
石橋財団 石橋美術館

館報62号（2013年度）

Annual Report of Bridgestone Museum of Art &
Ishibashi Museum of Art No. 62 (2013)

編集・発行

Edited and published by

石橋財団ブリヂストン美術館
〒104-0031　東京都中央区京橋1-10-1

Bridgestone Museum of Art, Ishibashi Foundaion
1-10-1, Kyobashi, Chuo-ku, Tokyo 104-0031, Japan

石橋財団石橋美術館
〒839-0862　福岡県久留米市野中町1015

Ishibashi Museum of Art, Ishibashi Foundation
1015, Nonaka-machi, Kurume-shi, Fukuoka 839-0862, Japan

印刷
モリモト印刷株式会社

Printed by
Morimoto Printing Co., Ltd.

2014年3月発行

©2014
Bridgestone Museum of Art,
Ishibashi Museum of Art,
Ishibashi Foundation

# 目次　Contents


1　設立趣旨、機構・運営 …… 4
Brief Histories of the Museums, Organization and Management …… 5
2　展覧会
- ブリヂストン美術館 …… 6
- 石橋美術館 …… 31

3　教育普及
- ブリヂストン美術館 …… 49
- 石橋美術館 …… 53

4　入場者数 …… 56
5　新収蔵作品　New Acquisitions …… 57
6　新収図書 …… 72
7　修復記録 …… 73
8　作品貸出記録
- ブリヂストン美術館 …… 74
- 石橋美術館 …… 75

9　刊行物一覧 …… 76
10　研究報告
・安井曾太郎《F夫人像》について　貝塚健 …… 84
・ピエール・スーラージュへの6つの質問　新畑泰秀 …… 90
11　美術館案内　Guide to the Museums …… 95
12　石橋財団職員 …… 96

# 設立趣旨

**ブリヂストン美術館**

ブリヂストン美術館は、株式会社ブリヂストンの創業者・石橋正二郎(1889-1976)が多年にわたって蒐集愛蔵した内外の美術品を、社会公共のため、広く一般の鑑賞に供し、文化向上の一端に貢献したいとの趣旨に基づき、1952(昭和27)年1月8日、ブリヂストンビルディング竣工とともに同ビル内に開設されたものである。その後1956(昭和31)年4月に設立された財団法人石橋財団（現・公益財団法人石橋財団）がその経営を継承し、1961(昭和36)年9月には同財団が石橋正二郎から所蔵美術品の寄贈を受けた。なお、2003(平成15)年1月に一階部分の増床工事を行い、ティールームを開設した。

**石橋美術館**

石橋美術館は、石橋正二郎が1956(昭和31)年4月26日、株式会社ブリヂストンの創立25周年を記念して、社会公共の福祉と文化向上のために、郷土久留米市に寄贈した石橋文化センターの中心施設である。1977(昭和52)年、石橋正二郎の遺族の寄付により増改築が行われ、同年4月以降、久留米市の要請により、石橋財団がその管理運営に当たっている。

なお、本館に付随する別館は、1995(平成7)年1月8日、石橋正二郎によって蒐集された石橋コレクションのうち、書画・陶磁器類を収蔵展示する施設として石橋幹一郎により久留米市に建設寄贈され、一年余の養生期間を経て1996(平成8)年10月17日に開館した。

# 機構・運営

**石橋財団**　　(2013年12月31日現在)

| | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|
| **理事長** | 石橋　寛 | | | | | |
| **理事** | 島田紀夫 | 西嶋大二 | 滝口勝昭 | 水戸岡鋭治 | 石橋直樹 | |
| **監事** | 林　克次 | 今津幸子 | | | | |
| **評議員** | 加嶋昭男 | 高階秀爾 | 村上　浩 | 小林　忠 | 加瀬英明 | 小嶋英熙 |
| | 鈴木エドワード | | | | | |

**美術館運営委員会**

| | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| **委員長** | 石橋　寛 | | | | |
| **委員** | 高階秀爾 | 富山秀男 | 小林　忠 | 島田紀夫 | 西嶋大二 |

**寄付助成選考委員会**

| | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|
| **委員長** | 石橋　寛 | | | | | |
| **委員** | 加嶋昭男 | 村上　浩 | 島田紀夫 | 小嶋英熙 | 石橋直樹 | 西嶋大二 |

| | |
|---|---|
| **常務理事** | 西嶋大二 |
| **常務理事付** | 深堀幸男 |

**事務局**

| | |
|---|---|
| **事務局長** | 山内和徳 |

**ブリヂストン美術館**

| | |
|---|---|
| **館長** | 島田紀夫 |

**石橋美術館**

| | |
|---|---|
| **館長** | 島田紀夫 |

## Brief Histories of the Museums

**Bridgestone Museum of Art**

On January 8, 1952, ISHIBASHI Shojiro (1889-1976), the founder of the Bridgestone Corporation, wishing to promote cultural development in Japan, opened to the public a museum of art within the newly-completed Bridgestone Building under the name of the "Bridgestone Gallery". The works of art, both Japanese and foreign, which he had collected over the years formed the nucleus of the exhibits. In April 1956, the Ishibashi Foundation was established to take over the management of the Gallery, and in September 1961, ISHIBASHI donated the works in the Gallery to the Foundation. In January 1968, the English name was changed from the "Bridgestone Gallery" to the "Bridgestone Museum of Art". In January 2003, the ground floor was enlarged and a tea room was opened.

**Ishibashi Museum of Art**

On April 26, 1956, in commemoration of the 25th anniversary of the Bridgestone Corporation, ISHIBASHI Shojiro donated the Ishibashi Cultural Center to his home town of Kurume to render a public service and promote cultural development. The Ishibashi Museum of Art (originally the Ishibashi Art Gallery) is the principal institution in the Center. In 1977, the Museum building was enlarged and renovated, thanks to a contribution from the Ishibashi family, and in April of the same year the city of Kurume entrusted the Ishibashi Foundation with the management of the Museum.

On January 8, 1995, ISHIBASHI Kan'ichiro, son of ISHIBASHI Shojiro donated to the city of Kurume a new museum especially designated to exhibit Shojiro's collection of Asian Arts, such as brush painting, calligraphy, porcelain works. It has been open to the public since October 17, 1996.

## Organization and Management

Ishibashi Foundation (As of December 31, 2013)

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| **President of the Board of Directors** | | | | |
| | ISHIBASHI Hiroshi | | | |
| **Directors** | SHIMADA Norio | NISHIJIMA Taiji | TAKIGUCHI Katsuaki | MITOOKA Eiji |
| | ISHIBASHI Naoki | | | |
| **Auditors** | HAYASHI Katsuji | IMAZU Yukiko | | |
| **Council Members** | KASHIMA Akio | TAKASHINA Shuji | MURAKAMI Hiroshi | KOBAYASHI Tadashi |
| | KASE Hideaki | KOJIMA Hidehiro | SUZUKI Edward | |
| **Executive Committee of the Museums** | | | | |
| **Chairman** | ISHIBASHI Hiroshi | | | |
| **Members** | TAKASHINA Shuji | TOMIYAMA Hiedo | KOBAYASHI Tadashi | SHIMADA Norio |
| | NISHIJIMA Taiji | | | |
| **Program Development Grant Committee** | | | | |
| **Chairman** | ISHIBASHI Hiroshi | | | |
| **Members** | KASHIMA Akio | MURAKAMI Hiroshi | SHIMADA Norio | KOJIMA Hidehiro |
| | ISHIBASHI Naoki | NISHIJIMA Taiji | | |
| **Managing Director** | NISHIJIMA Taiji | | | |
| **Executive Assistant Director** | | | | |
| | FUKABORI Yukio | | | |
| **Administration** | | | | |
| **Executive Secretary** | YAMAUCHI Kazunori | | | |
| **Bridgestone Museum of Art** | | | | |
| **Director** | SHIMADA Norio | | | |
| **Ishibashi Museum of Art** | | | | |
| **Director** | SHIMADA Norio | | | |

## 筆あとの魅力—点・線・面　印象派から抽象絵画まで〈コレクション展示〉

会期：2013年1月8日(火)－3月10日(日)
会場：第1－10室、彫刻ギャラリー1、2
主催：石橋財団ブリヂストン美術館
概要：モネ、ルノワールなどの印象派からセザンヌを経てマティス、ピカソなど20世紀に至る西洋美術の展開を中心に、藤島武二や青木繁などの日本近代洋画、そして戦後の抽象絵画まで179点のコレクションを展示した。また、第2室に「点」「線」「面」の筆あとが強調されている作品を集め、画家の手の動きや息づかい、画面に刻まれたリズム、身体性など「筆あと」に残された絵画表現の魅力を紹介する作品解説をつけた。描かれた作品の主題内容による違いだけではない視点でブリヂストン美術館のコレクションを楽しんでいただく機会とした。
出品内容：絵画131点、彫刻35点、陶器13点　計179点
入場者総数：20,848人(1日平均372人)

展覧会ポスター

出品目録：

**第2室　筆あとの魅力**

【点】

1. ポール・ゴーガン《馬の頭部のある静物》/ 1886年 / 油彩・カンヴァス / 外洋168
2. ポール・シニャック《コンカルノー港》/ 1925年 / 油彩・カンヴァス / 外洋45
3. アンリ=エドモン・クロス《シャンゼリゼで(『パン』第4年次第1号所収)》/ 1898年刊 / リトグラフ / 外版196-72
4. 青木繁《海景(布良の海)》/ 1904年 / 油彩・カンヴァス / 日洋100
5. 岡鹿之助《雪の発電所》/ 1956年 / 油彩・カンヴァス / 日洋297
6. ピート・モンドリアン《砂丘》/ 1909年 / 油彩、鉛筆・厚紙 / 外洋203
7. パウル・クレー《島》/ 1932年 / 油彩、砂を混ぜた石膏・板 / 外洋202

【線】

8. 佐伯祐三《テラスの広告》/ 1927年 / 油彩・カンヴァス / 日洋174
9. 藤田嗣治《猫のいる静物》/ 1939-40年 / 油彩・カンヴァス / 日洋131
10. 猪熊弦一郎《夜の猫》/ 1954年 / 水彩、インク、墨、グワッシュ、鉛筆・紙 / 日洋487
11. ジョアン・ミロ《絵画》/ 1927年 / 油彩・カンヴァス / 外洋187
12. ワシリー・カンディンスキー《二本の線》/ 1940年 / ミクストメディア・カードボード / 外洋217
13. ジャン・フォートリエ《人質の頭部》/ 1945年 / 油彩・カンヴァスに貼られた紙 / 外洋188
14. ジャン・フォートリエ《旋回する線》/ 1963年 / 油彩・カンヴァスに貼られた紙 / 外洋189
15. パウル・クレー《ホフマン風物語の情景》/ 1921年 / リトグラフ・羊皮紙 / 外版195
16. ザオ・ウーキー《21.Sep.50》/ 1950年 / 油彩・カンヴァスボード / 外洋194
17. ザオ・ウーキー《海岸》/ 1950年 / エッチング・紙 / 外版278
18. アンス・アルトゥング《T 1963 K7》/ 1963年 / アクリル・カンヴァス / 外洋228
19. ピエール・スーラージュ《絵画、26 May 1969》/ 1969年 / 油彩・カンヴァス / 外洋210

【面】

20. ポール・セザンヌ《サント=ヴィクトワール山とシャトー・ノワール》/ 1904-06年頃 / 油彩・カンヴァス / 外洋32
21. アンリ・マティス《コリウール》/ 1905年 / 油彩・厚紙 / 外洋141
22. ポール・ゴーガン《乾草》/ 1889年 / 油彩・カンヴァス / 外洋38
23. ピエール・ボナール《灯下》/ 1899年 / 油彩・紙 / 外洋51
24. 安井曾太郎《薔薇》/ 1932年 / 油彩・カンヴァス / 日洋143
25. 藤島武二《東海旭光》/ 1932年 / 油彩・カンヴァス / 日洋51
26. ハンス・ホフマン《Push and Pull Ⅱ》/ 1950年 / 油彩・カンヴァス / 外洋211
27. ザオ・ウーキー《07.06.85》/ 1985年 / 油彩・カンヴァス / 外洋197
28. セルジュ・ポリアコフ《コンポジション》/ 1959年 / 油彩・カンヴァス / 外洋215

**エントランス / 階段**

29. クリスチャン・ダニエル・ラウホ《勝利の女神》/ 大理石 / 外彫81
30. アリスティド・マイヨール《欲望》/ 1905-08年 / ブロンズ / 外彫66

**彫刻ギャラリー 1**

31. オーギュスト・ロダン《立てるフォーネス》/ 1884年頃 / 大理石 / 外彫40
32. オーギュスト・ロダン《考える人》/ 1902年頃 / ブロンズ / 外彫39
33. オーギュスト・ロダン《青銅時代》/ 1904年 / ブロンズ / 外彫38
34. エミール=アントワーヌ・ブールデル《風の中のベートーヴェン》/ 1904-08年 / ブロンズ / 外彫43
35. エミール=アントワーヌ・ブールデル《ペネロープ》/ 1909年 / ブロンズ / 外彫45
36. エミール=アントワーヌ・ブールデル《弓をひくヘラクレス》/ 1909年 / ブロンズ / 外彫46
37. シャルル・デスピオ《アントワネットの顔》/ 1918年 / ブロンズ / 外彫48
38. シャルル・デスピオ《クラ=クラ》/ 1919年 / ブロンズ / 外彫49

**彫刻ギャラリー 2**

39. コンスタンティン・ブランクーシ《接吻》/ 1907-10年 / 石膏 / 外彫100
40. アレキサンダー・アーキペンコ《ゴンドラの船頭》/ 1914年 / ブロンズ / 外彫86
41. オシップ・ザツキン《母子》/ 1919年 / 着色されたセメント / 外彫54
42. オシップ・ザツキン《三美神》/ 1950年 / ブロンズ / 外彫56
43. オシップ・ザツキン《ポモナ（トルソ）》/ 1951年 / 黒檀 / 外彫55
44. マリノ・マリーニ《騎手》/ 1952年 / ブロンズ / 外彫70
45. マリノ・マリーニ《騎士のための構想（習作）》/ 1955年 / ブロンズ / 外彫102
46. ペリクレ・ファッツィーニ《爽風（B）》/ 1972-73年 / ブロンズ / 外彫88

**第3室　古代美術**

47. シュメール《女の胸像》/ 紀元前24世紀 / 閃緑石 / 外彫1
48. パルミュラ《人物像》/ 1-2世紀 / 石灰岩 / 外彫27
49. エジプト《セクメト神像》/ 紀元前14世紀 / 黒花崗岩/ 外彫64
50. エジプト レリーフ断片《柘榴と葡萄》/ 紀元前1360年 / 石灰岩、彩色 / 外彫95
51. エジプト レリーフ断片《アヌビス神礼拝図》/ 紀元前13世紀 / 砂岩 / 外彫7
52. エジプト レリーフ断片《神牛》/ 紀元前1300-1200年 / 石 / 外彫8
53. エジプト《彩色木棺》/ 紀元前13世紀 / 木 / 外彫67
54. エジプト《ホルス神浮彫》/ 紀元前1000-350年 / 大理石 / 外彫5
55. エジプト《聖猫》/ 紀元前950-660年 / ブロンズ / 外彫90

56. ギリシア《獅子頭部》/ 紀元前5世紀 / 大理石 / 外彫13
57. ギリシア《哲人の顔》/ 紀元前４世紀 / 大理石 / 外彫15
58. ギリシア《ヴィーナス》/ ヘレニスティック期（紀元前323-30年）/ 大理石 / 外彫14
59. グレコ=ローマン《アテナ頭部》/ 大理石 / 外彫79
60.「ルクスス・グループ」(?) コリントス球形アリュバロス《鷲と鶏図》/ 紀元前610-590年 / 陶器182
61.「ブーローニュ 441の画家」アッティカ黒絵式頸部アンフォラ《ヘラクレスとケルベロス図》/ 紀元前520-510年 / 陶器197
62.「ヴュルツブルク346のクラス」アッティカ黒絵式オイノコエ《デュオニュソスとマイナス図》/ 紀元前500年頃 / 陶器76
63.「アテネ581 iiクラス」、「Pグループ」(?) アッティカ黒絵式レキュトス《ディオニュソス，サテュロスとマイナス図》/ 紀元前490-480年 / 陶器67
64.「アテネ581 iクラス」、「アゴラP24381グループ」(?) アッティカ黒絵式レキュトス《ディオニュソスとアリアドネ図》/ 紀元前490-480年 / 陶器66
65.「アテネ581 vクラス」、「カリンデル・グループ」アッティカ黒絵式レキュトス《ディオニュソスとマイナス図》/ 紀元前490-480年 / 陶器68
66.「ヴェイイの画家」周辺 アッティカ赤絵式キュリクス《サテュロス図》/ 紀元前5世紀中頃 / 陶器89
67.「葦の画家」アッティカ白地レキュトス《墓参図》/ 紀元前5世紀第4四半期 / 陶器71
68.「アクロポリス670の画家」(?) アッティカ赤絵式レベス・ガミコス《ニケと女性図》/ 紀元前4世紀第1四半期 / 陶器91
69.「ラゲット=カイヴァノ=エレッタ・グループ」カンパニア赤絵式魚文皿 / 紀元前4世紀第2四半期 / 陶器42
70.「ラゲットの画家」カンパニア赤絵式ヒュドリア《ディオスクーロイ図》/ 紀元前350年頃 / 陶器87
71.「BM. F223の画家」カンパニア赤絵式ヒュドリア《エロス図》/ 紀元前4世紀第3四半期 / 陶器88
72.「オスロ・グループ」アプリア赤絵式柱形把手クラテル《男女図》/ 紀元前330年頃 / 陶器92
73. エトルリア建築装飾フリーズ部分、《泉水に向う二頭の馬》/ 紀元前550-540年 / 彩色テラコッタ / 外彫92
74. ローマ《ヴィーナスの頭部》/ 大理石 / 外彫23
75. ローマ モザイク断片《牧神頭部》/ 1世紀 / 陶器114
76. ヘルクラネウム 壁画断片《ディオニュソス図》/ 1世紀 / フレスコ / 外洋2

**第1室　印象派の誕生**

77. カミーユ・コロー《イタリアの女》/ 1826-28年 / 油彩・カンヴァス / 外洋6
78. カミーユ・コロー《ヴィル・ダヴレー》/ 1835-40年 / 油彩・カンヴァス / 外洋7
79. カミーユ・コロー《オンフルールのトゥータン農場》/ 1845年頃 / 油彩・カンヴァス / 外洋8
80. オノレ・ドーミエ《山中のドン・キホーテ》/ 1850年頃 / 油彩・板 / 外洋171
81. オノレ・ドーミエ《ラタポワール》/ 1850年頃 / ブロンズ / 外彫91
82. ジャン=フランソワ・ミレー《乳しぼりの女》/ 1854-60年 / 油彩・カンヴァス / 外洋119
83. シャルル=フランソワ・ドービニー《レ・サーブル=ドロンヌ》/ 油彩・板 / 外洋10
84. ギュスターヴ・クールベ《雪の中を駆ける鹿》/ 1856-57年頃 / 油彩・カンヴァス / 外洋170
85. ギュスターヴ・クールベ《石切り場の雪景色》/ 1870年頃 / 油彩・カンヴァス / 外洋11
86. カミーユ・ピサロ《ブージヴァルのセーヌ河》/ 1870年 / 油彩・カンヴァス / 外洋19
87. カミーユ・ピサロ《菜園》/ 1878年 / 油彩・カンヴァス / 外洋20
88. アルフレッド・シスレー《森へ行く女たち》/ 1866年 / 油彩・カンヴァス / 外洋25
89. アルフレッド・シスレー《サン=マメス六月の朝》/ 1884年 / 油彩・カンヴァス / 外洋26

**第4室　印象派の誕生**

90. ウジェーヌ・ブーダン《トルーヴィル近郊の浜》/ 1865年頃 / 油彩・板 / 外洋172
91. エドゥアール・マネ《オペラ座の仮装舞踏会》/ 1873年 / 油彩・カンヴァス / 外洋14
92. エドガー・ドガ《レオポール・ルヴェールの肖像》/ 1874年頃 / 油彩・カンヴァス / 外洋162
93. エドガー・ドガ《右足で立ち、右手を地面にのばしたアラベスク》/ 1882-95年 / ブロンズ / 外彫76
94. クロード・モネ《アルジャントゥイユの洪水》/ 1872-73年 / 油彩・カンヴァス / 外洋21
95. クロード・モネ《アルジャントゥイユ》/ 1874年 / 油彩・カンヴァス / 外洋180
96. クロード・モネ《雨のベリール》/ 1886年 / 油彩・カンヴァス / 外洋164
97. クロード・モネ《睡蓮》/ 1903年 / 油彩・カンヴァス / 外洋22
98. クロード・モネ《睡蓮の池》/ 1907年 / 油彩・カンヴァス / 外洋23
99. クロード・モネ《黄昏、ヴェネツィア》/ 1908年頃 / 油彩・カンヴァス / 外洋24
100. ピエール=オーギュスト・ルノワール《すわるジョルジェット・シャルパンティエ嬢》/ 1876年 / 油彩・カンヴァス / 外洋169
101. ピエール=オーギュスト・ルノワール《カーニュのテラス》/ 1905年 / 油彩・カンヴァス / 外洋33
102. ピエール=オーギュスト・ルノワール《すわる水浴の女》/ 1914年 / 油彩・カンヴァス / 外洋34
103. ピエール=オーギュスト・ルノワール《花のついた帽子の女》/ 1917年 / 油彩・カンヴァス / 外洋35
104. ギュスターヴ・カイユボット《ピアノを弾く若い男》/ 1876年 / 油彩・カンヴァス / 外洋229

**第5室　印象派を乗り越えて**

105. アドルフ・モンティセリ《庭園の貴婦人》/ 1870-80年 / 油彩・板 / 外洋13
106. ポール・セザンヌ《鉢と牛乳入れ》/ 1873-77年頃 / 油彩・カンヴァス / 外洋28
107. ポール・セザンヌ《帽子をかぶった自画像》/ 1890-94年頃 / 油彩・カンヴァス / 外洋31
108. オディロン・ルドン《神秘の語らい》/ 油彩・カンヴァス / 外洋178
109. オディロン・ルドン《供物》/ 油彩・厚紙 / 外洋179
110. アンリ・ルソー《イヴリー河岸》/ 1907年頃 / 油彩・カンヴァス / 外洋43
111. アンリ・ルソー《牧場》/ 1910年 / 油彩・カンヴァス / 外洋42
112. ポール・ゴーガン《ポン=タヴェン付近の風景》/ 1888年 / 油彩・カンヴァス / 外洋37
113. フィンセント・ファン・ゴッホ《モンマルトルの風車》/ 1886年 / 油彩・カンヴァス / 外洋122
114. アンリ・ド・トゥールーズ=ロートレック《サーカスの舞台裏》/ 1887年頃 / 油彩・カンヴァス / 外洋227
115. ピエール・ボナール《海岸》/ 1920年 / 油彩・カンヴァス / 外洋53
116. ピエール・ボナール《桃》/ 1920年 / 油彩・カンヴァス / 外洋52
117. ピエール・ボナール《ヴェルノン付近の風景》/ 1929年 / 油彩・カンヴァス / 外洋54
118. モーリス・ドニ《バッカス祭》/ 1920年 / 油彩・カンヴァス / 外洋65

**第6室　20世紀美術の広がりⅠ—マティスとフォーヴィスム**

119. アンリ・マティス《画室の裸婦》/ 1899年 / 油彩・紙 / 外洋56
120. アンリ・マティス《縞ジャケット》/ 1914年 / 油彩・カンヴァス / 外洋57
121. アンリ・マティス《両腕をあげたオダリスク》/ 1921年 / 油彩・カンヴァスボード / 外洋59
122. アンリ・マティス《ルー川のほとり》/ 1925年 / 油彩・カンヴァス / 外洋117
123. アンリ・マティス《青い胴着の女》/ 1935年 / 油彩・カンヴァス / 外洋62
124. ジョルジュ・ルオー《風景》/ 1913年 / 水彩・紙 / 外洋63
125. ジョルジュ・ルオー《郊外のキリスト》/ 1920-24年 / 油彩・紙 / 外洋142
126. ジョルジュ・ルオー《ピエロ》/ 1925年 / 油彩・紙 / 外洋64
127. アルベール・マルケ《道行く人、ラ・フレット》/ 1946年 / 油彩・カンヴァス / 外洋181
128. モーリス・ド・ヴラマンク《運河船》/ 1905-06年 / 油彩・カンヴァス / 外洋69

129. アンドレ・ドラン《聖母子》/ 1913年頃 / 油彩・板 / 外洋71

**第7室　日本の近代洋画Ⅰ**

130. 浅井忠《グレーの洗濯場》/ 1901年 / 油彩・カンヴァス / 日洋290
131. 浅井忠《縫物》/ 1902年 / 油彩・カンヴァス / 日洋4
132. 黒田清輝《ブレハの少女》/ 1891年 / 油彩・カンヴァス / 日洋8
133. 藤島武二《黒扇》/ 1908-09年 / 油彩・カンヴァス / 日洋26
134. 藤島武二《淡路島遠望》/ 1929年 / 油彩・カンヴァス / 日洋47
135. 藤島武二《潮岬海景》/ 1931年 / 油彩・板 / 日洋240
136. 藤島武二《港の朝陽》/ 1943年 / 油彩・板 / 日洋59
137. 岡田三郎助《婦人像》/ 1907年 / 油彩・カンヴァス / 日洋60
138. 青木繁《天平時代》/ 1904年 / 油彩・カンヴァス / 日洋91
139. 山下新太郎《供物》/ 1915年 / 油彩・カンヴァス / 日洋84

**第8室　日本の近代洋画Ⅱ**

140. 藤田嗣治《巴里風景》/ 1918年 / 油彩・カンヴァス / 日洋123
141. 中村彝《自画像》/ 1909年 / 油彩・カンヴァス / 日洋141
142. 小出楢重《帽子をかぶった自画像》/ 1924年 / 油彩・カンヴァス / 日洋137
143. 小出楢重《横たわる裸身》/ 1930年 / 油彩・カンヴァス / 日洋140
144. 安井曾太郎《桜》/ 1946年 / 油彩・カンヴァス / 日洋145
145. 梅原龍三郎《ナポリよりソレントを望む》/ 1921年 / 油彩・カンヴァス / 日洋271
146. 梅原龍三郎《椿》/ 1944年 / 油彩（岩絵具併用）・紙 / 日洋72
147. 梅原龍三郎《ノートルダム》/ 1965年 / 油彩・金箔押しした羊皮紙 / 日洋191
148. 岸田劉生《街道（銀座風景）》/ 1911年頃 / 油彩・カンヴァス / 日洋228
149. 岸田劉生《南瓜を持てる女》/ 1914年 / 油彩・カンヴァス / 日洋293
150. 関根正二《子供》/ 1919年 / 油彩・カンヴァス / 日洋178
151. 岡鹿之助《セーヌ河畔》/ 1927年 / 油彩・カンヴァス / 日洋583
152. 岡鹿之助《望楼》/ 1960年 / 油彩・カンヴァス / 日洋299

**第9室　20世紀美術の広がりⅡ—ピカソとキュビスム～シュルレアリスム**

153. ラウル・デュフィ《静物》/ 1915-20年頃 / 油彩・カンヴァス / 外洋73
154. ラウル・デュフィ《オーケストラ》/ 1942年 / 油彩・カンヴァス / 外洋123
155. パブロ・ピカソ《道化師》/ 1905年 / ブロンズ / 外彫61
156. パブロ・ピカソ《ブルゴーニュのマール瓶、グラス、新聞紙》/ 1913年 / 油彩、砂、新聞紙・カンヴァス / 外洋173
157. パブロ・ピカソ《生木と枯木のある風景》/ 1919年 / 油彩・カンヴァス / 外洋143
158. パブロ・ピカソ《腕を組んですわるサルタンバンク》/ 1923年 / 油彩・カンヴァス / 外洋160
159. パブロ・ピカソ《女の顔》/ 1923年 / 油彩、砂・カンヴァス / 外洋84
160. パブロ・ピカソ《茄子》/ 1946年 / 油彩、グワッシュ・紙 / 外洋85
161. ジョルジュ・ブラック《梨と桃》/ 1924年 / 油彩・板 / 外洋86
162. モーリス・ユトリロ《サン=ドニ運河》/ 1906-08年 / 油彩・紙 / 外洋77
163. マリー・ローランサン《二人の少女》/ 1923年 / 油彩・カンヴァス / 外洋72
164. アメデオ・モディリアーニ《若い農夫》/ 1918年頃 / 油彩・カンヴァス / 外洋115
165. ジョルジョ・デ・キリコ《吟遊詩人》/ 油彩・カンヴァス / 外洋91
166. カイム・スーティン《大きな樹のある南仏風景》/ 1924年 / 油彩・紙 / 外洋114
167. アルベルト・ジャコメッティ《ディエゴの胸像》/ 1954-55年 / ブロンズ / 外彫75

**第10室　抽象への道**

168. フェルナン・レジェ《抽象的コンポジション》/ 1919年 / 油彩・カンヴァス / 外洋219
169. ジャン・デュビュッフェ《スカーフを巻くエディット・ボワソナス》/ 1947年 / 油彩・紙 / 外洋192
170. ジャン・デュビュッフェ《暴動》/ 1961年 / 油彩・カンヴァス / 外洋193
171. 斎藤義重《WORK》/ 1961年 / 油彩・合板 / 日洋578
172. 斎藤義重《作品》/ 1965年 / 油彩・合板 / 日洋527
173. ジャクソン・ポロック《Number 2, 1951》/ 1951年 / 油彩・カンヴァス / 外洋209
174. 菅井汲《赤い鬼》/ 1954年 / 油彩・カンヴァス / 日洋579
175. 菅井汲《OKA》/ 1961年 / 油彩・カンヴァス / 日洋526
176. 白髪一雄《観音普陀落浄土》/ 1972年 / 油彩・カンヴァス / 日洋544
177. ピエール・アレシンスキー《田園の一隅》/ 1951年 / 油彩・カンヴァス / 外洋99
178. 堂本尚郎《連続の溶解9》/ 1964年 / 油彩、アクリル・カンヴァス / 日洋530
179. 田中敦子《無題》/ 1965年 / エナメル塗料・カンヴァス / 日洋566

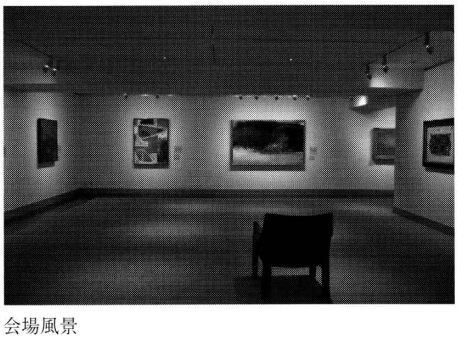
＊所蔵はすべてブリヂストン美術館。

**広報記録：**

新聞・雑誌：
「Culture・ブリヂストン美術館コレクション展―印象派から抽象絵画まで『筆あとの魅力―点・線・面』」『ニュートップリーダー』2013年1月1日号、p.95
「日本有数の西洋美術コレクション ブリヂストン美術館」『西多摩新聞』2013年1月18日
「美術・筆あとの魅力～点・線・面」『定年時代』2013年1月下旬号
蒔苗沙都子「美博ピックアップ・筆あとの魅力―点・線・面」『朝日新聞』2013年2月6日夕刊
細矢芳「ぎゃらりいモール」『読売新聞』2013年2月19日夕刊
「3つのコレクションで楽しむルノワールとモネ」『eclat』2013年3月号、p.173
山内昊子「Art・筆あとの魅力―点・線・面」
『STORY』2013年3月号、p.280

エントランス

会場風景


会場風景

## Paris、パリ、巴里—日本人が描く1900－1945〈テーマ展示〉

会期：2013年3月23日(土)－6月9日(日)
会場：第1－2室
主催：石橋財団ブリヂストン美術館
概要：20世紀前半にフランスの首都パリを訪れた日本人洋画家にとっての、パリの意味を探るもの。石橋財団所蔵作品から35点、他館から5点を借用し、2章で構成。第1章は、「パリ万博から第一次世界大戦まで1900－1914」で13点（第1室）、第2章が「黄金の1920年代と両大戦間期1918－1945」で27点（第2室）。パリで洋画家たちが学習し達成していった成果、パリに身を置くことによって再発見していったアイデンティティ、西洋文化との出会いによる化学変化によって創りだされた新しいスタイルを紹介した。
出品内容：油彩40点
入場者総数：33,590人(1日平均487人)

展覧会チラシ

**出品目録：**

**第1章　パリ万博から第一次世界大戦まで1900－1914**

1. 黒田清輝《ブレハの少女》/ 1891年 / 油彩・カンヴァス / 日洋8
2. 浅井忠《樹下の女》/ 1901年頃 / 油彩・カンヴァス / 日洋291 / IMA
3. 浅井忠《グレーの洗濯場》/ 1901年 / 油彩・カンヴァス / 日洋290
4. 浅井忠《縫物》/ 1902年 / 油彩・カンヴァス / 日洋4
5. 浅井忠《読書》/ 1902年 / 油彩・カンヴァス / 東京国立博物館
6. 和田英作《読書》/ 1902年 / 油彩・カンヴァス / 日洋64 / IMA
7. 岡田三郎助《臥裸婦》/ 1901年 / 油彩・カンヴァス / 日洋230
8. 藤島武二《ヴェルサイユ風景》/ 1906-07年頃 / 油彩・カンヴァス / 日洋21 / IMA
9. 山下新太郎《読書》/ 1908年 / 油彩・カンヴァス / 日洋83
10. 山下新太郎《供物》/ 1915年 / 油彩・カンヴァス / 日洋84
11. 梅原龍三郎《脱衣婦》/ 1912年 / 油彩・カンヴァス / 日洋200
12. 満谷国四郎《坐婦》/ 1913年 / 油彩・カンヴァス / 日洋67 / IMA
13. 安井曾太郎《水浴裸婦》/ 1914年 / 油彩・カンヴァス / 日洋142 / IMA

**第2章　黄金の1920年代と両大戦間期1918－1945**

14. 藤田嗣治《巴里風景》/ 1918年 / 油彩・カンヴァス / 日洋123
15. 藤田嗣治《インク壺の静物》/ 1926年 / 油彩・カンヴァス / 日洋124
16. 藤田嗣治《横たわる女と猫》/ 1932年 / 油彩・カンヴァス / 日洋215 / IMA
17. 藤田嗣治《猫のいる静物》/ 1939-40年 / 油彩・カンヴァス / 日洋131
18. 藤田嗣治《ドルドーニュの家》/ 1940年 / 油彩・カンヴァス / 日洋132
19. 藤田嗣治《カルポーの公園》/ 1940年 / 油彩・カンヴァス / 日洋133 / IMA
20. 辻永《春（パリ郊外）》/ 1921年 / 油彩・カンヴァス / 日洋117 / IMA
21. 辻永《フォントネ=オ=ローズの春》/ 1921年 / 油彩・カンヴァス / 日洋118 / IMA
22. 小出楢重《パリ・ソンムラールの宿にて》/ 1922年 / 油彩・カンヴァス / 三重県立美術館

23. 小出楢重《帽子をかぶった自画像》/ 1924年 / 油彩・カンヴァス / 日洋137
24. 坂本繁二郎《パリ郊外》/ 1923年 / 油彩・カンヴァス / 日洋192 / IMA
25. 坂本繁二郎《ヴァンヌ郊外》/ 1923年 / 油彩・カンヴァス / 京都国立近代美術館
26. 坂本繁二郎《帽子を持てる女》/ 1923年 / 油彩・カンヴァス / 日洋195
27. 坂本繁二郎《少女》/ 1922年 / 油彩・カンヴァス / 日洋111 / IMA
28. 坂本繁二郎《読書の女》/ 1923年 / 油彩・カンヴァス / 日洋112 / IMA
29. 遠山五郎《婦人読書図》/ 1922年 / 油彩・カンヴァス / 日洋146 / IMA
30. 林倭衛《フランス風景》/ 1924-25年頃 / 油彩・カンヴァス / 日洋171 / IMA
31. 佐伯祐三《コルドヌリ（靴屋）》/ 1925年 / 油彩・カンヴァス / 日洋173 / IMA
32. 佐伯祐三《休息（鉄道工夫）》/ 1927年頃 / 油彩・カンヴァス / 日洋188 / IMA
33. 佐伯祐三《広告貼り》/ 1927年 / 油彩・カンヴァス / 日洋176 / IMA
34. 佐伯祐三《レストラン（オテル・デュ・マルシェ）》/ 1927年 / 油彩・カンヴァス / 大阪市立近代美術館建設準備室
35. 佐伯祐三《テラスの広告》/ 1927年 / 油彩・カンヴァス / 日洋174
36. 佐伯祐三《ガラージュ》/ 1927-28年 / 油彩・カンヴァス / 日洋175
37. 岡鹿之助《セーヌ河畔》/ 1927年 / 油彩・カンヴァス / 日洋583
38. 岡鹿之助《魚》/ 1927年 / 油彩・カンヴァス / 名古屋市美術館
39. 児島善三郎《立つ》/ 1928年 / 油彩・カンヴァス / 日洋495 / IMA
40. 伊原宇三郎《椅子によれる》/ 1929年 / 油彩・カンヴァス / 日洋277 / IMA

＊IMAは石橋美術館、所蔵表記のないものはブリヂストン美術館の所蔵であることを示す。

**関連事業：**

土曜講座「巴里の日本人ものがたり」 → p.49
ギャラリートーク

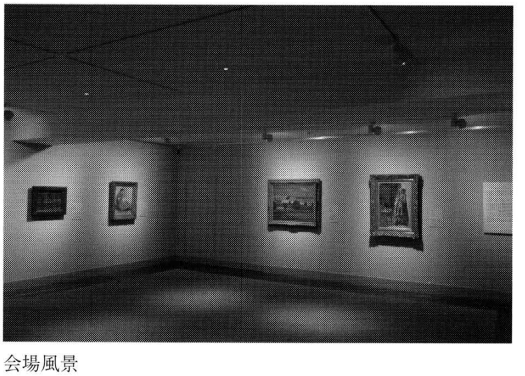
**広報記録：**

新聞・雑誌：
貝塚健「日本人洋画家にとってのパリとはなにか」『美術の窓』2013年2月号、p.61
"ART OPENINGS 'Through Japanese Eyes: Paris, 1900-1945'", *The Japan Times*, March 28, 2013
「遊ナビ・Paris、パリ、巴里—日本人が描く1900－1945」『毎日新聞』2013年3月29日
赤坂英人「近代の日本人にとっての、聖地「パリ」の意味とは。『Paris、パリ、巴里—日本人が描く1900－1945』」『Pen』2013年4月1日号、p.217
岸桂子「アート小路・テーマ展示「Paris、パリ、巴里」 期待外れも自身の糧に」『毎日新聞』2013年4月8日夕刊
貝塚健「画家に成りきることを支えた「パリ」」『新美術新聞』2013年4月11日号
"Through Japanese Eyes: Paris, 1900-1945" *METROPOLICE*, April 12, 2014, p.14
増田愛子「エコール・ド・パリの寵児の軌跡　藤田嗣治、西欧で生き抜く」『朝日新聞』2013年5月29日夕刊
貝塚健「Paris、パリ、巴里—日本人が描く1900－1945」『月刊展覧会ガイド』2013年5月号、p.9
白坂ゆり「日本人洋画家にとってパリとはなんだったのか？」『美術手帖』2013年5月号、pp.140-141
貝塚健「ブリヂストン美術館」『江戸楽』2013年5月号、p.14
林綾野「和と洋の『アート』にひたる、鑑賞ガイド」『Precious』2013年5月号、pp.226-227

テレビ・ラジオ：
「RENDEZ-VOUS」（FIND TOMORROW）J-WAVE、2013年4月3日放送
「日曜美術館」（アートシーン）NHK　Eテレ、2013年4月14日放映

WEB：
「ショコラ」Podcast インタビュー：貝塚健　2013年3月23日～配信
http://fr-chocolat.com/podcast-chocolat/841-334-peintre-et-architecte
貝塚健「画家に成りきることを支えた「パリ」」Art Annual online、http://www.art-annual.jp/news-exhibition/exhibition/17141/
DJAIKO62's blog 「ブリヂストン美術館　Paris、パリ、巴里―日本人が描く1900－1945」ELLE ONLINE
http://blogs.elle.co.jp/djaiko62/2013/04/

会場風景


会場風景

会場風景

## 色を見る、色を楽しむ。—ルドンの『夢想』、マティスの『ジャズ』…〈コレクション展示〉

会期：2013年6月22日(土)－9月18日(水)
会場：第1－10室、彫刻ギャラリー1、2
主催：石橋財団ブリヂストン美術館
概要：ルノワールやボナール、マティスのように「色彩画家」と呼ばれる画家たちがいる一方、ルドンのように白と黒のモノクロの世界を好んだ画家もいる。本展は、「色を見る、色を楽しむ。」をキーワードに、ブリヂストン美術館の幅広いコレクションを楽しんでもらう内容とした。各展示室に1～2枚（全12枚）の解説パネルを設置し、色や顔料にまつわるエピソードを伝えた。本展との併設というかたちで、2013年4月に逝去されたザオ・ウーキーの追悼展を第10室で開催した。
出品内容：絵画131点、彫刻34点、陶器14点　計179点
入場者総数：44,530人（1日平均571人）

展覧会チラシ

**出品目録：**

**エントランス / 階段**

1. クリスチャン・ダニエル・ラウホ《勝利の女神》/ 大理石 / 外彫81
2. アリスティド・マイヨール《欲望》/ 1905-08年 / ブロンズ / 外彫66

**彫刻ギャラリー1**

3. オーギュスト・ロダン《立てるフォーネス》/ 1884年頃 / 大理石 / 外彫40
4. オーギュスト・ロダン《考える人》/ 1902年頃 / ブロンズ / 外彫39
5. オーギュスト・ロダン《青銅時代》/ 1904年 / ブロンズ / 外彫38
6. エミール=アントワーヌ・ブールデル《風の中のベートーヴェン》/ 1904-08年 / ブロンズ / 外彫43
7. エミール=アントワーヌ・ブールデル《ペネロープ》/ 1909年 / ブロンズ / 外彫45
8. エミール=アントワーヌ・ブールデル《弓をひくヘラクレス》/ 1909年 / ブロンズ / 外彫46
9. シャルル・デスピオ《アントワネットの顔》/ 1918年 / ブロンズ / 外彫48
10. シャルル・デスピオ《クラ=クラ》/ 1919年 / ブロンズ / 外彫49

**彫刻ギャラリー2**

11. コンスタンティン・ブランクーシ《接吻》/ 1907-10年 / 石膏 / 外彫100
12. アレキサンダー・アーキペンコ《ゴンドラの船頭》/ 1914年 / ブロンズ / 外彫86
13. オシップ・ザツキン《母子》/ 1919年 / 着色されたセメント / 外彫54
14. オシップ・ザツキン《三美神》/ 1950年 / ブロンズ / 外彫56
15. オシップ・ザツキン《ポモナ（トルソ）》/ 1951年 / 黒檀 / 外彫55
16. ヘンリー・ムア《横たわる人体》/ 1976年 / ブロンズ / 外彫89
17. マリノ・マリーニ《騎手》/ 1952年 / ブロンズ / 外彫70
18. ペリクレ・ファッツィーニ《爽風（B）》/ 1972-73年 / ブロンズ / 外彫88

**第3室　古代美術**

19. シュメール《女の胸像》/ 紀元前24世紀 / 閃緑石 / 外彫1
20. パルミュラ《人物像》/ 1-2世紀 / 石灰岩 / 外彫27
21. エジプト《セクメト神像》/ 紀元前14世紀 / 黒花崗岩 / 外彫64
22. エジプト　アマルナ・レリーフ断片《柘榴と葡萄》/ 紀元前1360年 / 石灰岩、彩色 / 外彫95
23. エジプト　レリーフ断片《アヌビス神礼拝図》/ 紀元前13世紀 / 砂岩 / 外彫7
24. エジプト　レリーフ断片《神牛》/ 紀元前1300-1200年 / 石 / 外彫8
25. エジプト《彩色木棺》/ 紀元前13世紀 / 木 / 外彫67
26. エジプト《ホルス神浮彫》/ 紀元前1000-350年 / 大理石 / 外彫5
27. エジプト《聖猫》/ 紀元前950-660年 / ブロンズ / 外彫90
28. ギリシア《獅子頭部》/ 紀元前5世紀 / 大理石 / 外彫13
29. ギリシア《哲人の顔》/ 紀元前4世紀 / 大理石 / 外彫15
30. ギリシア《ヴィーナス》/ ヘレニスティック期（紀元前323-30年）/ 大理石 / 外彫14
31. グレコ=ローマン《アテナ頭部》/ 大理石 / 外彫79
32. コリントス球形アリュバロス「ルクスス・グループ」(?)《鷲と鶏図》/ 紀元前610-590年 / 陶器182
33. アッティカ黒絵式頸部アンフォラ「ブーローニュ441の画家」《ヘラクレスとケルベロス図》/ 紀元前520-510年 / 陶器197
34. アッティカ黒絵式オイノコエ《デュオニュソスとマイナス図》/ 紀元前500年頃 / 陶器76
35. アッティカ黒絵式レキュトス《ディオニュソス、サテュロスとマイナス図》/ 紀元前490-480年 / 陶器67
36. アッティカ黒絵式レキュトス《ディオニュソスとアリアドネ図》/ 紀元前490-480年 / 陶器66
37. アッティカ黒絵式レキュトス《ディオニュソスとマイナス図》/ 紀元前490-480年 / 陶器68
38. アッティカ赤絵式キュリクス《サテュロス図》/ 紀元前5世紀中頃 / 陶器89
39. アッティカ白地レキュトス《墓参図》/ 紀元前5世紀第4四半期 / 陶器71
40. アッティカ赤絵式レベス・ガミコス《ニケと女性図》/ 紀元前4世紀第1四半期 / 陶器91
41. 《カンパニア赤絵式魚文皿》/ 紀元前4世紀第2四半期 / 陶器42
42. カンパニア赤絵式ヒュドリア「ラゲットの画家」《ディオスクーロイ図》/ 紀元前350年頃 / 陶器87
43. カンパニア赤絵式ヒュドリア《エロス図》/ 紀元前4世紀第3四半期 / 陶器88
44. アプリア赤絵式柱形把手クラテル《男女図》/ 紀元前330年頃 / 陶器92
45. エトルリア《建築装飾フリーズ部分、泉水に向う二頭の馬》/ 紀元前550-540年 / 彩色テラコッタ / 外彫92
46. ローマ《ヴィーナスの頭部》/ 大理石 / 外彫23
47. ローマ　モザイク断片《牧神頭部》/ 1世紀 / 陶器114
48. ヘルクラネウム　壁画断片《ディオニュソス図》/ 1世紀 / フレスコ / 外洋2

**第1室　印象派以前**

49. アントニー・ヤンスゾーン・ファン・デル・クロース《レイスウェイク城》/ 油彩・板 / 外洋4
50. レンブラント・ファン・レイン《聖書あるいは物語に取材した夜の情景》/ 1626-28年 / 油彩・銅板 / 外洋5
51. グレゴリオ・ラッザリーニ《黄金の子牛の礼拝》/ 1700-07年頃 / 油彩・カンヴァス / 外洋127
52. ジャン=バティスト・パテル《水浴》/ 油彩・カンヴァス / 外洋175
53. ジャン=オーギュスト=ドミニク・アングル《若い女の頭部》/ 油彩・カンヴァス / 外洋161
54. カミーユ・コロー《イタリアの女》/ 1826-28年 / 油彩・カンヴァス / 外洋6
55. カミーユ・コロー《ヴィル・ダヴレー》/ 1835-40年 / 油彩・カンヴァス / 外洋7
56. カミーユ・コロー《オンフルールのトゥータン農場》/ 1845年頃 / 油彩・カンヴァス / 外洋8
57. カミーユ・コロー《森の中の若い女》/ 1865年 / 油彩・板 / 外洋159

58. オノレ・ドーミエ《山中のドン・キホーテ》/ 1850年頃 / 油彩・板 / 外洋171
59. ジャン=フランソワ・ミレー《乳しぼりの女》/ 1854-60年 / 油彩・カンヴァス / 外洋119
60. ギュスターヴ・クールベ《雪の中を駆ける鹿》/ 1856-57年頃 / 油彩・カンヴァス / 外洋170

**第4室　印象派**

61. コンスタンタン・ギース《酒場》/ 水彩・紙 / 外洋12
62. カミーユ・ピサロ《ブージヴァルのセーヌ河》/ 1870年 / 油彩・カンヴァス / 外洋19
63. カミーユ・ピサロ《菜園》/ 1878年 / 油彩・カンヴァス / 外洋20
64. エドゥアール・マネ《裸婦》/ チョーク（黒 / 赤）・紙 / 外洋131
65. エドゥアール・マネ《オペラ座の仮装舞踏会》/ 1873年 / 油彩・カンヴァス / 外洋14
66. エドゥアール・マネ《自画像》/ 1878-79年 / 油彩・カンヴァス / 外洋121
67. エドガー・ドガ《レオポール・ルヴェールの肖像》/ 1874年頃 / 油彩・カンヴァス / 外洋162
68. アルフレッド・シスレー《森へ行く女たち》/ 1866年 / 油彩・カンヴァス / 外洋25
69. アルフレッド・シスレー《サン=マメス六月の朝》/ 1884年 / 油彩・カンヴァス / 外洋26
70. ピエール=オーギュスト・ルノワール《すわるジョルジェット・シャルパンティエ嬢》/ 1876年 / 油彩・カンヴァス / 外洋169
71. ピエール=オーギュスト・ルノワール《カーニュのテラス》/ 1905年 / 油彩・カンヴァス / 外洋33
72. ギュスターヴ・カイユボット《ピアノを弾く若い男》/ 1876年 / 油彩・カンヴァス / 外洋229
73. フィンセント・ファン・ゴッホ《モンマルトルの風車》/ 1886年 / 油彩・カンヴァス / 外洋122
74. アンリ・ド・トゥールーズ=ロートレック《サーカスの舞台裏》/ 1887年頃 / 油彩・カンヴァス / 外洋227

**第5室　印象派とポスト印象派**

75. ポール・セザンヌ《鉢と牛乳入れ》/ 1873-77年頃 / 油彩・カンヴァス / 外洋28
76. ポール・セザンヌ《帽子をかぶった自画像》/ 1890-94年頃 / 油彩・カンヴァス / 外洋31
77. ポール・セザンヌ《サント=ヴィクトワール山とシャトー・ノワール》/ 1904-06年頃 / 油彩・カンヴァス / 外洋32
78. クロード・モネ《アルジャントゥイユの洪水》/ 1872-73年 / 油彩・カンヴァス / 外洋21
79. クロード・モネ《アルジャントゥイユ》/ 1874年 / 油彩・カンヴァス / 外洋180
80. クロード・モネ《雨のベリール》/ 1886年 / 油彩・カンヴァス / 外洋164
81. クロード・モネ《睡蓮の池》/ 1907年 / 油彩・カンヴァス / 外洋23
82. クロード・モネ《黄昏、ヴェネツィア》/ 1908年頃 / 油彩・カンヴァス / 外洋24
83. ポール・ゴーガン《馬の頭部のある静物》/ 1886年 / 油彩・カンヴァス / 外洋168
84. ポール・ゴーガン《ポン=タヴェン付近の風景》/ 1888年 / 油彩・カンヴァス / 外洋37
85. ポール・ゴーガン《乾草》/ 1889年 / 油彩・カンヴァス / 外洋38
86. ポール・シニャック《コンカルノー港》/ 1925年 / 油彩・カンヴァス / 外洋45
87. ポール・シニャック《プティ・タンドリー》/ 水彩、コンテ・紙 / 外洋174

**第6室　フォーヴィスム**

88. アンリ・ルソー《イヴリー河岸》/ 1907年頃 / 油彩・カンヴァス / 外洋43
89. アンリ・ルソー《牧場》/ 1910年 / 油彩・カンヴァス / 外洋42
90. ピエール・ボナール《灯下》/ 1899年 / 油彩・紙 / 外洋51
91. ピエール・ボナール《桃》/ 1920年 / 油彩・カンヴァス / 外洋52
92. ピエール・ボナール《ヴェルノン付近の風景》/ 1929年 / 油彩・カンヴァス / 外洋54
93. ジョルジュ・ルオー《郊外のキリスト》/ 1920-24年 / 油彩・紙 / 外洋142
94. ジョルジュ・ルオー《ピエロ》/ 1925年 / 油彩・紙 / 外洋64

95. モーリス・ド・ヴラマンク《風景》/ 水彩・紙 / 外洋70
96. モーリス・ド・ヴラマンク《運河船》/ 1905-06年 / 油彩・カンヴァス / 外洋69
97. アンドレ・デュノワイエ・ド・スゴンザック《風景》/ 水彩・紙 / 外洋88

**第7室　ルドン**

98. オディロン・ルドン《リトグラフ集『夢想（わが友アルマン・クラヴォーの想い出に）』表紙》/ 1891年 / リトグラフ / 外版434-1
99. オディロン・ルドン《リトグラフ集『夢想（わが友アルマン・クラヴォーの想い出に）』Ⅰそれは一枚の帳、ひとつの刻印であった》/ 1891年 / リトグラフ / 外版434-2
100. オディロン・ルドン《リトグラフ集『夢想（わが友アルマン・クラヴォーの想い出に）』Ⅱそして彼方には星の偶像、神格化》/ 1891年 / リトグラフ / 外版434-3
101. オディロン・ルドン《リトグラフ集『夢想（わが友アルマン・クラヴォーの想い出に）』Ⅲうつろいやすい光、無限に吊されたひとつの頭》/ 1891年 / リトグラフ / 外版434-4
102. オディロン・ルドン《リトグラフ集『夢想（わが友アルマン・クラヴォーの想い出に）』Ⅳかげった翼の下で、黒い存在が激しく噛みついていた》/ 1891年 / リトグラフ / 外版434-5
103. オディロン・ルドン《リトグラフ集『夢想（わが友アルマン・クラヴォーの想い出に）』Ⅴ月世界の巡礼》/ 1891年 / リトグラフ / 外版434-6
104. オディロン・ルドン《リトグラフ集『夢想（わが友アルマン・クラヴォーの想い出に）』Ⅵ日の光》/ 1891年 / リトグラフ / 外版434-7
105. オディロン・ルドン《神秘の語らい》/ 油彩・カンヴァス / 外洋178
106. オディロン・ルドン《供物》/ 油彩・厚紙 / 外洋179

**第8室　ピカソと20世紀美術**

107. パブロ・ピカソ《道化師》/ 1905年 / ブロンズ / 外彫61
108. パブロ・ピカソ《ブルゴーニュのマール瓶、グラス、新聞紙》/ 1913年 / 油彩、砂、新聞紙・カンヴァス / 外洋173
109. パブロ・ピカソ《生木と枯木のある風景》/ 1919年 / 油彩・カンヴァス / 外洋143
110. パブロ・ピカソ《カップとスプーン》/ 1922年 / 油彩・カンヴァス / 外洋83
111. パブロ・ピカソ《女の顔》/ 1923年 / 油彩、砂・カンヴァス / 外洋84
112. パブロ・ピカソ《腕を組んですわるサルタンバンク》/ 1923年 / 油彩・カンヴァス / 外洋160
113. パブロ・ピカソ《茄子》/ 1946年 / 油彩、グワッシュ・紙 / 外洋85
114. パブロ・ピカソ《画家とモデル》/ 1963年 / 油彩・カンヴァス / 外洋144
115. ジョルジュ・ブラック《梨と桃》/ 1924年 / 油彩・板 / 外洋86
116. マルク・シャガール《ヴァンスの新月》/ 1955-56年 / グワッシュ・紙 / 外洋90
117. ジョルジョ・デ・キリコ《吟遊詩人》/ 油彩・カンヴァス / 外洋91
118. ジョアン・ミロ《絵画》/ 1927年 / 油彩・カンヴァス / 外洋187

**第9室　マティス**

119. アンリ・マティス《画室の裸婦》/ 1899年 / 油彩・紙 / 外洋56
120. アンリ・マティス《コリウール》/ 1905年 / 油彩・厚紙 / 外洋141
121. アンリ・マティス《縞ジャケット》/ 1914年 / 油彩・カンヴァス / 外洋57
122. アンリ・マティス《両腕をあげたオダリスク》/ 1921年 / 油彩・カンヴァスボード / 外洋59
123. アンリ・マティス《樹間の憩い》/ 1923年 / 寄託作品
124. アンリ・マティス《ルー川のほとり》/ 1925年 / 油彩・カンヴァス / 外洋117
125. アンリ・マティス《青い胴着の女》/ 1935年 / 油彩・カンヴァス / 外洋62
126. アンリ・マティス《Ⅰ 道化師（『ジャズ』より）》/ 1947年 / ステンシル / 外版201-1

127. アンリ・マティス《Ⅱ サーカス（『ジャズ』より）》/ 1947年 / ステンシル / 外版201-2
128. アンリ・マティス《Ⅲ ロワイヤル氏（『ジャズ』より）》/ 1947年 / ステンシル / 外版201-3
129. アンリ・マティス《Ⅳ 白象の悪夢（『ジャズ』より）》/ 1947年 / ステンシル / 外版201-4
130. アンリ・マティス《Ⅴ 馬、曲馬師、道化師（『ジャズ』より）》/ 1947年 / ステンシル / 外版201-5
131. アンリ・マティス《Ⅵ 狼（『ジャズ』より）》/ 1947年 / ステンシル / 外版201-6
132. アンリ・マティス《Ⅶ ハート（『ジャズ』より）》/ 1947年 / ステンシル / 外版201-7
133. アンリ・マティス《Ⅷ イカルス（『ジャズ』より）》/ 1947年 / ステンシル / 外版201-8
134. アンリ・マティス《Ⅸ 形体（『ジャズ』より）》/ 1947年 / ステンシル / 外版201-9
135. アンリ・マティス《Ⅹ ピエロの葬式（『ジャズ』より）》/ 1947年 / ステンシル / 外版201-10
136. アンリ・マティス《Ⅺ コドマ兄弟（『ジャズ』より）》/ 1947年 / ステンシル / 外版201-11
137. アンリ・マティス《Ⅻ 水槽を泳ぐ女（『ジャズ』より）》/ 1947年 / ステンシル / 外版201-12
138. アンリ・マティス《XIII 剣を呑み込む男（『ジャズ』より）》/ 1947年 / ステンシル / 外版201-13
139. アンリ・マティス《XIV カウボーイ（『ジャズ』より）》/ 1947年 / ステンシル / 外版201-14
140. アンリ・マティス《XV ナイフ投げの男（『ジャズ』より）》/ 1947年 / ステンシル / 外版201-15
141. アンリ・マティス《XVI 運命（『ジャズ』より）》/ 1947年 / ステンシル / 外版201-16
142. アンリ・マティス《XVII 潟（『ジャズ』より）》/ 1947年 / ステンシル / 外版201-17
143. アンリ・マティス《XVIII 潟（『ジャズ』より）》/ 1947年 / ステンシル / 外版201-18
144. アンリ・マティス《XIX 潟（『ジャズ』より）》/ 1947年 / ステンシル / 外版201-19
145. アンリ・マティス《XX 橇（『ジャズ』より）》/ 1947年 / ステンシル / 外版201-20

**第10室　追悼　ザオ・ウーキー**

146. ザオ・ウーキー《21.Sep.50》/ 1950年 / 油彩・カンヴァスボード / 外洋194
147. ザオ・ウーキー《サヴァンナ（草原）》/ 1952年 / 水彩、インク・紙 / 外洋198
148. ザオ・ウーキー《鳥の飛翔》/ 1954年 / リトグラフ / 外洋279
149. ザオ・ウーキー《15.01.61》/ 1961年 / 油彩・カンヴァス / 外洋103
150. ザオ・ウーキー《24.02.70》/ 1970年 / 油彩・カンヴァス / 日洋156
151. ザオ・ウーキー《10.03.76》/ 1976年 / 油彩・カンヴァス / 外洋195
152. ザオ・ウーキー《無題》/ 1984年 / 墨・紙 / 外洋201
153. ザオ・ウーキー《07.06.85》/ 1985年 / 油彩・カンヴァス / 外洋197
154. ザオ・ウーキー《風景 2004》/ 2004年 / 油彩・カンヴァス / 日洋208

**第2室　日本の近代洋画**

155. 藤島武二《黒扇》/ 1908-09年 / 油彩・カンヴァス / 日洋26
156. 藤島武二《淡路島遠望》/ 1929年 / 油彩・カンヴァス / 日洋47
157. 藤島武二《東海旭光》/ 1932年 / 油彩・カンヴァス / 日洋51
158. 山下新太郎《供物》/ 1915年 / 油彩・カンヴァス / 日洋84
159. 青木繁《海景（布良の海）》/ 1904年 / 油彩・カンヴァス / 日洋100
160. 金山平三《雪丈余》/ 1934年頃 / 油彩・カンヴァス / 日洋220
161. 金山平三《雪の大石田》/ 1945-56年 / 油彩・カンヴァス / 日洋221
162. 藤田嗣治《巴里風景》/ 1918年 / 油彩・カンヴァス / 日洋123
163. 藤田嗣治《ドルドーニュの家》/ 1940年 / 油彩・カンヴァス / 日洋132
164. 川上凉花《麦秋》/ 1919年 / 油彩・カンヴァス / 日洋326
165. 小出楢重《帽子をかぶった自画像》/ 1924年 / 油彩・カンヴァス / 日洋137
166. 安井曾太郎《F夫人像》/ 939年 / 油彩・カンヴァス / 日洋589
167. 安井曾太郎《安倍能成君像》/ 1955年 / 油彩・カンヴァス / 日洋217
168. 梅原龍三郎《ナポリよりソレントを望む》/ 1921年 / 油彩・カンヴァス / 日洋271

169. 梅原龍三郎《ノートルダム》/ 1965年 / 油彩・金箔押しした羊皮紙 / 日洋191
170. 国吉康雄《夢》/ 1922年 / 油彩・カンヴァス / 日洋304
171. 国吉康雄《横たわる女》/ 1929年 / 油彩・カンヴァス / 日洋158
172. 古賀春江《涯しなき逃避》/ 1930年 / 油彩・カンヴァス / 日洋166
173. 古賀春江《感傷の静脈》/ 1931年 / 油彩・カンヴァス / 日洋165
174. 佐伯祐三《ガラージュ》/ 1927-28年 / 油彩・カンヴァス / 日洋175
175. 佐伯祐三《テラスの広告》/ 1927年 / 油彩・カンヴァス / 日洋174
176. 岡鹿之助《セーヌ河畔》/ 1927年 / 油彩・カンヴァス / 日洋583
177. 岡鹿之助《雪の発電所》/ 1956年 / 油彩・カンヴァス / 日洋297
178. 関根正二《子供》/ 1919年 / 油彩・カンヴァス / 日洋178
179. 猪熊弦一郎《女の肖像》/ 水彩・紙 / 日洋585

＊寄託作品以外は、すべてブリヂストン美術館蔵。

**広報記録：**

新聞・雑誌：
結城昌子「結城昌子のキッズギャラリー　遊んでアーティスト・マティスに挑戦 !!」『朝日小学生新聞』2013年5月26日
川上典李子「Pen SELECTION ART･弾む色と響く色。美術館の新収蔵品含む170点。『色を見る、色を楽しむ。—ルドンの『夢想』、マティスの『ジャズ』…』」『Pen』2013年6月15日号、p.157
神山智恵子「ルドンが植物学者に捧げたモノクロの石版画」『週刊新潮』2013年7月4日号、p.141
「色を見る、色を楽しむ。—ルドンの『夢想』、マティスの『ジャズ』……」『新美術新聞』2013年7月11日
石川健次「Art Scene・色を見る、色を楽しむ。」『サンデー毎日』2013年7月21日号、p.115
KAORU「こちらArt探偵団！ vol.62・今月はアンリ・マティス」『BAILA』2013年7月号、p.247
白坂ゆり「色を見る、色を楽しむ。—ルドンの『夢想』、マティスの『ジャズ』……」『マリソル』2013年7月号、p.196
矢本祥子「ブリヂストン美術館」『Hanako』2013年8月22日、p.41
児島やよい「CULTURE NOTES・「色を見る、色を楽しむ。—ルドンの『夢想』、マティスの『ジャズ』…」『VOGUE JAPAN』2013年8月号、p.220
末松敏樹「pick up! Art･20世紀を代表する色彩画家マティスと、黒の画家ルドンの対比で味わう色の世界」『男の隠れ家』2013年8月号、p.9
金大偉「色を見る、色を楽しむ」『カトリック新聞』2013年9月1日

テレビ・ラジオ：
「東京上級デート」（京橋特集）テレビ朝日、2013年6月12日放映
「世界の名画～美の迷宮への旅～：ニッポン洋画のあけぼのセザンヌ『サント＝ヴィクトワール山とシャトー・ノワール』」BS朝日、2013年6月19日放映
「プラチナサンデー」BSフジ、2013年7月21日放映

WEB：
「ショコラ」Podcast インタビュー：賀川恭子　2013年6月22日～配信
http://fr-chocolat.com/podcast-chocolat/870-347-couleur-et-insecurite

追悼 ザオ・ウーキー展：
渋沢和彦「「追悼 ザオ・ウーキー」展　東西融合　作風の変遷たどる」『産経新聞』2013年7月4日

高野清見「ザオ・ウーキーを追悼」『読売新聞』2013年7月11日
岸桂子「画風さまざまな9点　ザオ・ウーキー追悼展」『毎日新聞』2013年8月28日夕刊
永峰美佳「追悼　ザオ・ウーキー展・西洋と東洋を越えた、戦後抽象絵画の牽引者」『美術手帖』2013年8月号、pp.144-145
大西若人「美の履歴書・『21.Sep.50』ザオ・ウーキー　船に何を託したのか」『朝日新聞』2013年9月4日夕刊
渋沢和彦「「追悼 ザオ・ウーキー」展　東西融合　作風の変遷たどる」産経ニュース
http://sankei.jp.msn.com/life/news/130704/art13070407450002-n1.htm（※現在は見ることができません）

会場風景

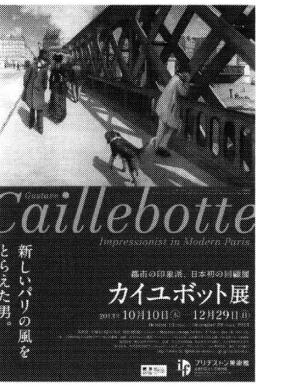
会場風景

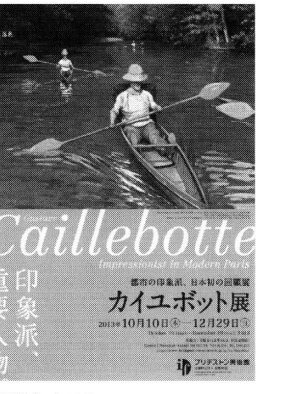
会場風景

会場風景

## カイユボット展—都市の印象派〈特別展〉

会期：2013年10月10日(木)－12月29日(日)
会場：1、2、4－8室
主催：石橋財団ブリヂストン美術館
後援：在日フランス大使館 / アンスティチュ・フランセ日本 / 公益財団法人日仏会館 / 日仏会館フランス事務所
特別協賛：株式会社ブリヂストン
協賛：株式会社髙島屋 / 株式会社みずほ銀行 / 大日本印刷株式会社
展示協力：株式会社DNPアートコミュニケーションズ / シャープビジネスソリューション株式会社
協力：日本航空
概要：ギュスターヴ・カイユボット（1848－1894）はモネやルノワールとともに印象派を代表する画家。印象派展の意見調整役や作品購入による経済支援をおこなった人物として知られるが、近年はその画家としての活動に関心が集まり、再評価が進んでいる。本展では日本で初めてのカイユボットの回顧展としてこれまで国内で観る機会の少なかった作品を紹介するとともに、共通の趣味を持つ画家の弟マルシャルの写真作品を併せて展示した。またブリヂストン美術館初の試みとして、鑑賞者の理解を促すデジタルコンテンツを設けた。
出品内容：絵画70点、写真100点、カメラ1点、資料4点、デジタルコンテンツ4点、映像1点　計180点
入場者総数：78,745人（1日平均1,064人）




展覧会チラシ

**出品目録：**

**第1章　自画像**

1. ギュスターヴ・カイユボット《夏帽子の自画像》/ 1872-78年頃 / 油彩・カンヴァス / 個人蔵
2. ギュスターヴ・カイユボット《自画像》/ 1889年頃 / 油彩・カンヴァス / 個人蔵
3. ギュスターヴ・カイユボット《画家の肖像》/ 1889年頃 / 油彩・カンヴァス / オルセー美術館

参考出品．ポール・セザンヌ《帽子をかぶった自画像》/1890-94年頃 / 油彩・カンヴァス / BMA / 外洋31

**第2章　室内、肖像画**

4. ギュスターヴ・カイユボット《ピアノを弾く若い男》/ 1876年 / 油彩・カンヴァス / BMA / 外洋229
5. ギュスターヴ・カイユボット《昼食》/ 1876年 / 油彩・カンヴァス / 個人蔵
6. ギュスターヴ・カイユボット《「昼食」のための素描》/ 1876年頃 / グラファイト・紙 / 個人蔵
7. ギュスターヴ・カイユボット《マルシャル・カイユボット夫人の肖像》/ 1877年 / 油彩・カンヴァス / 個人蔵
8. ギュスターヴ・カイユボット《編み物をするボワシエール夫人》/ 1877年 / ドライポイント / ブレーメン美術館
9. ギュスターヴ・カイユボット《読書するウジェーヌ・ドフレーヌの肖像》/ 1878年 / 油彩・カンヴァス / 個人蔵

10. ギュスターヴ・カイユボット《ポール・ユゴーの肖像》/ 1878年 / 油彩・カンヴァス / ルイス・コレクション
11. ギュスターヴ・カイユボット《ポール・ユゴーの肖像》/ 1878年 / ドライポイント / ブレーメン美術館
12. ギュスターヴ・カイユボット《ジョルジュ・ロマンの肖像》/ 1879年 / 油彩・カンヴァス / ギャラリー・ミヒャエル・ハース
13. ギュスターヴ・カイユボット《室内—読む女性》/ 1880年 / 油彩・カンヴァス / 個人蔵
14. ギュスターヴ・カイユボット《室内—窓辺の女性》/ 1880年 / 油彩・カンヴァス / 個人蔵
15. ギュスターヴ・カイユボット《ピアノのレッスン》/ 1881年 / 油彩・カンヴァス / マルモッタン・モネ美術館
16. ギュスターヴ・カイユボット《アンリ・コルディエ》/ 1883年 / 油彩・カンヴァス / オルセー美術館
17. ギュスターヴ・カイユボット《脚を拭く男》/ 1884年 / 油彩・カンヴァス / 個人蔵
18. ギュスターヴ・カイユボット《子供のモーリス・ユゴーの肖像》/ 1885年 / 油彩・カンヴァス / アソシアシオン・デ・ザミ・デュ・プティ・パレ
19. ギュスターヴ・カイユボット《「床削り」のための3つの習作》/ 1875年 / グラファイト・紙 / ピサロ美術館
20. ギュスターヴ・カイユボット《正面から見た座る男（習作）》/ 1875/76年 / グラファイト・紙 / ピサロ美術館

参考出品. エドゥアール・マネ《自画像》/ 1878-79年 / 油彩・カンヴァス / BMA / 外洋121
ピエール=オーギュスト・ルノワール《すわるジョルジェット・シャルパンティエ嬢》/ 1876年 / 油彩・カンヴァス / BMA / 外洋169
カミーユ・ピサロ《ポントワーズ、ライ麦畑とマチュランの丘》/ 1877年 / 油彩・カンヴァス / 静岡県立美術館
エラール社、グランドピアノ、平行弦・7オクターヴ / 1877年 / 伊藤綾子氏蔵

**第3章　近代都市パリの風景**

21. ギュスターヴ・カイユボット《ヨーロッパ橋》/ 1876年 / 油彩・カンヴァス / アソシアシオン・デ・ザミ・デュ・プティ・パレ
22. ギュスターヴ・カイユボット《「ヨーロッパ橋」の習作》/ 1876年頃 / グラファイト・紙 / 個人蔵
23. ギュスターヴ・カイユボット《ヨーロッパ橋にて》/ 1876-77年 / 油彩・カンヴァス / キンベル美術館　※11月10日までの展示
24. ギュスターヴ・カイユボット《パリの通り、雨》/ 1877年 / 油彩・カンヴァス / マルモッタン・モネ美術館
25. ギュスターヴ・カイユボット《すれ違う傘をさすふたりの男たちの習作》/ 1877年頃 / グラファイト、木炭・紙 / 個人蔵
26. ギュスターヴ・カイユボット《建物のペンキ塗り》/ 1877年 / 油彩・カンヴァス / 個人蔵
27. ギュスターヴ・カイユボット《「建物のペンキ塗り」の習作》/ 1877年 / グラファイト・紙 / 個人蔵
28. ギュスターヴ・カイユボット《男の後ろ姿》/ 1877年 / グラファイト・紙 / 個人蔵
29. ギュスターヴ・カイユボット《ペピニエールの兵舎》/ 1877-78年 / 油彩・カンヴァス / 個人蔵
30. ギュスターヴ・カイユボット《オスマン通り、雪景色》/ 1879年あるいは1881年 / 油彩・カンヴァス / フレール城館美術館
31. ギュスターヴ・カイユボット《イタリアン大通り》/ 1880年頃 / 油彩・カンヴァス / 個人蔵
32. ギュスターヴ・カイユボット《見下ろした大通り》/ 1880年 / 油彩・カンヴァス / 個人蔵

参考出品. 第2回印象派展カタログ / 1876年 / ウイルデンスタイン・インスティテュート資料室
第4回印象派展カタログ / 1879年 / ウイルデンスタイン・インスティテュート資料室
第7回印象派展カタログ / 1882年 / ウイルデンスタイン・インスティテュート資料室

**第4章　イエール、ノルマンディー、プティ・ジュヌヴィリエ**

33. ギュスターヴ・カイユボット《マルリーの機械》/ 1875年頃 / 油彩・板 / マルケット大学ハガーティ美術館
34. ギュスターヴ・カイユボット《イエールの庭園の樹木の下の小径》/ 1876年 / 油彩・カンヴァス / 個人蔵
35. ギュスターヴ・カイユボット《ペリソワール》/ 1877年 / 油彩・カンヴァス / ワシントン・ナショナル・ギャラリー
36. ギュスターヴ・カイユボット《シルクハットの漕手》/ 1877年頃 / 油彩・カンヴァス / 個人蔵
37. ギュスターヴ・カイユボット《漕手たち（第1作）》/ 1877年 / ドライポイント / ブレーメン美術館
38. ギュスターヴ・カイユボット《漕手たち（第2作）》/ 1877年 / ドライポイント / ブレーメン美術館
39. ギュスターヴ・カイユボット《イエール河岸の釣り人たち》/ 1878年頃 / 油彩・カンヴァス / 個人蔵
40. ギュスターヴ・カイユボット《イエールの菜園》/ 1875/77年 / 油彩・カンヴァス / 個人蔵
41. ギュスターヴ・カイユボット《イエールの平原》/ 1878年 / パステル・紙 / 個人蔵
42. ギュスターヴ・カイユボット《ノルマンディーの風景―樹木の生い茂った谷の林檎の樹》/ 1880年 / 油彩・カンヴァス / 個人蔵
43. ギュスターヴ・カイユボット《トルーヴィルの別荘》/ 1882年 / 油彩・カンヴァス / 東京富士美術館
44. ギュスターヴ・カイユボット《サン=クレールからエトルタへの道を行くマグロワール親父》/ 1884年 / 油彩・カンヴァス / アソシアシオン・デ・ザミ・デュ・プティ・パレ
45. ギュスターヴ・カイユボット《樹木の下で横たわるマグロワール親父》/ 1884年 / 油彩・カンヴァス / アソシアシオン・デ・ザミ・デュ・プティ・パレ
46. ギュスターヴ・カイユボット《プティ・ジュヌヴィリエの菜園》/ 1882年 / 油彩・カンヴァス / 個人蔵
47. ギュスターヴ・カイユボット《花咲く林檎の樹》/ 1885年頃 / 油彩・カンヴァス / ブルックリン美術館
48. ギュスターヴ・カイユボット《ジュヌヴィリエの平野、ポプラの樹》/ 1883年頃 / 油彩・カンヴァス / 個人蔵
49. ギュスターヴ・カイユボット《ジュヌヴィリエの平野、黄色い畑》/ 1884年 / 油彩・カンヴァス / ヴァルラフ=リヒャルツ美術館
50. ギュスターヴ・カイユボット《ジュヌヴィリエの平野、黄色い畑》/ 1884年 / 油彩・カンヴァス / ナショナル・ギャラリー・オヴ・ヴィクトリア
51. ギュスターヴ・カイユボット《向日葵、プティ・ジュヌヴィリエの庭》/ 1885年頃 / 油彩・カンヴァス / 個人蔵
52. ギュスターヴ・カイユボット《セーヌのプティ・ブラ、アルジャントゥイユ、陽光》/ 1884年頃 / 油彩・カンヴァス / 個人蔵
53. ギュスターヴ・カイユボット《セーヌのプティ・ブラ、アルジャントゥイユ近く》/ 1886-87年頃 / 油彩・カンヴァス / 個人蔵
54. ギュスターヴ・カイユボット《セーヌのプティ・ブラ、秋》/ 1890年頃 / 油彩・カンヴァス / バンベール財団
55. ギュスターヴ・カイユボット《アルジャントゥイユの風景》/ 1889年 / 油彩・カンヴァス / フランソワ・シャプラン氏蔵
56. ギュスターヴ・カイユボット《セーヌ河岸の女性》/ 1893年 / 油彩・カンヴァス / 個人蔵
57. ギュスターヴ・カイユボット《ポケットに両手を入れた男の習作》/ 1893年頃 / 木炭・紙 / 個人蔵
58. ギュスターヴ・カイユボット《セーヌ川に係留されたボート》/ 1892年 / 油彩・カンヴァス / 個人蔵

参考出品. カミーユ・ピサロ《菜園》/1878年 / 油彩・カンヴァス / BMA / 外洋20
クロード・モネ《アルジャントゥイユの洪水》/ 1872-73年 / 油彩・カンヴァス / BMA / 外洋21

クロード・モネ《アルジャントゥイユ》/ 1874年 / 油彩・カンヴァス / BMA / 外洋180

**第5章　静物画**

59. ギュスターヴ・カイユボット《鶏と猟鳥の陳列》/ 1882年頃 / 油彩・カンヴァス / 個人蔵
60. ギュスターヴ・カイユボット《猟鳥とレモン》/ 1883年 / 油彩・カンヴァス / ミシェル・アンド・ドナルド・ダモア美術館
61. ギュスターヴ・カイユボット《キンレンカ》/ 1892年 / 油彩・カンヴァス / 個人蔵
62. ギュスターヴ・カイユボット《ひな菊の花壇》/ 1892-93年頃 / 油彩・カンヴァス（4面）/ 個人蔵
63. ギュスターヴ・カイユボット《4つの花瓶の菊》/ 1893年 / 油彩・カンヴァス / 個人蔵

参考出品. エキスプレス・ディテクティヴ・ナダール / 1889年 / 横浜市民ギャラリーあざみ野
イーストマン=ウォーカー・ロールホルダー / 1885年 / 横浜市民ギャラリーあざみ野

**第6章　マルシャル・カイユボットの写真（全て個人蔵）**

M1. ギュスターヴ・カイユボットの肖像（《ギュスターヴとマルシャル》（部分））　撮影者不詳
M2. 船の設計をするギュスターヴ・カイユボット、1892年2月
M3. 砂浜のギュスターヴ・カイユボット
M4. ギュスターヴ・カイユボットと犬のベルジェール、カルーゼル広場、1892年2月
M5. 砂浜のギュスターヴ・カイユボットと3人の子供たち
M6. マルシャル・カイユボット
M7. アルフレッドとジュヌヴィエーヴ
M8. ジャンとジュヌヴィエーヴの写真を撮るモーリス・ミノレ
M9. スクリブ通り9番地の自宅でピアノを弾くマルシャル
M10. スクリブ通り9番地の自宅にいるマルシャル・カイユボット、1892-95年頃
M11. マルシャルの腕に抱かれるジャンとジュヌヴィエーヴ
M12. ジャンとジュヌヴィエーヴ
M13. マリー・モロー、マリー・ミノレ、マリー・カイユボット、ジュヌヴィエーヴ・カイユボット、モンジュロンのテラスにて
M14. ジャン、マリー、ジュヌヴィエーヴ、マルシャル
M15. 林の中を歩くマリー・カイユボット
M16. ピエール=オーギュスト・ルノワール、彼の妻とジャン・カイユボット、シャトー・デ・ブルイヤール
M17. シャトー・デ・ブルイヤールのルノワール
M18. 入浴中のマリー・カイユボット、スクリブ通り9番地
M19. 暖炉前のマルシャル・カイユボット、スクリブ通り9番地
M20. ジャンを寝かしつけるマリー・カイユボット
M21. ひげを剃るマルシャル・カイユボット、スクリブ通り9番地
M22. 自宅のマリー・カイユボット、スクリブ通り9番地
M23. マルシャル宅のモーリス・ミノレ、スクリブ通り9番地
M24. 台所のオジト・ルクステ、ジュール・ポトー、ジョゼフィン・フレション、スクリブ通り9番地
M25. スクリブ通り9番地の自宅で夕食をとるマルシャル、ジャン、ジュール・ポトー、マリー・カイユボット
M26. マリー・カイユボット、ジョルジュ・ミノレ、アメリ・ミノレ、アルフレッド・カイユボット、スクリブ通り9番地、1895年頃
M27. スクリブ通り9番地、1892年2月
M28. 和服を着てバルコニーに立つジュヌヴィエーヴ・カイユボット
M29. バルコニーにて、1891年12月
M30. バルコニーのマリー、1891年12月

M31. スクリブ通り9番地のバルコニーから見下ろしたロータリー
M32. オペラ座
M33. オーベール通り（バルコニーから見た）
M34. オーベール通りとスクリブ通りの交差点、1892-95年
M35. バルコニーから見たオペラ座、雪景色、1892年2月
M36. バルコニーから見下ろしたオペラ座大通り（舗装工たち）
M37. テュイルリー公園、リヴォリ通りの並木道、1892年2月
M38. ポン・デ・ザール、1892年2月
M39. カルーゼル広場（霧に覆われた）、1892年2月
M40. リヴォリ通り、雪景色、1892年2月
M41. コンコルド広場、雪景色、1892年2月
M42. コンコルド広場とロワイヤル通り、雪景色、1892年2月
M43. ルーヴル、パリ
M44. 凱旋門の修復現場で働く労働者たち、1892年2月
M45. 街路灯から降りる（コンコルド橋）、1891年12月
M46. 移動広告車、1892年1月
M47. 公衆トイレ、1892年
M48. サマリテーヌ百貨店
M49. 事故（メジスリー乗車場の乗合馬車）、1892年2月
M50. 転倒した馬（ペ通り）、1892年2月
M51. 清掃人（馬に水をかける御者）、1892年2月
M52. 乗合馬車、パッシー=ブルス、1892年1月
M53. トロカデロ、1892年2月
M54. エッフェル塔、1892年2月
M55. オペラ座、雪景色、1892年2月
M56. サン=ジェルマン・ロクセロワ広場、1892年2月
M57. 凱旋門、1892年1月
M58. ノートル=ダム、1892年2月
M59. ムーラン・ルージュ、1892年2月
M60. サクレ=クール、1892年2月
M61. 列車が走り去るのを見ている女性と女の子
M62. シャランドレ橋、1892年6月
M63. 駅に停車中の機関車
M64. 橋から見たヴィルヌーヴ=サン=ジョルジュ
M65. 一台のアズリン、モーリス・ミノレとモール氏
M66. モール氏が製作したアズリン
M67. アルジャントゥイユ橋からの眺め、1891年12月
M68. プティ・ジュヌヴィリエ、ギュスターヴ・カイユボットの庭園と邸宅
M69. ギュスターヴとベルジェール
M70. 温室のギュスターヴ・カイユボット、1892年2月
M71. プティ・ジュヌヴィリエ、ギュスターヴ・カイユボットの庭園と邸宅
M72. プティ・ジュヌヴィリエ、ギュスターヴ・カイユボットの庭園と邸宅
M73. プティ・ジュヌヴィリエ、庭園の小径のギュスターヴ・カイユボットと庭師、1892年2月
M74. 菜園の中のジャン、ジュヌヴィエーヴ、オジト、1892年6月
M75. 庭園のギュスターヴ・カイユボット（発芽のはじまり）、1892年2月
M76. 舟橋の上のジュヌヴィエーヴ、マリー、ジャンとモーリス・ミノレ

M77.　船を漕ぐモーリス・ミノレ
M78.　背面から見た造船所のベティナ号、1892年1月
M79.　造船所のローストビーフ号
M80.　プティ・ジュヌヴィリエの造船所を出るヨット
M81.　プティ・ジュヌヴィリエの造船所、架台を動かす労働者たち、1891年12月
M82.　造船所から出されたローストビーフ号、1892年2月
M83.　プティ・ジュヌヴィリエのヨット
M84.　ヨット
M85.　プティ・ジュヌヴィリエのヨット
M86.　アルジャントゥイユのヨット
M87.　プティ・ジュヌヴィリエのヨット
M88.　プティ・ジュヌヴィリエのヨット
M89.　ギュスターヴ・カイユボットのヨット、ムーラン
M90.　ロトシルド男爵のアリエス号
M91.　プティ・ジュヌヴィリエのヨット
M92.　レガッタの観客
M93.　アルジャントゥイユ、パリ帆船クラブの開会式
M94.　セーヌ川のほとり、アルジャントゥイユ橋
M95.　川岸、橋、マリー、ジャン、ジュヌヴィエーヴとアンドレ・ミノレ
M96.　ギュスターヴの家の前の「嵐」号とセーヌ川
M97.　砂浜で遊ぶ子供たち
M98.　砂浜のジャンとジュヌヴィエーヴ
M99.　砂浜のマリーとジュヌヴィエーヴ
M100.　砂浜に立つアルフレッド・カイユボット、1892年頃

**デジタル観賞システム（DNPアートコミュニケーションズと共同開発）**

1. ウェルカムボード
2. 見どころルーペ
3. 映像年表「カイユボットとその時代」
4. インタラクティブマップ「カイユボットと19世紀のパリ」
5. 人物相関図「カイユボットをめぐる人々」

**関連映像「ギュスターヴ・カイユボットの《ヨーロッパ橋》を脱構築する」**

制作：クロード・P.J.ゲーツ/ピエトロ・ガリフィ・デッラ・バリヴァ
2013年
上映時間：約7分

**関連事業：**

土曜講座「印象派の画家ギュスターヴ・カイユボット」 →　p.50
スライドトーク →　p.50
レクチャー・コンサート「カイユボットとパリの音色」
　日時：2013年11月26日㈫　19:00－20:00
　出演：伊藤綾子
　共催：タカギクラヴィア株式会社

**広報記録：**

新聞・雑誌：

青野尚子「秋からアートを巡る。」『Hanako』2013年9月号、p.96

"WHAT'S GOING ON? Gustave Caillebotte – Impressionist in Modern Paris", *Tokyo Notice Board*, October 4, 2013, p.28

新畑泰秀「カイユボット展—都市の印象派　再評価進む　いまだ知られざる画家」『新美術新聞』2013年10月11日

高階秀爾「目は語る10月・印象派画家　カイユボット　新しい時代の都市像」『毎日新聞』2013年10月22日夕刊

島田紀夫「東京富士美術館「光の賛歌　印象派展」に寄せて」『聖教新聞』2013年10月30日

「都市の印象派、日本発の回顧展　カイユボット展」『朝日新聞』2013年10月31日

青木登「小特集・印象派を支えた画家　カイユボットを知っていますか？」『芸術新潮』2013年10月号、pp.100-111

川岸徹「美術の黄金期、19世紀の注目作品が勢ぞろい！この秋見逃せない美術展　再評価される印象派の影の主役」『日経おとなのOFF』2013年10月号、p.116

島田紀夫、新畑泰秀「画家に導かれて旅するパリ」『ミセス』2013年10月号、pp.207-213

新畑泰秀「カイユボット展—都市の印象派」『月刊展覧会ガイド』2013年10月号、pp.9,110-111

仲宇佐ゆり「パリを描いた印象派の日本初個展『カイユボット展—都市の印象派』」『毎日が発見』2013年10月号、p.133

「ルノワールを援助した『カイユボット』初回顧展」『週刊新潮』2013年10月31日号

宮村周子「都市の印象派カイユボット　ゆかりのパリを訪ねる」『美術手帖』2013年10月号、pp.88-99

「写実的表現を駆使した特異な印象派　カイユボット」『クレイン』2013年10月号、pp.4-5

新畑泰秀「ぎゃらりいモール」『読売新聞』2013年11月5日夕刊

西岡一正「広角レンズ的な視覚　ギュスターブ・カイユボット回顧展」『朝日新聞』2013年11月6日夕刊

黒沢綾子「ブリヂストン美術館　日本初のカイユボット回顧展「都市の印象派」画業に迫る」『産経新聞』2013年11月14日

藤田一人「印象派の3つの展覧会　幸福なる近代の謳歌と超越」『公明新聞』2013年11月20日

木谷節子「カルチャーセレクションart・カイユボット展—都市の印象派」『婦人公論』2013年11月22日号、p.143

坪内祐三「坪内洋三の美術批評　眼は行動する　no.077・カイユボット展」『週刊ポスト』2013年11月22日号、p.194

鹿島茂「アートフル・デイズ・カイユボット展　永遠となる一瞬の美　スナップショット的な画風」『四国新聞』2013年11月25日（他、地方紙に配信）

木村泰司「ART・印象派をもっと！」『クロワッサン』2013年11月25日号、p.100

島田紀夫、新畑泰秀、中山ゆかり「特集　都市の画家　カイユボット」『ふらんす』2013年11月号、pp.12-18

「サライ美術館・ブリヂストン美術館「カイユボット展—都市の印象派」変わりゆく近代パリの観察者」『サライ』2013年11月号、pp.143-148

「日本初の回顧展「カイユボット展—都市の印象派」」『スカイワード』2013年11月号、p.130

C.B. Liddell, "A modern view of a neglected Impressionist", *The Japan Times*, December 5, 2013

前田恭二「一瞬の都市風景　臨場感豊か」『読売新聞』2013年12月6日

井上普治「日本現代美術のエネルギー　震災の受け止め深化」『読売新聞』2013年12月12日

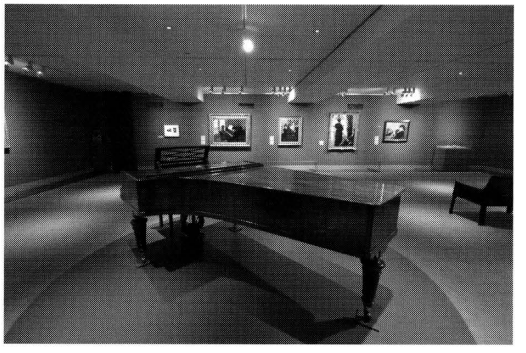
「今週の美術・歴史・19世紀、変わりゆくパリの街と人の姿を描いた"知られざる印象派"カイユボット」『ステラ』2013年12月13日号、p.86

丸澤英将「火よう美術館・ブリヂストン美術館「カイユボット展」近代パリの世界へ」『東京大学新聞』2013年12月17日

下野綾「文化・印象派　3つの展覧会　異なる視点で迫る」『神奈川新聞』2013年12月18日
堀井正純「文化・“知られざる印象派”カイユボット　パリの情景　清新な構図で」『神戸新聞』2013年12月22日
岸桂子「美術・この1年　社会を揺さぶる表現　震災後の日本　徹底的に暴く姿勢で」『毎日新聞』2013年12月26日夕刊
原田マハ「脳が若返る“ときめき”に出会う「カイユボット展—都市の印象派」」『GOLD』2013年12月号、pp.311-312
本江邦夫「Art・印象派を支えた画家『カイユボット展—都市の印象派』」『中央公論』2013年12月号、p.143
八木橋恵「GQ Details ART. モネや、ルノワールだけじゃない！知られざる印象派の日本初カイユボット展」『GQ』2013年12月号、p.23
鈴木芳雄「よしおさんおすすめ　『カイユボット展—都市の印象派』『クロワッサン・プレミアム』2013年12月号、p.179
赤坂英人「現代性を喚起させる、『知られざる印象派』の画家。」『Pen』2013年12月1日号、p.117
「19世紀、変わりゆくパリの街と人の姿を描いた“知られざる印象派”カイユボット」『ステラ』2013年12月号、p.86
宮村周子「時代を先取る視覚」『SWITCH』2013年12月号、p127
中山ゆかり「知られざる重要人物　カイユボットの真実」『おとなのぴあ　2013秋－2014春　首都圏版　絶対見るべき美術展完全案内』pp.60-71、91
結城昌子「今月の美術・印象派を支えた印象派。日本初の回顧展」『家庭画報』2014年1月号、p.344
原田マハ「ART・30代女子に効くアートサプリ　華麗なる印象派に心酔」『In Red』2014年1月号

テレビ・ラジオ：
「HOLIDAY SPECIAL FEEL THE WIND」J-WAVE、2013年9月23日放送
「世界の名画・もうひとりの印象派　カイユボット「床の鉋かけ」」BS朝日、2013年9月25日放映
「美の巨人たち・カイユボット「ヨーロッパ橋」」テレビ東京、2013年10月19日放映
「日曜美術館・変貌するパリを描く—ギュスターヴ・カイユボット」（本編）NHK Eテレ、2013年12月8・15日放映

Web：
「ショコラ」Podcast インタビュー：新畑泰秀　2013年10月19日～配信
http://fr-chocolat.com/podcast-chocolat/896-359-caillebotte-et-fleur
「都市の印象派『カイユボット展』」『TRANSIT』
http://www.transit.ne.jp/contents/info/2013/10/caillebotte.php
中村剛士「ぶらり、ミュージアム」『朝日マリオン.コム』
http://www.asahi-mullion.com/column/article/burari/360
Jordan Sievers「CULTURE ‘Gustave Caillebotte: Impressionist in Modern Paris’」『The Japan Times』
http://www.japantimes.co.jp/culture/2013/10/09/arts/gustave-caillebotte-impressionist-in-modern-paris/
「銀座界隈アートスポット巡り　Vol.19　第19回 石橋財団ブリヂストン美術館　都市の印象派、日本初の回顧展　カイユボット展—都市の印象派」『MMM』
http://www.mmm-ginza.org/special/201311/ginza.html
「Gustave Caillebotte at the Bridgestone Museum Key：Impressionist figure fets his own exhibition」『メトロポリス』
http://metropolis.co.jp/arts/advertorial/gustave-caillebotte-at-the-bridgestone-museum/
「Gustave Caillebotte Exhibition at Bridgestone Museum of Art」『Weekender』
http://www.tokyoweekender.com/events/gustave-caillebotte-exhibition-at-bridgestone-museum-of-art/



会場風景

会場風景

会場風景

会場風景

東ウインドウ

西ウインドウ

## 金閣・銀閣の寺宝展　雪舟、等伯、宗達、そして若冲〈特別展〉

展覧会ポスター

会期：2013年1月12日(土)－3月10日(日)
会場：別館、有馬記念館
主催：久留米市 / 石橋財団石橋美術館 / 公益財団法人有馬記念館保存会 / 朝日新聞社 / TVQ九州放送
後援：久留米市教育委員会 / 公益財団法人久留米文化振興会
特別協力：相国寺承天閣美術館
概要：久留米市の要請により、有馬記念館と共同でおこなった展覧会。別館を第1会場、有馬記念館を第2会場とし、会期も第1部、第2部の二期を設定。作品は、相国寺承天閣美術館で管理する相国寺・鹿苑寺・慈照寺・大光明寺の所蔵品で、雪舟から若冲にいたる日本美術の流れをたどる構成とし、併せて中国、朝鮮、日本の陶磁器と茶道具も紹介。本館では、日本近代洋画のコレクション112点を展示。
出品内容：書画38点、工芸等33点　計71点（両会場合わせて）
入場者総数：36,125人（1日平均：695人）
＊参考　有馬記念館の入場者総数：23,689人

**出品目録：**

**第1章　日本美術の立役者、集結**

1. 牧谿《江天暮雪図》/ 南宋時代（13世紀）/ 紙本墨画 / 鹿苑寺 / 有馬 / 2部
2. 夏珪《松下眺望山水図》/ 南宋時代（13世紀）/ 紙本墨画 / 鹿苑寺 / 有馬 / 2部
3. 周文《真山水図 景除周麟賛》/ 室町時代（15世紀）/ 紙本墨画淡彩 / 鹿苑寺 / 有馬 / 2部
4. 伝周文《十牛図》/ 室町時代（15世紀）/ 紙本墨画淡彩 / 相国寺 / 有馬 / 2部
5. 狩野元信《牧牛童子図》/ 室町時代（15-16世紀）/ 紙本墨画 / 慈照寺 / 有馬 / 2部
6. 雪舟《毘沙門天図》/ 室町時代（15-16世紀）/ 紙本墨画 / 重要文化財 / 相国寺 / 石橋 / 2部
7. 狩野探幽《探幽縮図帖》/ 江戸時代（17世紀）/ 紙本墨画淡彩 / 相国寺 / 有馬 / 2部
8. 一休宗純《梅図自画賛》/ 室町時代（14-15世紀）/ 紙本墨画 / 相国寺 / 有馬 / 2部
9. 狩野探幽《杜子美図 石川丈山賛》/ 江戸時代（17世紀）/ 紙本墨画 / 相国寺 / 有馬 / 2部
10. 俵屋宗達《老子出関図》/ 江戸時代（17世紀）/ 紙本墨画 / 鹿苑寺 / 有馬 / 2部
11. 狩野松栄《水辺花鳥図屏風》/ 桃山時代（16世紀）/ 紙本墨画 / 相国寺 / 有馬 / 2部
12. 長谷川等伯《竹林猿猴図屏風》/ 桃山時代（16-17世紀）/ 紙本墨画 / 重要文化財 / 相国寺 / 石橋 / 2部
13. 円山応挙《大瀑布図》/ 江戸時代 安永元年（1772）/ 紙本墨画淡彩 / 相国寺 / 石橋 / 2部
14. 呉春《竹図屏風》/ 江戸時代（18-19世紀）/ 紙本墨画 / 相国寺 / 石橋 / 2部
15. 《京名所図屏風》/ 江戸時代（17世紀）/ 紙本金地着色 / 相国寺 / 石橋 / 2部
16. 長谷川等伯《萩芒図屏風》/ 桃山時代（16-17世紀）/ 紙本金地着色 / 相国寺 / 石橋 / 2部
17. 俵屋宗達《蔦の細道図屏風》/ 江戸時代（17世紀）/ 紙本金地着色 / 重要文化財 / 相国寺 / 石橋 / 2部
18. 長澤芦雪《白象唐子図屏風》/ 江戸時代（18世紀）/ 紙本着色 / 鹿苑寺 / 石橋 / 2部

**第2章　色彩の魔術師・若冲**

19. 伊藤若冲《釈迦三尊像》/ 江戸時代（18世紀）/ 絹本着色 / 相国寺 / 石橋 / 1部
20. 伊藤若冲《厖児戯帚図》/ 江戸時代（18世紀）/ 絹本着色 / 鹿苑寺 / 石橋 / 1部

21. 伊藤若冲《菊虫図》/ 江戸時代（18世紀）/ 絹本着色 / 慈照寺 / 石橋 / 1部
22. 伊藤若冲《牡丹百合図》/ 江戸時代（18世紀）/ 絹本着色 / 慈照寺 / 石橋 / 1部
23. 林良《鳳凰石竹図》/ 明時代（15世紀）/ 絹本着色 / 重要文化財 / 相国寺 / 石橋 / 1部
24. 伊藤若冲《鳳凰之図》/ 江戸時代（18世紀）/ 紙本墨画 / 相国寺 / 石橋 / 1部
25. 伊藤若冲《立鶴図》/ 江戸時代（18世紀）/ 紙本墨画 / 大光明寺 / 有馬 / 1部
26. 伊藤若冲《亀図 聞中浄復賛》/ 江戸時代（18世紀）/ 紙本墨画 / 鹿苑寺 / 有馬 / 1部
27. 伊藤若冲《鱧図 芝山持豊賛》/ 江戸時代（18世紀）/ 紙本墨画 / 相国寺 / 有馬 / 1部
28. 伊藤若冲《玉熨斗図》/ 江戸時代（18世紀）/ 紙本墨画 / 鹿苑寺 / 有馬 / 1部
29. 伊藤若冲《布袋渡河図 無染浄善賛》/ 江戸時代（18世紀）/ 紙本墨画 / 大光明寺 / 有馬 / 1部
30. 伊藤若冲《伏見人形図》/ 江戸時代（18世紀）/ 紙本着色 / 慈照寺 / 有馬 / 1部
31. 伊藤若冲《竹虎図 梅荘顥常賛》/ 江戸時代（18世紀）/ 紙本墨画 / 鹿苑寺 / 有馬 / 1部
32. 伊藤若冲《芭蕉図 梅荘顥常賛》/ 江戸時代（18世紀）/ 紙本墨画 / 大光明寺 / 有馬 / 1部
33. 伊藤若冲《鹿苑寺大書院旧障壁画 葡萄小禽図襖絵》/ 江戸時代 宝暦9年（1759）/ 紙本墨画 / 重要文化財 / 鹿苑寺 / 石橋 / 1部
34. 伊藤若冲《鹿苑寺大書院旧障壁画 松鶴図襖絵》/ 江戸時代 宝暦9年（1759）/ 紙本墨画 / 重要文化財 / 鹿苑寺 / 石橋 / 1部
35. 伊藤若冲《鹿苑寺大書院旧障壁画 菊鶏図襖絵》/ 江戸時代 宝暦9年（1759）/ 紙本墨画 / 重要文化財 / 鹿苑寺 / 石橋 / 1部
36. 伊藤若冲《鹿苑寺大書院旧障壁画 竹図襖絵》/ 江戸時代 宝暦9年（1759）/ 紙本墨画 / 重要文化財 / 鹿苑寺 / 石橋 / 1部

**第3章　悠久の美　器を愛でる**

37. 中国《東山御物唐物小丸壺茶入 添唐物青貝盆》/ 南宋時代（12-13世紀）/ 陶磁器 / 慈照寺 / 有馬 / 2部
38. 中国《玳玻天目散花文茶碗》/ 南宋時代（12-13世紀）/ 陶磁器 / 国宝 / 相国寺 / 石橋 / 通期
39. 中国《砧青磁茶碗 銘雨龍》/ 南宋時代（12-13世紀）/ 陶磁器 / 鹿苑寺 / 石橋 / 通期
40. 中国《砧青磁筍花入》/ 南宋時代（12-13世紀）/ 陶磁器 / 鹿苑寺 / 石橋 / 通期
41. 中国《祥瑞一閑人反鉢》/ 明時代（17世紀）/ 陶磁器 / 鹿苑寺 / 有馬 / 通期
42. 中国《祥瑞手柘榴香合》/ 明時代（17世紀）/ 陶磁器 / 慈照寺 / 有馬 / 通期
43. 朝鮮《井戸茶碗 銘瀬田》/ 朝鮮時代（16-17世紀）/ 陶磁器 / 慈照寺 / 有馬 / 通期
44. 朝鮮《青井戸茶碗》/ 朝鮮時代（16-17世紀）/ 陶磁器 / 慈照寺 / 有馬 / 通期
45. 朝鮮《斗々屋茶碗》/ 朝鮮時代（16-17世紀）/ 陶磁器 / 鹿苑寺 / 有馬 / 通期
46. 朝鮮《雨漏堅手茶碗 銘紅葉山》/ 朝鮮時代（16-17世紀）/ 陶磁器 / 鹿苑寺 / 有馬 / 通期
47. 朝鮮《金海州浜形茶碗 銘藤浪》/ 朝鮮時代（16-17世紀）/ 陶磁器 / 鹿苑寺 / 有馬 / 通期
48. 朝鮮《紅葉呉器茶碗 銘龍田》/ 朝鮮時代（16-17世紀）/ 陶磁器 / 鹿苑寺 / 有馬 / 通期
49. 朝鮮《伊羅保茶碗 銘猿沢》/ 朝鮮時代（16-17世紀）/ 陶磁器 / 鹿苑寺 / 有馬 / 通期
50. 朝鮮《古刷毛目呼継茶碗 大の字》/ 朝鮮時代（16-17世紀）/ 陶磁器 / 鹿苑寺 / 有馬 / 通期
51. 日本《古瀬戸肩衝茶入 銘北山時雨》/ 室町時代（14-15世紀）/ 陶磁器 / 鹿苑寺 / 有馬 / 通期
52. 楽長次郎《赤楽茶碗 銘天狗》/ 桃山時代（16世紀）/ 陶磁器 / 鹿苑寺 / 有馬 / 通期
53. 楽長次郎《黒茶碗 銘喝食》/ 桃山時代（16世紀）/ 陶磁器 / 鹿苑寺 / 有馬 / 通期
54. 日本《瀬戸黒茶碗 利休在判》/ 桃山時代（16世紀）/ 陶磁器 / 慈照寺 / 有馬 / 通期
55. 日本《黄瀬戸大根文輪花鉦鉢》/ 桃山時代（16-17世紀）/ 陶磁器 / 重要文化財 / 相国寺 / 石橋 / 通期
56. 日本《黒織部沓茶碗》/ 桃山時代（17世紀）/ 陶磁器 / 相国寺 / 有馬 / 通期
57. 日本《織部茶入 銘下髪》/ 桃山時代（17世紀）/ 陶磁器 / 鹿苑寺 / 有馬 / 通期
58. 日本《伊賀耳付末広形水指》/ 桃山時代（16-17世紀）/ 陶磁器 / 鹿苑寺 / 石橋 / 通期

59. 本阿弥光悦《赤楽茶碗 加賀》/ 江戸時代（16-17世紀）/ 陶磁器 / 重要文化財 / 相国寺 / 石橋 / 通期
60. 野々村仁清《柿釉瓢抜色絵松竹梅茶碗》/ 江戸時代（17世紀）/ 陶磁器 / 鹿苑寺 / 石橋 / 通期
61. 野々村仁清《銹絵寒山拾得図茶碗》/ 江戸時代（17世紀）/ 陶磁器 / 鹿苑寺 / 石橋 / 通期
62. 野々村仁清《梅花紋大壺》/ 江戸時代（17世紀）/ 陶磁器 / 慈照寺 / 石橋 / 通期
63. 尾形乾山《色絵龍田川透かし鉢》/ 江戸時代（17-18世紀）/ 陶磁器 / 慈照寺 / 石橋 / 通期
64. 日本《古清水色絵竹桜文六角段重》/ 江戸時代（18-19世紀）/ 陶磁器 / 相国寺 / 石橋 / 通期
65. 日本《古清水色絵唐子形香炉》/ 江戸時代（18-19世紀）/ 陶磁器 / 相国寺 / 石橋 / 通期
66. 日本《柳原焼 撫四方水指》/ 江戸時代（19世紀）/ 陶磁器 / 大光明寺 / 有馬 / 通期
67. 千利休《半身達磨自問自答》/ 桃山時代（16世紀）/ 紙本墨書 / 大光明寺 / 有馬 / 通期
68. 千利休《竹茶杓 千利休作共筒》/ 桃山時代（16世紀）/ 竹工 / 慈照寺 / 有馬 / 通期
69. 小堀遠州《竹茶杓 銘そげ》/ 桃山時代（16-17世紀）/ 竹工 / 大光明寺 / 有馬 / 通期
70. 《伏見大光明寺勧進帳》/ 桃山時代 文禄3年（1594）/ 紙本墨書 / 相国寺 / 有馬 / 通期
71. 《銅造鳳凰》/ 室町時代 / 銅造 / 鹿苑寺 / 有馬 / 通期

＊石橋および有馬は、それぞれの会場を示す。1部は1月12日－2月8日、2部は2月9日－3月10日の会期を示す。

**関連事業：**

美術講座 → p.53
関連イベント → p.53

**広報記録：**

新聞・雑誌：
「日本美術300年　久留米で豪華競演　金閣・銀閣の寺宝展」『朝日新聞』2013年1月5日
遠山武「「寺宝展」の作品　展示作業始まる　12日から、久留米市で」『朝日新聞』2013年1月6日筑後版
「禅林の美　きら星 「金閣・銀閣の寺宝展」」『朝日新聞』2013年1月9日
遠山武「若冲・鳳凰いよいよ　金閣・銀閣の寺宝展　久留米で開会式」『朝日新聞』2013年1月12日
遠山武「圧巻若冲　ファン魅了　久留米で「寺宝展」」『朝日新聞』2013年1月13日
安斎耕一「若冲・雪舟・等伯・宗達ら競演　久留米で「金閣・銀閣の寺宝展」」『朝日新聞』2013年1月22日
森本俊司「相国寺派の美、久留米に大集合　有馬管長ゆかり「金閣・銀閣の寺宝展」」『朝日新聞』2013年1月24日夕刊大阪版
池田和正「若冲と相国寺　密接なつながり　久留米で「金閣・銀閣の寺宝展」」『読売新聞』2013年1月26日
南陽子「美術館タッグ　魅力も倍　一つの展覧会　2館で楽しむ」『西日本新聞』2013年2月2日夕刊
「金閣・銀閣の寺宝展から　伊藤若冲「普賢菩薩像」」『朝日新聞』2013年2月5日
「金閣・銀閣の寺宝展から　伊藤若冲「竹虎図」」『朝日新聞』2013年2月6日
遠山武「新たに雪舟・等伯ら　金閣・銀閣の寺宝展後期始まる」『朝日新聞』2013年2月10日
「金閣・銀閣の寺宝展から　長谷川等伯「竹林猿猴図屏風」」『朝日新聞』2013年2月11日
「金閣・銀閣の寺宝展から 「青井戸茶碗」」『朝日新聞』2013年2月13日
「金閣・銀閣の寺宝展から 「銅製鳳凰」」『朝日新聞』2013年2月15日
「等伯作屏風絵を鑑賞　直木賞受賞・安部龍太郎さん」『読売新聞』2013年2月24日

テレビ・ラジオ：
「日曜美術館　アートシーン」NHK Eテレ　2013年1月20日放映
「ルックアップふくおか　金曜日　週末チェッキュウ！」TVQ　2013年1月25日放映

会場風景（第一部）

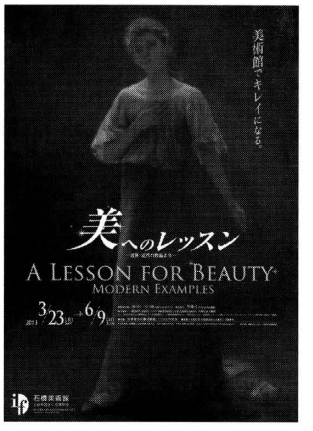
開会式の様子

会場風景（第二部）

キモノイベントの様子

## 「美」へのレッスン　―近世・近代の作品より〈コレクション展示〉

会期：2013年3月23日(土)－6月9日(日)
会場：本館、別館
主催：石橋財団石橋美術館 / TVQ九州放送
後援：久留米市 / 公益財団法人久留米文化振興会
概要：20－40歳代の美術館に関心が薄い女性にも新たに足を運んでもらおうと「美」「ビューティー」「かわいい」をキーワードとした展覧会。色の効果、配色、モデルのポーズや「見せ方」など、ファッションや表現の参考になりそうな作品や、描かれた内容から「癒し」を得られるような、例えば、自然、農村風景、動物、子供を題材とする作品など、128点を展示。
出品内容：油彩80点、水彩・素描等17点、版画6点、彫刻8点、書画9点、工芸8点、計128点
入場者総数：11,025人(1日平均：158人)



展覧会ポスター

**出品目録：**

1. 山下新太郎《春の庭》/ 1942年 / 油彩・カンヴァス / 日洋433
2. 平賀亀祐《アペリチフの時間》/ 1928年 / 油彩・カンヴァス / 日洋150
3. 山下新太郎《ベラスケス「王妃マリアーナ・デ・アウストリア」の模写》/ 1907年頃 / 油彩・カンヴァス / 日洋392
4. 藤島武二《天平の面影》/ 1902年 / 油彩・カンヴァス / 日洋11
5. ジョルジュ・ビゴー《日本の女》/ 油彩・カンヴァス / 外洋111
6. 和田英作《チューリップ》/ 1927年 / 油彩・カンヴァス / 日洋65
7. 高田力蔵《アングル「泉」の模写》/ 1938年 / 油彩・カンヴァス / 日洋407
8. 藤井浩祐《踊る崔承喜》/ 1943年頃 / ブロンズ / 日彫10
9. 青木繁《わだつみのいろこの宮》/ 1907年 / 油彩・カンヴァス / 日洋104
10. 伊原宇三郎《女の顔》/ 1940年 / 油彩・カンヴァス / 日洋199
11. 坂本繁二郎《母の像》/ 1927年 / 油彩・カンヴァス / 寄託作品
12. 岸田劉生《画家の妻》/ 1914年 / 油彩・カンヴァス / 日洋229
13. 山下新太郎《婦人点茶図》/ 1922年 / 水彩、鉛筆・絹 / 日洋438
14. 山本豊市《若い女》/ 1956年 / 乾漆 / 日彫3
15. 井上三綱《桃李美人図》/ 1969年頃 / 油彩、墨、コラージュ・紙 / 日洋338-1, 2
16. 藤島武二《池畔の女》/ 1908-09年 / 油彩・紙 / 日洋36
17. 古賀春江《海水浴の女》/ 1923年 / 油彩・カンヴァス / 日洋168
18. 安井曾太郎《りんご》/ 1942年頃 / 油彩・カンヴァス / 日洋265
19. 山下新太郎《シュザンヌ》/ 1909年 / 油彩・カンヴァス / 日洋211
20. 藤井浩祐《裸婦》/ 1946年頃 / ブロンズ / 日彫8
21. 戸張孤雁《曇り》/ 1917年 / ブロンズ / 日彫1
22. 藤井浩祐《坐裸婦》/ ブロンズ / 日彫9
23. 百武兼行《臥裸婦》/ 1881年頃 / 油彩・カンヴァス / 日洋2
24. 長谷川栄作《黎明の舞》/ ブロンズ / 日彫12

25. 満谷国四郎《脱衣》/ 1926年 / 油彩・カンヴァス / 日洋233
26. 小出楢重《裸婦》/ 1925年 / 油彩・カンヴァス / 日洋138
27. 古賀春江《厳しき伝統》/ 1931年 / 油彩・カンヴァス / 日洋163
28. 山下新太郎《靴の女》/ 1910年 / 鉛筆、水彩・紙 / 日洋446
29. 藤島武二《琉球の女》/ 1936年 / パステル・紙 / 日洋54
30. 岡田三郎助《薔薇の少女》/ 1901年 / 油彩・カンヴァス / 日洋231
31. 井上三綱《収穫》/ 1928年 / 油彩・カンヴァス / 日洋289
32. 石川寅治《農事忙》/ 1947年 / 油彩・カンヴァス / 日洋81
33. 松田諦晶《田植どき》/ 1960年 / 油彩・カンヴァス / 寄託作品
34. 松田諦晶《刈跡》/ 1914年 / 油彩・カンヴァス / 日洋506
35. 白瀧幾之助《炉端》/ 油彩・板 / 日洋235
36. 坂本繁二郎《魚を持ってきた海女》/ 1913年 / 油彩・カンヴァス / 日洋204
37. 古賀春江《二階より》/ 1922年 / 油彩・カンヴァス / 寄託作品
38. 古賀春江《海女》/ 1923年 / 油彩・カンヴァス / 日洋169
39. 青木繁《月下滞船図》/ 1908年 / 油彩・カンヴァス / 日洋105
40. 青木繁《海の幸》/ 1904年 / 油彩・カンヴァス / 日洋95
41. 白髪一雄《白い扇》/ 1965年 / 油彩・カンヴァス / BMA / 日洋543
42. 岸田劉生《麗子像》/ 1922年 / テンペラ・カンヴァス / 日洋226
43. 山口長男《累形》/ 1958年 / 油彩・板 / 日洋184
44. 杉全直《キッコウ》/ 1961年 / 油彩・カンヴァス / 日洋187
45. 斎藤義重《作品》/ 1961年 / 油彩・合板 / BMA / 日洋524
46. 児島善三郎《海芋とキリン草》/ 1954年 / 油彩・カンヴァス / 日洋203
47. 内野秀美《羨の花》/ 1980年 / 油彩・カンヴァス / 日洋516
48. 藤島武二《チョチャラ》/ 1908-09年 / 油彩・カンヴァス / 日洋25
49. 小杉未醒《採果童子》/ 1928年 / 油彩・カンヴァス / 日洋545
50. 吉田博《ルガノ風景》/ 1925年 / 木版 / 日版26
51. 藤島武二《奈良風景》/ 1934年 / 油彩・カンヴァス / 日洋52
52. 猪熊弦一郎《青い星座》/ 1983年 / 油彩・カンヴァス / 日洋484
53. 野見山暁治《風の便り》/ 1997年 / 油彩・カンヴァス / 日洋520
54. 吉田博《瀬戸内海集　帆船　夜》/ 1926年 / 木版 / 日版70
55. 吉田博《マッターホルン　夜》/ 1925年 / 木版 / 日版27
56. 棟方志功《工楽両妃の柵》/ 1960年 / 木版 / 日版7
57. 中丸精十郎《瀑》/ 1890年 / 油彩・カンヴァス / 日洋1
58. 吉田博《奔流》/ 1936年 / 油彩・カンヴァス / 日洋82
59. 吉田博《ウダイプール宮殿》/ 1931年 / 油彩・カンヴァス / 日洋248
60. 金山平三《田沢の春》/ 1941年頃 / 油彩・カンヴァス / 日洋119
61. ロドルフ・ウィッツマン《水に映ずる家》/ 油彩・カンヴァス / 外洋216
62. 林倭衛《サント・ヴィクトワール》/ 1925-29年頃 / 油彩・カンヴァス / 日洋170
63. 安井曾太郎《水車小屋》/ 1911年頃 / 油彩・カンヴァス / 日洋460
64. 岡田三郎助《水浴の前》/ 1916年 / 油彩・カンヴァス / 日洋63
65. 岡田三郎助《髪梳く女》/ 1915年 / 油彩・カンヴァス / 日洋62
66. 和田英作《早春（富士）》/ 1939年 / 油彩・カンヴァス / 日洋66
67. 宇治山哲平《玖珠の山》/ 1954年 / 油彩・カンヴァス / 寄託作品
68. 満谷国四郎《瀬戸内海風景》/ 1928年 / 油彩・カンヴァス / 日洋234
69. 高島野十郎《ベニスの昼》/ 1930-33年頃 / 油彩・カンヴァスボード / 日洋467
70. 児島善三郎《風景》/ 1951年 / 水彩・紙 / 日洋190

71. 田崎廣助《風景》/ 昭和30年代 / 油彩・カンヴァス / 日洋278
72. 坂本繁二郎《放牧三馬》/ 1932年 / 油彩・カンヴァス / 日洋114
73. 藤島武二《屋島よりの遠望》/ 1932年 / 油彩・カンヴァス / 日洋50
74. 青木繁《海》/ 1904年 / 油彩・カンヴァス / 日洋498
75. 黒田清輝《針仕事》/ 1890年 / 油彩・カンヴァス / 日洋7
76. 黒田清輝《鉄砲百合》/ 1909年 / 油彩・カンヴァス / 日洋9
77. 松本英一郎《さくら・うし 95-1》/ 1995年 / 油彩・カンヴァス / 日洋555
78. 藤島武二《蒙古の日の出》/ 1937年 / 油彩・カンヴァス / 日洋56
79. 牧野虎雄《ひまわり》/ 1929年 / 油彩・カンヴァス / 日洋198
80. 平野遼《朝》/ 1991年 / 油彩・カンヴァス / 日洋532
81. エミリー・カーム・ウンワリィ《無題》/ 1996年 / 合成ポリマー絵具・アーティスツポリエステル / BMA / 外洋223
82. 村井正誠《人びと》/ 1983年 / 油彩・カンヴァス / BMA / 日洋549
83. キャサリン・ペチャリ《棘魔王トカゲのドリーミング》/ 2003年 / 合成ポリマー絵具・ベルギーリネン / BMA / 外洋218
84. 野見山暁治《かけがえのない空》/ 2011年 / 油彩・カンヴァス / 日洋588
85. 古賀春江《素朴な月夜》/ 1929年 / 油彩・カンヴァス / 日洋161
86. 猪熊弦一郎《犬と猫》/ 1954年 / グワッシュ、ペン、インク、鉛筆・紙 / 日洋486
87. 猪熊弦一郎《犬》/ 1954年 / グワッシュ、墨・紙 / 日洋485
88. 坂本繁二郎《水より上る馬》/ 1935年 / 水彩・紙 / 日洋449
89. 梅原龍三郎《静物（茄子と南瓜）》/ 1951年 / デトランプ・紙 / 日洋273
90. 坂本繁二郎《林檎　蜜柑　柿》/ 1958年 / 油彩・カンヴァス / 日洋216
91. 安井曾太郎《レモンとメロン》/ 1955年 / 油彩・カンヴァス / 日洋268
92. 坂本繁二郎《窓の馬》/ 1940年 / 油彩・カンヴァス / 寄託作品
93. 原田直次郎《童女図》/ 1885年頃 / 油彩・カンヴァス / 日洋6
94. 山下新太郎《山下みね八歳像》/ 1930年 / パステル・紙 / 日洋436
95. 山下新太郎《端午》/ 1915年 / 油彩・カンヴァス / 日洋423
96. 藤島武二《ポンペイ壁画模写》/ 1908年 / 油彩・カンヴァスボード / 日洋44
97. 藤島武二《ポンペイ壁画模写》/ 1908年 / 油彩・板 / 日洋43
98. 青木繁《闇威弥尼》/ 1903年 / 油彩・板 / 日洋89
99. 梅原龍三郎《桜島》/ 1935年 / 油彩・紙 / 日洋274
100. 牧野虎雄《罌粟》/ 油彩・カンヴァス / 日洋153
101. 井上三綱《相》/ 1960年 / 水彩、油彩・紙 / 日洋335
102. 中川一政《魚（春陽会石版画集）》/ 1956年頃 / リトグラフ / 日版6-2
103. 南城一夫《サーカスの馬（春陽会石版画集）》/ 1956年頃 / リトグラフ / 日版6-5
104. 中西利雄《ピアノのある部屋》/ 1947年 / 水彩・紙 / 日洋181
105. 海老原喜之助《素描11》/ ペン、インク、墨・紙 / 日洋223-11
106. 海老原喜之助《素描21》/ ペン、インク、鉛筆、水彩・紙 / 日洋223-21
107. 海老原喜之助《素描14》/ ペン、インク・紙 / 日洋223-14
108. 坂本繁二郎《自像》/ 1923-30年 / 油彩・カンヴァス / 日洋300
109. 坂本繁二郎《能面》/ 1954年 / 油彩・カンヴァス / 寄託作品
110. 豊福知徳《透過する立像（白）》/ 1991年 / 木彫彩色 / 日彫19
111. 豊福知徳《半円柱1》/ 1964年 / ブロンズ / 日彫15
112. 円山応挙《竹に狗子波に鴨図襖》/ 江戸時代（18世紀後半）/ 紙本墨画淡彩 / 日書43
113. 《唐子蓋置》/ 鋳銅 / 雑76
114. 中村芳中《四季草花図扇面貼交屏風》/ 江戸時代（19世紀初頭）/ 紙本著色 / 日書105

115. 円山応挙《牡丹孔雀図屏風》/ 1781年 / 絹本著色 / 日書42
116. 《武蔵野図屏風》/ 江戸時代（17世紀中葉）/ 紙本金地著色 / 日書49
117. 尾形乾山《不二図》/ 江戸時代（18世紀前半）/ 紙本著色 / 日書50
118. 池田孤邨《青楓朱楓図屏風》/ 江戸時代（19世紀前半）/ 紙本金地著色 / 日書57
119. 酒井抱一《新撰六歌仙四季草花図屏風》/ 江戸時代（19世紀前半）/ 紙本金地著色 / 日書107
120. 鈴木其一《富士筑波山図屏風》/ 江戸時代（19世紀前半）/ 紙本金地著色 / 日書106
121. 中国　龍泉窯《青磁鉄斑文瓶（飛青磁花瓶）》/ 元時代（14世紀）/ 磁器 / 陶器233
122. 日本 有田《色絵紫陽花唐花文鉢》/ 江戸時代（1670-1720年頃）/ 磁器 / 陶器212
123. 日本 瀬戸《瀬戸柿香合》/ 江戸時代後期 / 陶器 / 陶器281
124. 中国《唐物文琳茶入　銘「宝袋」》/ 江戸時代初期（17世紀初頭）/ 陶器 / 陶器268
125. 日本 萩《萩茶碗》/ 江戸時代（17世紀）/ 陶器 / 陶器275
126. 中国 龍泉窯《青磁長頸花生》/ 南宋時代（12-13世紀）/ 磁器 / 陶器190
127. 青木木米《秋渓渡橋》/ 江戸時代（19世紀初頭）/ 紙本墨画淡彩 / 日書55
128. 日本 有田《色絵竹梅文竹形水注》/ 江戸時代（1670-1690年頃）/ 磁器 / 陶器208

＊BMAはブリヂストン美術館所蔵、寄託作品は石橋美術館寄託作品、それ以外の表記のないものは石橋美術館所蔵であることを示す。

**関連事業：**

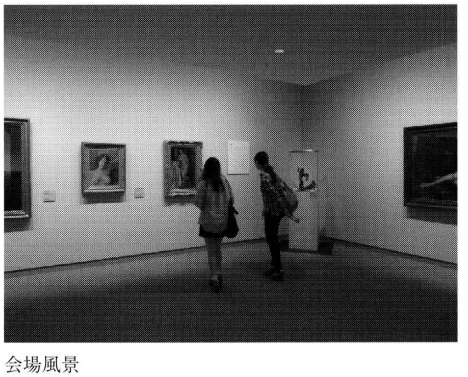
関連イベント　→　p.53
ギャラリートーク　→　p.54

**広報記録：**

新聞・雑誌：
「美を演出　ヒント紹介　石橋美術館　6月まで企画展」『西日本新聞』2013年3月24日
遠山武「キレイとは？　絵に学べ　石橋美術館が企画展・イベント　初回講師はモデル穂高さん」『朝日新聞』2013年3月28日
柴田菜々子「ジェンヌ美を伝授　元宝塚・穂高さん講座『姿勢は心と連動』」『朝日新聞』2013年4月10日

テレビ：
「ルックアップふくおか　金曜日　週末チェッキュウ！」TVQ　2013年5月10日放送

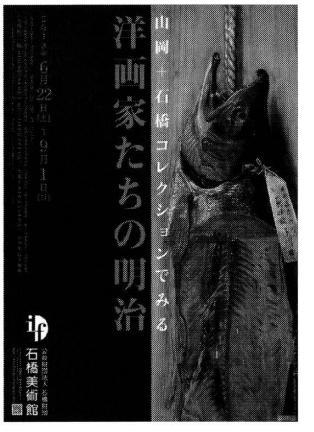
Web：
柴田菜々子「元タカラジェンヌの美の秘訣　福岡で歩き方など伝授」『朝日新聞デジタル』2013年4月10日


会場風景

会場風景

## 山岡＋石橋コレクションでみる洋画家たちの明治〈特別展〉

会期：2013年6月22日(土)－9月1日(日)
会場：本館、別館9室
主催：石橋財団石橋美術館 / 久留米市 / 西日本新聞社 / TVQ九州放送
後援：久留米市教育委員会 / 公益財団法人久留米文化振興会
協力：公益財団法人日動美術財団
概要：ヤンマーディーゼル（ヤンマー株式会社）創業者・山岡孫吉氏の収集になる山岡コレクションと石橋コレクションの明治期の洋画161点（山岡コレクション84、笠間日動美術館16、ブリヂストン美術館11、石橋美術館42、寄託作品8）によって、洋画の魅力に迫るとともに、洋画が日本に浸透し成熟していく過程をたどろうという試み。全8章で構成した。
出品内容：油彩124点、水彩14点、彫刻1点、その他22点　計161点
入場者総数：12,581人（1日平均：200人）



展覧会ポスター

**出品目録：**

**第1章　記録する絵画**

1. 高橋由一《住吉神社》/ 1874年 / 水彩・紙 / 笠間日動美術館（山岡コレクション）
2. 高橋由一《品川海晏寺紅葉図》/ 1880年頃 / 油彩・カンヴァス / 笠間日動美術館（山岡コレクション）
3. 床次正精《福山城》/ 油彩・カンヴァス / 笠間日動美術館（山岡コレクション）
4. 五姓田義松《七里ケ浜》/ 油彩・カンヴァス / 笠間日動美術館（山岡コレクション）
5. 五姓田義松《塩原風景》/ 油彩・カンヴァス / 笠間日動美術館（山岡コレクション）
6. 五姓田義松《駿河湾風景》/ 油彩・カンヴァス / 笠間日動美術館（山岡コレクション）
7. 二世五姓田芳柳《富嶽図》/ 油彩・カンヴァス / 笠間日動美術館（山岡コレクション）
8. 川村清雄《パルスレイケン像》/ 油彩・カンヴァス / 笠間日動美術館（山岡コレクション）
9. 原田直次郎《男の人》/ 1887年 / 油彩・厚紙 / IMA / 日洋305
10. 山本芳翠《議会スケッチ（A）》/ 1888年頃 / 墨、彩色・紙 / 笠間日動美術館（山岡コレクション）
11. 山本芳翠《議会スケッチ（B）》/ 1888年頃 / 墨、彩色・紙 / 笠間日動美術館（山岡コレクション）
12. 黒田清輝《清国負傷兵広島着》/ 1894年 / ペン、墨・紙 / 笠間日動美術館
13. 早川銓太郎《戦場の図》/ 油彩・カンヴァス / IMA / 日洋518
14. 東城鉦太郎《平壌攻略図》/ 油彩・絹 / 笠間日動美術館（山岡コレクション）
15. 東城鉦太郎《旅順開城》/ 1911年 / 油彩・カンヴァス / 笠間日動美術館（山岡コレクション）

**第2章　外国人作家**

16. チャールズ・ワーグマン《東禅寺浪士乱入図》/ 水彩・紙 / 笠間日動美術館（山岡コレクション）
17. チャールズ・ワーグマン《桶屋》/ 油彩・厚紙 / 笠間日動美術館
18. チャールズ・ワーグマン《小漁夫》/ 油彩・カンヴァス / 笠間日動美術館（山岡コレクション）
19. チャールズ・ワーグマン《ワーグマン夫人像》/ 水彩・紙 / 笠間日動美術館（山岡コレクション）
20. チャールズ・ワーグマン《明治の侍》/ 水彩・紙 / 笠間日動美術館
21. チャールズ・ワーグマン《車夫》/ 鉛筆・紙 / 笠間日動美術館（山岡コレクション）
22. チャールズ・ワーグマン《浦の風景》/ 油彩・カンヴァス / 笠間日動美術館

23. チャールズ・ワーグマン《東海道風景》/ 水彩・紙 / 笠間日動美術館（山岡コレクション）
24. チャールズ・ワーグマン《七里ケ浜》/ 水彩・紙 / 笠間日動美術館（山岡コレクション）
25. チャールズ・ワーグマン《百合図》/ 1878年 / 油彩・カンヴァス / 笠間日動美術館（山岡コレクション）
26. エドワルド・キヨソーネ《川上操六中将図》/ 1896年 / 木炭・紙 / 笠間日動美術館（山岡コレクション）
27. ラファエル・コラン《婦人像》/ 油彩・カンヴァス / 笠間日動美術館
28. ラファエル・コラン《横たわる裸婦》/ コンテ・紙 / 笠間日動美術館
29. ロドルフ・ウィッツマン《水に映ずる家》/ 油彩・カンヴァス / IMA / 外洋216
30. ジョルジュ・ビゴー《万歳》/ 油彩・カンヴァス / 笠間日動美術館（山岡コレクション）
31. ジョルジュ・ビゴー《日本の女》/ 油彩・カンヴァス / IMA / 外洋111
32. ジョルジュ・ビゴー《日光馬返し　つたや》/ 1886年 / 油彩・板 / 笠間日動美術館
33. ジョルジュ・ビゴー《普仏戦争》/ 1893年 / 石版画 / 笠間日動美術館（山岡コレクション）

**第3章　教育**

34. 高橋由一《三偉人　リンカーン、ビスマルク、ガリバルティ》/ 墨、淡彩・絹 / 笠間日動美術館（山岡コレクション）
35. 高橋由一《丁髷姿の自画像》/ 1866-67年頃 / 油彩・カンヴァス / 笠間日動美術館（山岡コレクション）
36. 中丸精十郎《瀑》/ 1890年 / 油彩・カンヴァス / IMA / 日洋1
37. 田村宗立《人物》/ 1880年 / 油彩・カンヴァス / 笠間日動美術館（山岡コレクション）
38. 浅井忠《外国婦人図（臨模）》/ 1877年 / 木炭・紙 / 笠間日動美術館（山岡コレクション）
39. 曾山幸彦《洋装少年》/ コンテ・紙 / 笠間日動美術館（山岡コレクション）
40. 松岡寿《ホルバインの「エラスムス」臨模》/ 鉛筆・紙 / 笠間日動美術館（山岡コレクション）
41. 小山正太郎《山村嫁女（A）》/ 1889年頃 / 油彩・紙 / 笠間日動美術館（山岡コレクション）
42. 小山正太郎《山村嫁女（B）》/ 1889年頃 / 油彩・カンヴァス / 笠間日動美術館（山岡コレクション）
43. 小山正太郎《青梅風景》/ 1902年 / 油彩・カンヴァス / 笠間日動美術館（山岡コレクション）
44. 小山正太郎《山村風景》/ 油彩・カンヴァス / 笠間日動美術館（山岡コレクション）
45. 小山正太郎《御嶽村遠望》/ 1892年 / 鉛筆、水彩・紙 / 笠間日動美術館（山岡コレクション）
46. 小山正太郎《入間川西岸笹井村渡頭》/ 1892年 / 鉛筆・紙 / 笠間日動美術館（山岡コレクション）
47. 小山正太郎《妙義山》/ 鉛筆・紙 / 笠間日動美術館（山岡コレクション）
48. 山下りん《ヤコブ像（使徒之図）》/ 油彩・カンヴァス / 笠間日動美術館
49. 山下りん《機密の晩餐》/ 油彩・カンヴァス / 笠間日動美術館
50. 原田直次郎《外国の男》/ 1889年 / 鉛筆、ペン、インク・紙 / IMA / 日洋311
51. 原田直次郎《画帳》/ BMA / 日洋310
52. 森三美《筑後風景》/ 1910年頃 / 油彩・板 / 寄託作品
53. 森三美《鶏のいる風景》/ 1910年頃 / 油彩・板 / 寄託作品
54. 坂本繁二郎《夏野》/ 1898年 / 油彩・カンヴァス / 寄託作品
55. 黒田清輝《裸体》/ 1889年 / 木炭・紙 / 笠間日動美術館（山岡コレクション）
56. 久米桂一郎《習作》/ 1889年 / 油彩・カンヴァス / 笠間日動美術館（山岡コレクション）
57. 青木繁《碓氷川磧》/ 1902年 / 鉛筆、淡彩・紙 / IMA / 日洋508
58. 青木繁《山上のスケッチ》/ 1902年 / 鉛筆・紙 / 寄託作品
59. 青木繁《妙義山金洞第一石門》/ 1902年 / 鉛筆、淡彩・紙 / 寄託作品
60. 青木繁《裸体》/ 1903年 / 木炭、赤チョーク・紙 / 笠間日動美術館（山岡コレクション）
61. 藤島武二《自画像》/ 1903年頃 / 油彩・カンヴァス / IMA / 日洋12
62. 青木繁《自画像》/ 1903年 / 油彩・カンヴァス / IMA / 日洋87
63. 中村彝《自画像》/ 1909年 / 油彩・カンヴァス / BMA / 日洋141

**第4章　留学**

64. 百武兼行 《臥裸婦》/ 1881年頃 / 油彩・カンヴァス / IMA / 日洋2
65. 百武兼行《ブルガリアの女》/ 1882年 / 油彩・カンヴァス / 笠間日動美術館（山岡コレクション）
66. 川村清雄《ベニス風景》/ 油彩・板 / 笠間日動美術館（山岡コレクション）
67. 五姓田義松《人形の着物》/ 1883年 / 油彩・カンヴァス / 笠間日動美術館（山岡コレクション）
68. 原田直次郎《童女図》/ 1885年頃 / 油彩・カンヴァス / IMA / 日洋6
69. 黒田清輝《針仕事》/ 1890年 / 油彩・カンヴァス / IMA / 日洋7
70. 黒田清輝《ブレハの少女》/ 1891年 / 油彩・カンヴァス / BMA / 日洋8
71. 岡田三郎助《臥裸婦》/ 1901年 / 油彩・カンヴァス / BMA / 日洋230
72. 岡田三郎助《薔薇の少女》/ 1901年 / 油彩・カンヴァス / IMA / 日洋231
73. 浅井忠《グレーの洗濯場》/ 1901年 / 油彩・カンヴァス / BMA / 日洋290
74. 浅井忠《樹下の女》/ 1901年頃 / 油彩・カンヴァス / IMA / 日洋291
75. 浅井忠《縫物》/ 1902年 / 油彩・カンヴァス / BMA / 日洋4
76. 中村不折《男の裸体》/ 1902年頃 / 油彩・カンヴァス / 笠間日動美術館
77. 和田英作《読書》/ 1902年 / 油彩・カンヴァス / IMA / 日洋64
78. 藤島武二《ヴェルサイユ風景》/ 1906-07年 / 油彩・カンヴァス / IMA / 日洋21
79. 藤島武二《チョチャラ》/ 1908-09年 / 油彩・カンヴァス / IMA / 日洋25
80. 藤島武二《ヴィラ・デステの池》/ 1908-09年 / 油彩・カンヴァスボード / IMA / 日洋40
81. 藤島武二《ネミ湖》/ 1908年 / 油彩・板 / IMA / 日洋24
82. 山下新太郎《ベラスケス「マルガリータ王女」の模写》/ 1907年 / 油彩・カンヴァス / IMA / 日洋391
83. 山下新太郎《読書》/ 1908年 / 油彩・カンヴァス / BMA / 日洋83
84. 山下新太郎《ブルターニュの女》/ 1908年 / 油彩・板 / IMA / 日洋206
85. 山下新太郎《ノラ・ファルク嬢》/ 1908年 / 油彩・カンヴァス / IMA / 日洋252
86. 山下新太郎《シュザンヌ》/ 1909年 / 油彩・カンヴァス / IMA / 日洋211
87. 安井曾太郎《水車小屋》/ 1911年頃 / 油彩・カンヴァス / IMA / 日洋460
88. 梅原龍三郎《脱衣婦》/ 1912年 / 油彩・カンヴァス / BMA / 日洋200

**第5章　歴史を描く**

89. 山本芳翠《婦女横笛》/ 油彩・カンヴァス / 笠間日動美術館（山岡コレクション）
90. 山本芳翠《鬼と少女》/ 油彩・紙 / 笠間日動美術館（山岡コレクション）
91. 五姓田義松《少年法界坊》/ 水彩・紙 / 笠間日動美術館（山岡コレクション）
92. 黒田清輝《昔語り（画稿）》/ 1896年頃 / 木炭・紙 / 笠間日動美術館（山岡コレクション）
93. 二世五姓田芳柳《上杉景勝一笑図》/ 1890年 / 油彩・カンヴァス / 笠間日動美術館（山岡コレクション）
94. 二世五姓田芳柳《大楠公》/ 油彩・カンヴァス / 笠間日動美術館（山岡コレクション）
95. 揚忠三郎《北野天神之図》/ 1889年 / 油彩・カンヴァス / 笠間日動美術館（山岡コレクション）
96. 山内愚僊《住吉神社》/ 1902年 / 油彩・カンヴァス / 笠間日動美術館（山岡コレクション）
97. 佐久間文吾《天神境内》/ 油彩・紙 / 笠間日動美術館（山岡コレクション）
98. 佐久間文吾《北野神社》/ 油彩・カンヴァス / 笠間日動美術館（山岡コレクション）
99. 藤島武二《天平の面影》/ 1902年 / 油彩・カンヴァス / IMA / 日洋11
100. 青木繁《闇威弥尼》/ 1903年 / 油彩・板 / IMA / 日洋89
101. 青木繁《輪転》/ 1903年 / 油彩・カンヴァス / IMA / 日洋90
102. 青木繁《天平時代》/ 1904年 / 油彩・カンヴァス / BMA / 日洋91
103. 青木繁《光明皇后》/ 1905年 / 油彩・カンヴァス / IMA / 日洋102
104. 青木繁《大穴牟知命》/ 1905年 / 油彩・カンヴァス / IMA / 日洋197

105. 青木繁《わだつみのいろこの宮》/ 1907年 / 油彩・カンヴァス / IMA / 日洋104
106. 渡部審也《供待図》/ 1909年 / 油彩・カンヴァス / 笠間日動美術館（山岡コレクション）
107. 中村不折《裸体図》/ 油彩・カンヴァス / 笠間日動美術館（山岡コレクション）
108. 中沢弘光《思い出（下図）》/ 1909年 / 油彩・カンヴァス / IMA / 日洋72

**第6章　日常を描く**

109. 原田直次郎《村の風景》/ 油彩・板 / IMA / 日洋307
110. 山本芳翠《内海風景》/ 油彩・板 / 笠間日動美術館（山岡コレクション）
111. 山本芳翠《日の出》/ 油彩・板 / 笠間日動美術館（山岡コレクション）
112. 渡辺文三郎《多摩夕照図》/ 1878年 / 水彩・紙 / 笠間日動美術館（山岡コレクション）
113. 渡辺幽香《渓流》/ 油彩・カンヴァス / 笠間日動美術館（山岡コレクション）
114. 萩生田文太郎《湖》/ 油彩・カンヴァス / IMA / 日洋414
115. 長原孝太郎《百合図》/ 1899年 / 油彩・カンヴァス / 笠間日動美術館（山岡コレクション）
116. 山本芳翠《琉球風景（A）》/ 1887-88年 / 油彩・厚紙 / 笠間日動美術館（山岡コレクション）
117. 山本芳翠《琉球風景（B）》/ 1887-88年 / 油彩・厚紙 / 笠間日動美術館（山岡コレクション）
118. 湯浅一郎《緑陰》/ 1900年 / 油彩・カンヴァス / 笠間日動美術館（山岡コレクション）
119. 青木繁《海》/ 1904年 / 油彩・カンヴァス / IMA / 日洋498
120. 青木繁《月下滞船図》/ 1908年 / 油彩・カンヴァス / IMA / 日洋105
121. 岡田三郎助《彫刻師》/ 1890-91年 / 油彩・カンヴァス / 笠間日動美術館（山岡コレクション）
122. 坂本繁二郎《町裏》/ 1904年 / 油彩・カンヴァス / 寄託作品
123. 中村不折《老漁師》/ 1906年 / 油彩・カンヴァス / 笠間日動美術館（山岡コレクション）
124. 渡部審也《百姓》/ 油彩・カンヴァス / 笠間日動美術館（山岡コレクション）
125. 黒田清輝《杣》/ 油彩・カンヴァス / BMA / 日洋10
126. 黒田清輝《鉄砲百合》/ 1909年 / 油彩・カンヴァス / IMA / 日洋9
127. 松本豊太（松濤）《二人の少女》/ 1902年 / 油彩・カンヴァス / IMA / 日洋535
128. 青木繁《二人の少女》/ 1909年 / 油彩・カンヴァス / 笠間日動美術館
129. 小林鐘吉《舞妓図》/ 1909年 / 油彩・カンヴァス / 笠間日動美術館（山岡コレクション）
130. 橋本邦助《姉妹》/ 油彩・カンヴァス / 笠間日動美術館（山岡コレクション）
131. 荻原守衛（碌山）《女》/ 1910年 / ブロンズ / 笠間日動美術館（山岡コレクション）

**第7章　生活の中の絵画**

132. 高橋由一《鮭図》/ 1879-80年 / 油彩・板 / 笠間日動美術館（山岡コレクション）
133. 高橋由一《鯛図》/ 油彩・板 / 笠間日動美術館
134. 伝 高橋由一《蔬菜図》/ 油彩・紙 / 笠間日動美術館（山岡コレクション）
135. 山本芳翠《けしと小鳥》/ 1892年 / 油彩・カンヴァス / 笠間日動美術館（山岡コレクション）
136. 川村清雄《双鶏の図》/ 油彩・板 / 笠間日動美術館（山岡コレクション）
137. 川村清雄《花の宴》/ 油彩・板 / 笠間日動美術館
138. 彭城貞徳《静物》/ 油彩・カンヴァス / 笠間日動美術館（山岡コレクション）
139. 彭城貞徳《油絵屏風》/ 油彩・カンヴァス / 笠間日動美術館
140. 鈴木烏川《能舞図「末廣」》/ 油彩・板 / 笠間日動美術館（山岡コレクション）
141. 須田輝洲《牡丹と水仙》/ 油彩・板 / 笠間日動美術館（山岡コレクション）
142. 北蓮蔵《静物》/ 油彩・カンヴァス / 笠間日動美術館（山岡コレクション）
143. 北蓮蔵《静物（鼓）》/ 油彩・板 / 笠間日動美術館（山岡コレクション）
144. 青木繁《女の顔》/ 1904年 / 油彩・板 / IMA / 日洋98
145. 青木繁《風景》/ 1904年 / 水彩・絹 / IMA / 日洋99
146. 青木繁《絵かるた》/ 1904年 / 水彩・紙 / 寄託作品

147. 青木繁《絵かるた》/ 1904年 / 水彩・紙 / 寄託作品
148. 青木繁《春》/ 1908年 / 水彩・襖布 / IMA / 日洋106
149. 青木繁《秋》/ 1908年 / 水彩・襖布 / IMA / 日洋107

**第8章　博覧会から展覧会へ**

150. 高橋由一《本牧海岸》/ 1877年頃 / 油彩・カンヴァス / 笠間日動美術館（山岡コレクション）
151. 五姓田芳柳《美人吹笛図》/ 彩色・絹 / 笠間日動美術館
152. 五姓田義松《富嶽図》/ 油彩・カンヴァス / 笠間日動美術館（山岡コレクション）
153. 岡精一《捜索》/ 1889年 / 油彩・カンヴァス / 笠間日動美術館（山岡コレクション）
154. 渡辺幽香《房州根本海岸》/ 1897年 / 油彩・カンヴァス / 笠間日動美術館（山岡コレクション）
155. 和田英作《快晴》/ 1897年 / 油彩・カンヴァス / 笠間日動美術館（山岡コレクション）
156. 渡部審也《猿曳図》/ 1898年 / 油彩・カンヴァス / 笠間日動美術館（山岡コレクション）
157. 青木繁《海の幸》/ 1904年 / 油彩・カンヴァス / IMA / 日洋95
158. 黒田清輝《黒田清兼像》/ 1907年 / 油彩・カンヴァス / 笠間日動美術館（山岡コレクション）
159. 岡田三郎助《婦人像》/ 1907年 / 油彩・カンヴァス / BMA / 日洋60
160. 満谷国四郎《かりそめの悩み》/ 1907年 / 油彩・カンヴァス / 笠間日動美術館（山岡コレクション）
161. 満谷国四郎《かぐや姫》/ 1909年 / 油彩・カンヴァス / 笠間日動美術館

＊IMAは石橋美術館所蔵、BMAはブリヂストン美術館所蔵、寄託作品は石橋美術館寄託作品であることを示す。

**関連事業：**

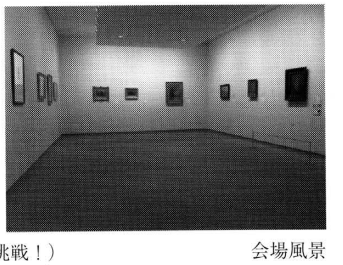
夏休みこどもプログラム　→　p.54
ギャラリートーク　→　p.54

**広報記録：**

新聞・雑誌：
「洋画から刺激　成熟の足跡」『朝日新聞』2013年7月25日
「洋画家たちの明治　石橋美術館から」(1)〜(4)『西日本新聞』2013年7月25日、26日、29日、31日

テレビ：
「日曜美術館」（アートシーン）NHK Eテレ、2013年6月23日放送
「ルックアップふくおか　金曜日　週末チェッキュウ！」TVQ　2013年7月5日放送

夏休みこどもプログラム（クイズに挑戦！）


会場風景

夏休みこどもプログラム（絵に挑戦！）

## 画家のことば〈コレクション展示〉

会期：2013年9月14日（土）－12月27日（金）
会場：本館、別館9室
主催：石橋財団石橋美術館 / TVQ九州放送
後援：久留米市 / 公益財団法人久留米文化振興会
概要：作者自身が書いた、あるいは語った言葉を作品とともに紹介し、作家や作品についての理解を深めようとするもの。石橋美術館およびブリヂストン美術館のコレクションより148点を選び、語られた言葉の内容によって、「作品」「画論」「ひと」「人生」の4セクションに分けて展示した。
出品内容：油彩113点、書画13点、版画9点、彫刻4点、その他9点　計148点
入場者総数：12,961人（1日平均：136人）

展覧会ポスター

**出品目録：**

**I　作品**

1. 豊福知徳《半円柱1》/ 1964年 / ブロンズ / IMA / 日彫15
2. 豊福知徳《透過する立像（白）》/ 1991年 / 木彫彩色 / IMA / 日彫19
3. 黒田清輝《針仕事》/ 1890年 / 油彩・カンヴァス / IMA / 日洋7
4. 黒田清輝《ブレハの少女》/ 1891年 / 油彩・カンヴァス / BMA / 日洋8
5. 黒田清輝《鉄砲百合》/ 1909年 / 油彩・カンヴァス / IMA / 日洋9
6. 和田英作《読書》/ 1902年 / 油彩・カンヴァス / IMA / 日洋64
7. 浅井忠《グレーの洗濯場》/ 1901年 / 油彩・カンヴァス / BMA / 日洋290
8. 浅井忠《樹下の女》/ 1901年頃 / 油彩・カンヴァス / IMA / 日洋291
9. 浅井忠《縫物》/ 1902年 / 油彩・カンヴァス / BMA / 日洋4
10. 山下新太郎《読書》/ 1908年 / 油彩・カンヴァス / BMA / 日洋83
11. 山下新太郎《ブルターニュの女》/ 1908年 / 油彩・板 / IMA / 日洋206
12. 藤島武二《天平の面影》/ 1902年 / 油彩・カンヴァス / IMA / 日洋11
13. 藤島武二《五剣山の日の出》/ 1932年 / 油彩・カンヴァス / IMA / 日洋49
14. 藤島武二《屋島よりの遠望》/ 1932年 / 油彩・カンヴァス / IMA / 日洋50
15. 藤島武二《旭光（新高山）》/ 1935年 / 油彩・カンヴァス / IMA / 日洋244
16. 藤島武二《蒙古の日の出》/ 1937年 / 油彩・カンヴァス / IMA / 日洋56
17. 中沢弘光《思い出（下図）》/ 1909年 / 油彩・カンヴァス / IMA / 日洋72
18. 岡田三郎助《婦人像》/ 1907年 / 油彩・カンヴァス / BMA / 日洋60
19. 青木繁《わだつみのいろこの宮》/ 1907年 / 油彩・カンヴァス / IMA / 日洋104
20. 辻永《ハルピンの冬》/ 1917年 / 油彩・カンヴァス / IMA / 日洋116
21. 辻永《春（パリ郊外）》/ 1921年 / 油彩・カンヴァス / IMA / 日洋117
22. 坂本繁二郎《牛》/ 1920年 / 油彩・カンヴァス / IMA / 日洋301
23. 坂本繁二郎《母の像》/ 1927年 / 油彩・カンヴァス / IMA / 寄託作品
24. 藤田嗣治《横たわる女と猫》/ 1932年 / 油彩・カンヴァス / IMA / 日洋215

25. 安井曾太郎《玉蟲先生像》/ 1934年 / 油彩・カンヴァス / IMA / 日洋144
26. 須田国太郎《檮原風景》/ 1955年 / 油彩・カンヴァス / IMA / 日洋157
27. 長谷川利行《動物園風景》/ 1937年頃 / 油彩・カンヴァス / IMA / 日洋155
28. 古賀春江《窓外風景》/ 1927年 / 水彩・紙 / IMA / 日洋582
29. 古賀春江《素朴な月夜》/ 1929年 / 油彩・カンヴァス / IMA / 日洋161
30. 古賀春江《鳥籠》/ 1929年 / 油彩・カンヴァス / IMA / 日洋164

**II　画論**

31. ウジェーヌ・ドラクロワ《馬習作》/ 水彩・紙 / BMA / 外洋129
32. 藤島武二《自画像》/ 1903年頃 / 油彩・カンヴァス / IMA / 日洋12
33. 岡田三郎助《水浴の前》/ 1916年 / 油彩・カンヴァス / IMA / 日洋63
34. 岡田三郎助《薔薇の少女》/ 1901年 / 油彩・カンヴァス / IMA / 日洋231
35. モーリス・ドニ《バッカス祭》/ 1920年 / 油彩・カンヴァス / BMA / 外洋65
36. パウル・クレー《島》/ 1932年 / 油彩、砂を混ぜた石膏・板 / BMA / 外洋202
37. ギュスターヴ・クールベ《石切り場の雪景色》/ 1870年頃 / 油彩・カンヴァス / BMA / 外洋11
38. アドルフ・モンティセリ《庭園の貴婦人》/ 1870-80年 / 油彩・板 / BMA / 外洋13
39. ピエール=オーギュスト・ルノワール《花のついた帽子の女》/ 1917年 / 油彩・カンヴァス / BMA / 外洋35
40. アンリ・ド・トゥールーズ=ロートレック《エグランティーヌ一座》/ 1896年 / リトグラフ / BMA / 外版162
41. ジョルジュ・ルオー《熱帯の風景（『ユビュおやじの再生』より）》/ 1928年 / インタリオ（凹版）/ BMA / 外版224
42. ジョルジュ・ルオー《呪文（『ユビュおやじの再生』より）》/ 1928年 / インタリオ（凹版）/ BMA / 外版225
43. 青木繁《自画像》/ 1903年 / 油彩・カンヴァス / IMA / 日洋87
44. 坂本繁二郎《自画鏡像》/ 1929年 / 油彩・紙 / IMA / 日洋113
45. マリー・ローランサン《二人の少女》/ 1923年 / 油彩・カンヴァス / BMA / 外洋72
46. マリー・ローランサン《女と犬》/ 1923年頃 / 油彩・カンヴァス / BMA / 外洋186
47. マリー・ローランサン《手鏡を持つ女》/ 1937年頃 / 油彩・カンヴァス / BMA / 外洋145
48. マルク・シャガール《モーゼ》/ 1956年 / カラーリトグラフ / BMA / 外版113
49. 安井曾太郎《レモンとメロン》/ 1955年 / 油彩・カンヴァス / IMA / 日洋268
50. ゲオルゲ・グロッス《プロムナード》/ 1926年 / 油彩・カンヴァス / BMA / 外洋167
51. 児島善三郎《立つ》/ 1928年 / 油彩・カンヴァス / IMA / 日洋495
52. ジョアン・ミロ《迷宮の星》/ 1967年 / エッチング、ドライポイント、アクアチント、研磨剤 / BMA / 外版431
53. ジャン・デュビュッフェ《スカーフを巻くエディット・ボワソナス》/ 1947年 / 油彩・紙 / BMA / 外洋192
54. ジャン・デュビュッフェ《暴動》/ 1961年 / 油彩・カンヴァス / BMA / 外洋193
55. アンス・アルトゥング《T 1963 K7》/ 1963年 / アクリル・カンヴァス / BMA / 外洋228
56. 斎藤義重《作品》/ 1961年 / 油彩・合板 / BMA / 日洋524
57. セルジュ・ポリアコフ《コンポジション》/ 1959年 / 油彩・カンヴァス / BMA / 外洋215
58. ジャクソン・ポロック《Number 2, 1951》/ 1951年 / 油彩・カンヴァス / BMA / 外洋209
59. 野見山暁治《あしたの場所》/ 2008年 / 油彩・カンヴァス / IMA / 日洋587
60. 野見山暁治《かけがえのない空》/ 2010年 / 油彩・カンヴァス / IMA / 日洋588
61. 白髪一雄《白い扇》/ 1965年 / 油彩・カンヴァス / BMA / 日洋543
62. 白髪一雄《観音普陀落浄土》/ 1972年 / 油彩・カンヴァス / BMA / 日洋544

63. ポール・セザンヌ《水浴群像》/ 1897-1900年頃 / 鉛筆、水彩・紙 / BMA / 外洋30
64. ワシリー・カンディンスキー《二本の線》/ 1940年 / ミクストメディア・カードボード / BMA / 外洋217
65. ピエール・ボナール《海岸》/ 1920年 / 油彩・カンヴァス / BMA / 外洋53
66. アンリ・マティス《オダリスク》/ 1926年 / 油彩・カンヴァス / BMA / 外洋60
67. ラウル・デュフィ《静物》/ 1915-20年頃 / 油彩・カンヴァス / BMA / 外洋73
68. ラウル・デュフィ《オーケストラ》/ 1942年 / 油彩・カンヴァス / BMA / 外洋123
69. フェルナン・レジェ《女の顔》/ 1953年 / リトグラフ / BMA / 外版190
70. ジョルジュ・ブラック《コンポジション》/ 1910年 / エッチング / BMA / 外版112
71. ジャン・アルプ《コンポジション》/ 木版 / BMA / 外版150
72. ジャン・アルプ《For Saint Gaiden》/ シルクスクリーン / BMA / 外版426
73. 中村彝《自画像》/ 1909年 / 油彩・カンヴァス / BMA / 日洋141
74. 高島野十郎《筑紫観世音寺》/ 1952年 / 油彩・カンヴァス / IMA / 日洋466
75. ジャン・フォートリエ《人質の頭部》/ 1945年 / 油彩・カンヴァスに貼られた紙 / BMA / 外洋188
76. ジャン・フォートリエ《旋回する線》/ 1963年 / 油彩・カンヴァスに貼られた紙 / BMA / 外洋189
77. 岡鹿之助《望楼》/ 1959-61年 / 油彩・カンヴァス / BMA / 日洋299
78. 宇治山哲平《玖珠の山》/ 1954年 / 油彩・カンヴァス / 寄託作品
79. ピエール・スーラージュ《絵画、26 May 1969》/ 1969年 / 油彩・カンヴァス / BMA / 外洋210
80. 平野遼《朝》/ 1991年 / 油彩・カンヴァス / IMA / 日洋532

**Ⅲ　ひと**

81. オーギュスト・ロダン《ピュヴィス・ド・シャヴァンヌ》/ 1891年 / ブロンズ / BMA / 外彫41
82. オーギュスト・ロダン《カミーユ・クローデル》/ 1889年 / ブロンズ / BMA / 外彫42
83. 猪熊弦一郎《青い星座》/ 1983年 / 油彩・カンヴァス / IMA / 日洋484
84. 藤島武二《浪（大洗）》/ 1931年 / 油彩・カンヴァス / IMA / 日洋48
85. 藤島武二《奈良風景》/ 1934年 / 油彩・カンヴァス / IMA / 日洋52
86. 石井柏亭《傘松（ナポリ風景）》/ 1923年 / 油彩・カンヴァス / IMA / 日洋109
87. 石井柏亭《ソレント》/ 1923年 / 油彩・カンヴァス / IMA / 日洋108
88. 坂本繁二郎《少女》/ 1922年 / 油彩・カンヴァス / IMA / 日洋111
89. 坂本繁二郎《読書の女》/ 1923年 / 油彩・カンヴァス / IMA / 日洋112
90. 坂本繁二郎《パリ郊外》/ 1923年 / 油彩・カンヴァス / IMA / 日洋192
91. 坂本繁二郎《帽子を持てる女》/ 1923年 / 油彩・カンヴァス / IMA / 日洋195
92. 坂本繁二郎《老婆》/ 1923年 / 油彩・カンヴァス / IMA / 日洋573
93. 小出楢重《裸婦》/ 1925年 / 油彩・カンヴァス / IMA / 日洋138
94. 小出楢重《裸婦素描》/ 1926年 / コンテ・紙 / IMA / 日洋139
95. 青木繁《天平時代》/ 1904年 / 油彩・カンヴァス / BMA / 日洋91
96. 青木繁《海》/ 1904年 / 油彩・カンヴァス / IMA / 日洋498
97. 青木繁《海の幸》/ 1904年 / 油彩・カンヴァス / IMA / 日洋95
98. 青木繁《大穴牟知命》/ 1905年 / 油彩・カンヴァス / IMA / 日洋197
99. 小杉未醒《採果童子》/ 1928年 / 油彩・カンヴァス / IMA / 日洋545
100. 吉田博《上高地》/ 1927年頃 / 油彩・カンヴァス / IMA / 日洋250
101. 吉田博《奔流》/ 1936年 / 油彩・カンヴァス / IMA / 日洋82
102. 満谷国四郎《ブルターニュ風景》/ 1913年頃 / 油彩・カンヴァス / IMA / 日洋68
103. 満谷国四郎《瀬戸内海風景》/ 1928年 / 油彩・カンヴァス / IMA / 日洋234
104. 石川寅治《風景》/ 油彩・カンヴァス / IMA / 日洋412
105. 石川寅治《農事忙》/ 1947年 / 油彩・カンヴァス / IMA / 日洋81
106. クロード・モネ《霧のテームズ河》/ 1901年 / パステル・紙 / BMA / 外洋135

107. ピエール=オーギュスト・ルノワール《水浴の女》/ 1907年頃 / 油彩・カンヴァス / BMA / 外洋136
108. 山下新太郎《シュザンヌ》/ 1909年 / 油彩・カンヴァス / IMA / 日洋211
109. 山下新太郎《端午》/ 1915年 / 油彩・カンヴァス / IMA / 日洋423
110. 梅原龍三郎《脱衣婦》/ 1912年 / 油彩・カンヴァス / BMA / 日洋200
111. 坂本繁二郎《自像》/ 1923-30年 / 油彩・カンヴァス / IMA / 日洋300
112. 坂本繁二郎《放牧三馬》/ 1932年 / 油彩・カンヴァス / IMA / 日洋114
113. 坂本繁二郎《窓の馬》/ 1940年 / 油彩・カンヴァス / 寄託作品
114. 青木繁《闇威弥尼》/ 1903年 / 油彩・板 / IMA / 日洋89
115. 青木繁《輪転》/ 1903年 / 油彩・カンヴァス / IMA / 日洋90
116. 青木繁《海》/ 1904年 / 油彩・板 / IMA / 日洋94
117. 岸田劉生《画家の妻》/ 1914年 / 油彩・カンヴァス / IMA / 日洋229
118. 岸田劉生《麗子像》/ 1922年 / テンペラ・カンヴァス / IMA / 日洋226
119. 古賀春江《誕生》/ 1924年 / 油彩・カンヴァス / IMA / 日洋167
120. 古賀春江《単純な哀話》/ 1930年 / 油彩・カンヴァス / IMA / 日洋162
121. 佐伯祐三《コルドヌリ（靴屋）》/ 1925年 / 油彩・カンヴァス / IMA / 日洋173
122. 佐伯祐三《広告貼り》/ 1927年 / 油彩・カンヴァス / IMA / 日洋176
123. 佐伯祐三《休息（鉄道工夫）》/ 1927年頃 / 油彩・カンヴァス / IMA / 日洋188

**Ⅳ　人生**

124. 仙厓《虎渓三笑》/ 江戸時代 / 紙本墨画 / IMA / 日書12
125. 仙厓《観音図》/ 江戸時代 / 絹本墨画 / IMA / 日書13
126. 仙厓《猫鼠》/ 江戸時代 / 紙本墨画 / IMA / 日書14
127. 富岡鉄斎《飲中八仙図》/ 紙本著色 / IMA / 日書16
128. 川端龍子《木蒐（竹夜）》/ 紙本墨画淡彩 / IMA / 日書31
129. 川端龍子《白梅図》/ 紙本金地著色 / IMA / 日書32
130. 前田青邨《獅子図》/ 1935年頃 / 紙本金地著色 / IMA / 日書39
131. 前田青邨《風神雷神》/ 1949年頃 / 紙本墨画淡彩 / IMA / 日書37
132. 前田青邨《紅白梅》/ 1970年頃 / 紙本著色 / IMA / 日書38
133. 堅山南風《双鯉》/ 紙本淡彩 / IMA / 日書34
134. 堅山南風《鯉》/ 絹本著色 / IMA / 日書35
135. 上村松篁《春日》/ 1996年 / 紙本金地著色 / IMA / 日書94
136. 上村松篁《桔梗》/ 紙本著色 / IMA / 日書96
137. 板谷波山《氷華磁葡萄文花瓶》/ 1927-30年頃 / 磁器 / IMA / 陶器194
138. 坂本繁二郎《柿》/ 1944年 / 油彩・カンヴァス / IMA / 日洋210
139. 坂本繁二郎《能面と謡本》/ 1951年 / 油彩・カンヴァス / 寄託作品
140. 坂本繁二郎《能面》/ 1954年 / 油彩・カンヴァス / 寄託作品
141. 坂本繁二郎《植木鉢》/ 1959年 / 油彩・カンヴァス / 寄託作品
142. 坂本繁二郎《箱》/ 1959年 / 油彩・カンヴァス / 寄託作品
143. 坂本繁二郎《植木鉢》/ 1961年 / 油彩・カンヴァス / 寄託作品
144. 坂本繁二郎《能面と鼓の胴》/ 1962年 / 油彩・カンヴァス / IMA / 日洋568
145. 坂本繁二郎《香炉》/ 1947年 / 油彩・カンヴァス / 寄託作品
146. 三岸節子《フランス風景》/ 油彩・カンヴァス / IMA / 日洋287
147. 村井正誠《人びと》/ 1983年 / 油彩・カンヴァス / BMA / 日洋549
148. ザオ・ウーキー《27.12.76》/ 1976年 / 油彩・カンヴァス / BMA / 外洋196

＊IMAは石橋美術館所蔵、BMAはブリヂストン美術館所蔵、寄託作品は石橋美術館寄託作品であることを示す。

**関連事業：**

美術講座　→　p.53
ギャラリートーク　→　p.54

**広報記録：**

新聞・雑誌：
田中修二「カルチャー WEST 石橋美術館『画家のことば』」『朝日新聞』2013年10月8日
「画家の言葉と作品紹介　石橋美術館」『毎日新聞』2013年10月12日

テレビ：
「ルックアップふくおか　金曜日　週末チェッキュウ！」TVQ　2013年9月27日放送

会場風景

会場風景

## 〈土曜講座〉

土曜日　14:00－16:00　ホール

| 通算回数 | 月　日 | 講座題目 | 講師 |
|---|---|---|---|
| 《21世紀の美術館づくり》 | | | |
| 企画＝貝塚　健 | | | |
| 2253 | 2013年 2月 2日 | 近作について | 西沢立衛 氏（建築家） |
| 2254 | 2月 9日 | 社会貢献と作品づくりの両立を目指して | 坂　茂 氏（建築家） |
| 2255 | 2月23日 | 自然の中の新しい美術の場をめざして | 太田泰人 氏（女子美術大学教授・元神奈川県立近代美術館普及課長） |
| 2256 | 2月23日 | 21世紀型キュレーターの仕事—創造の現場づくり | 不動美里 氏（金沢21世紀美術館学芸課長） |
| 2257 | 3月 2日 | 夢と理想の美術館をつくる | 西田宏子 氏（根津美術館副館長） |
| 《地中海学会春期連続講演会「地中海世界を生きる」》 | | | |
| 企画＝亀長洋子 氏（学習院大学教授、地中海学会） | | | |
| 2258 | 2013年 4月 6日 | 聖俗の支配者としてのローマ教皇—中世ヨーロッパを読み解く鍵として | 藤崎　衛 氏（東京大学助教） |
| 2259 | 4月13日 | 人文主義者たちの仕事と読者—ダンテ、ペトラルカからポリツィアーノまで | 村松真理子 氏（東京大学准教授） |
| 2260 | 4月20日 | 君主の魅力—中世地中海に君臨した皇帝フリードリヒ2世 | 高山　博 氏（東京大学教授） |
| 2261 | 4月27日 | 公証人であること—フィレンツェ書記官長コルッチョ・サルターティの時代の公証人と社会 | 徳橋　曜 氏（富山大学教授） |
| 2262 | 5月 4日 | 建築家という職能—フィレンツェ初期ルネサンスの建設現場 | 石川　清 氏（愛知産業大学教授） |
| 《巴里の日本人ものがたり》 | | | |
| 企画＝貝塚　健 | | | |
| 2263 | 2013年 5月11日 | パリの日本人美術家—国立美術学校・アカデミーから個性の探索へ | 和田博文 氏（東洋大学教授） |
| 2264 | 5月18日 | 薩摩治郎八とパリの日本人画壇—1920年代、30年代のパリ事情 | 江川佳秀 氏（徳島県立近代美術館学芸調査課長） |
| 2265 | 5月25日 | 藤田嗣治：重層化するパリ・イメージ | 林　洋子 氏（京都造形芸術大学准教授） |
| 2266 | 6月 1日 | 佐伯祐三が見た1920年代のパリ | 熊田　司 氏（和歌山県立近代美術館館長） |
| 2267 | 6月 8日 | パリ好き？ パリ嫌い？—坂本繁二郎と小出楢重のフランス体験 | 貝塚　健（ブリヂストン美術館学芸課課長） |
| 《色で読む美術》 | | | |
| 企画＝賀川恭子 | | | |
| 2268 | 2013年 7月 6日 | 印象派の青い影—近代絵画と色彩の問題 | 千足伸行 氏（成城大学名誉教授） |

2269 2013年 7月13日 色と生活―新印象派から色彩療法まで ―― 加藤有希子 氏（埼玉大学准教授）
2270 7月20日 肖像画の衣飾の色は何を語る ―― 徳井淑子 氏（お茶の水大学大学院教授）
2271 7月27日 虹は何色？絵に描かれた虹 ―― 岡田温司 氏（京都大学大学院教授）
2272 8月 3日 色から視る美術の楽しさ教えます―色材文化史の試み
―― 降旗千賀子 氏（目黒区美術館学芸係長）

《地中海学会秋期連続講演会「芸術家と地中海都市Ⅲ」》
企画＝秋山 聡 氏（東京大学大学院人文社会系研究科准教授、地中海学会）
2273 2013年10月19日 ピカソ：青春の光と影―赤と青のバルセロナ
―― 大高保二郎 氏（早稲田大学文学学術院教授）
2274 10月26日 フェイディアスとアテネ ―― 芳賀京子 氏（東北大学准教授）
2275 11月 2日 ローマのブラマンテ：真の古代建築との出会い
―― 飛ヶ谷潤一郎 氏（東北大学准教授）
2276 11月 9日 ミケランジェロとヴェネツィア ―― 石井元章 氏（大阪芸術大学教授）
2277 11月16日 マドリード宮廷とベラスケス ―― 貫井一美 氏（清泉女子大学講師）

《印象派の画家ギュスターヴ・カイユボット》
企画＝新畑泰秀
2278 2013年11月23日 近代都市パリとカイユボット ―― 坂上桂子 氏（早稲田大学文学学術院教授）
2279 11月30日 印象派にとっての写真、写真にとっての印象派
―― 鈴木理策 氏（写真家）×倉石信乃 氏（明治大学教授）
2280 12月 7日 印象派グループ展のなかのカイユボット ―― 島田紀夫（ブリヂストン美術館館長）
2281 12月14日 都市の印象派、カイユボット ―― 新畑泰秀（ブリヂストン美術館学芸課長）

## 〈ギャラリートーク〉

展示室でのギャラリートークを、カイユボット展期間中を除く毎週水曜日と金曜日、下記の時間帯に当館学芸員が実施した。
水曜日、金曜日 15:00－16:00

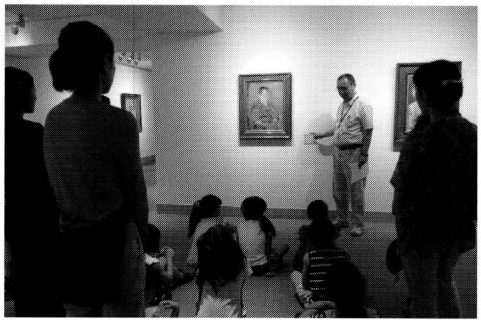
## 〈スライドトーク〉

カイユボット展の開催にあわせて、スライドトークを美術館1階ホールにて実施した。
水曜日、金曜日 15:00－16:00

## 〈ファミリープログラム〉

小学生を含む家族を対象にしたプログラムを、下記の時間帯に実施した。
日曜日　10:30－12:30

2013年 1月13日　「大切なひととき」
4組11人（子ども6人、大人5人）
1月20日　「大切なひととき」
4組9人（子ども4人、大人5人）
2月 3日　「大切なひととき」
6組16人（子ども8人、大人8人）
2月17日　「目でさわる」
5組12人（子ども5人、大人7人）
2月24日　「目でさわる」
6組16人（子ども9人、大人7人）
3月 3日　「目でさわる」
6組12人（子ども6人、大人6人）
4月28日　「帽子 好き？好き！大好き」
4組9人（子ども5人、大人4人）
5月12日　「帽子 好き？好き！大好き」
6組18人（子ども10人、大人8人）
5月19日　「帽子 好き？好き！大好き」
6組15人（子ども7人、大人8人）
6月30日　「“色の魔術師”はだあれ？」
3組6人（子ども3人、大人3）
7月 7日　「“色の魔術師”はだあれ？」
6組14人（子ども7人、大人7人）
7月14日　「“色の魔術師”はだあれ？」
5組12人（子ども6人、大人6人）
8月 4日　「色と形のくみあわせ」
6組16人（子ども7人、大人9人）
8月11日　「色と形のくみあわせ」
6組14人（子ども7人、大人7人）
8月18日　「色と形のくみあわせ」
5組15人（子ども8人、大人7人）
8月25日　「色と形のくみあわせ」
5組11人（子ども5人、大人6人）



## 〈インターンシップ〉

2013年4月7日から2014年3月31日まで、下記の通り教育普及部門のインターンシップを行った。

インターン：
浦島七那（一橋大学大学院 言語社会研究科 修士課程）
大関真梨加（東京学芸大学大学院 教育学研究科 修士課程）
古本智恵（早稲田大学大学院 文学研究科人文科学専攻美術史学コース 修士課程）
堀江直未（学習院大学大学院 人文科学研究科美術史専攻）
宮本里穂（早稲田大学大学院 文学研究科人文科学専攻美術史学コース 修士課程）
実習活動日：48日間
主な実習内容：美術館における教育普及活動の実務
担当：貝塚健、細矢芳

## 〈職場体験学習〉

2013年　7月5日（金）、7月9日（火）、7月11日（木）
鷗友学園女子中学校3年生5人
8月16日（金）、8月24日（土）、8月25日（日）
豊島岡女子学園中学校2年生3人
11月12日（火）、11月13日（水）、11月14日（木）
東京都立白鷗高校附属中学校2年生5人
12月11日（水）、12月12日（木）、12月14日（土）
星美学園中学校3年生4人
担当：貝塚健、細矢芳

## 〈美術講座〉

月　日　　講座題目　　講師

《「金閣・銀閣の寺宝展 雪舟、等伯、宗達、そして若冲」関連美術講座》

2013年 2月 2日（土）「若冲の歌を聴け。―その虚像と実像」
―――――――――――――――― 狩野博幸氏（同志社大学教授）
石橋文化会館小ホール　14:00－15:30

《「画家のことば」関連美術講座》

11月30日（土）「印象派の画家たちのことば」―――――― 賀川恭子（ブリヂストン美術館学芸員）
講座室　14:00－15:30

## 〈展覧会関連イベント〉

《「金閣・銀閣の寺宝展 雪舟、等伯、宗達、そして若冲」関連イベント》

2013年 1月26日（土）　12:00－17:00　キモノで楽しむ金閣・銀閣展
石橋美術館・有馬記念館　参加者15名

《「美へのレッスン」関連イベント ビューティーレッスン》

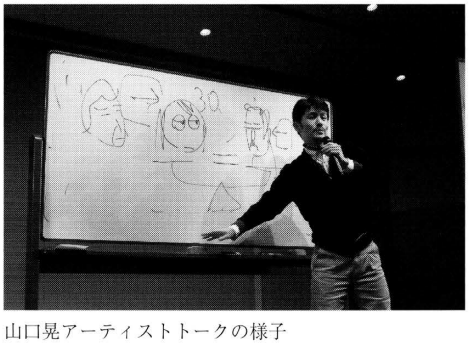
4月 6日（土）　心と体を美しくスタイルup！　ワークショップ　穂高ゆう 氏
講座室　14:00－16:00　18名

4月27日（土）　山口晃アーティストトーク　山口　晃 氏
石橋文化会館小ホール　14:00－15:30　137名

5月11日（土）　色のチカラで美力up！　色彩心理とパステルワーク　山澤かおる 氏
講座室　13:00－15:00　19名

5月25日（土）　キュレーターズトーク　画家坂本繁二郎に学ぶ　伊藤絵里子
講座室　14:00－15:30　33名

6月 1日（土）　スイーツビュッフェと私だけの美術館
楽水亭・展示室　15:30－18:30　14名



山口晃アーティストトークの様子

心と体を美しくスタイルup！　ワークショップの様子

## 〈ギャラリートーク〉

学芸員とサポートボランティアがギャラリートークを行った。
「美へのレッスン」毎週日曜日。
「山岡＋石橋コレクションでみる洋画家たちの明治」毎週日曜日。
7月13日（土）、8月10日（土）は学芸員による拡大版ギャラリートーク。
「画家のことば」土曜日はボランティア、日曜日は学芸員。

## 〈学習の場としての美術館利用〉

| | | | |
|---|---|---|---|
| 2013年 | 2月14日（木） | 久留米市立明星中学校1年「地域発見学習」 | 4名 |
| | 7月24日（水） | 久留米信愛女学院中学校3年「職場体験」 | 1名 |
| | 7月24日（水） | 福岡県立輝翔館中等教育学校2年「職場体験」 | 3名 |
| | 9月19日（木） | 久留米市立江南中学校3年「職場体験」 | 2名 |
| | 10月 1日（火） | 久留米市立青陵中学校1年「インタビュー」 | 4名 |
| | 11月 8日（金） | 久留米市立南薫小学校2年「生活科町探検」 | 10名 |

（対応すべて泉田）

## 〈館外活動〉

| | | |
|---|---|---|
| 2013年 | 6月 8日（土） | 崇城大学芸術学部博物館実習見学会「展覧会ができるまで」<br>於：講座室　約15名（担当＝伊藤） |
| | 9月21日（土） | アクロス･文化学び塾「画家のことばを読む」<br>於：アクロス福岡　約40名（担当＝森山） |
| | 10月 1日（火） | 平成25年度えーるピアシニアカレッジ「郷土の芸術家」<br>於：えーるピア久留米　約20名（担当＝伊藤） |
| | 10月 3日（木） | 久留米学（文化と社会）「石橋正二郎と美術館」<br>於：久留米大学　約200名（担当=森山） |

## 〈夏休みこどもプログラム〉

6月22日（土）～9月1日（日）、企画展「山岡＋石橋コレクションでみる洋画家たちの明治」にあわせ、「クイズに挑戦！」と題しワークシートを配布。また、「絵に挑戦！」として、展示作品から青木繁《海の幸》、湯浅一郎《緑陰》になりきれる舞台装置、小道具を用意。参加者は作品をよく観察し、絵になりきった。またその様子を撮影し、写真を会場に貼り出して紹介した。

## 〈サポートボランティア〉

2013年度の登録者は38名。年間8回の研修を実施。ギャラリートーク、坂本旧アトリエ解説、学校を主とする団体受入や文化センター内のイベント等で5,000名を超える来館者に対応した。
（ボランティアの活動期間は4月から翌3月までの1年間）

サポートボランティア：
荒巻夏子、江崎修、江頭由美子、大津和寛、貴島英雄、清川千穂、小島裕子、小西なほみ、近藤孝子、坂井弘美、里中健、高田幸、高橋有嘉子、高橋佑太、壇沙織、月貫テル子、恒吉佐知子、寺崎祐子、豊福淳子、豊福真知子、仲上祥世、中野直美、西原和美、原尚子、秀島千鶴子、福永和子、藤木康宏、細川典彦、松枝成芳、松隈千重子、虫明しのぶ、牟田麻里耶、村上恵子、森房乃、諸富孝子、矢ヶ部節子、吉田美知代、渡邊睦美　　以上38名

## 〈博物館実習生受入〉

学芸員資格取得のための博物館実習を下記のように実施した。
期間：2013年8月22日（木）、9月12日（木）、21日（土）、28日（土）、29日（日）、10月5日（土）、6日（日）、12日（土）、19日（土）の計9日間。
実習生：5名（5校）
実習内容：

| | | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 6 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | 9:30-10:45 | 10:45-12:00 | 13:00-14:15 | 14:15-15:30 | 15:30-16:45 | 16:45-17:30 |
| 8月22日 | 木 | ガイダンス | 美術館運営 | 施設見学 | | | 質疑・応答<br>ノートまとめ |
| 9月12日 | 木 | 展示替え作業 | | 展示替え作業 | | | 質疑・応答<br>ノートまとめ |
| 9月21日 | 土 | 展覧会1 | 展覧会2 | 展覧会3<br>14:00-14:20ギャラリートーク見学 | 教育普及1 | 教育普及2 | 質疑・応答<br>ノートまとめ |
| 9月28日 | 土 | 作品管理1 | 作品管理2 | 作品調査1 | 作品調査2 | 文献･情報検索 | 質疑・応答<br>ノートまとめ |
| 9月29日 | 日 | リーフ作成説明 | テーマ決め1 | テーマ決め2 | テーマ決め3 | テーマ発表 | 質疑・応答<br>ノートまとめ |
| 10月5日 | 土 | 文献調査1 | 文献調査2 | リーフ作成3 | リーフ作成4 | プラン発表1 | 質疑・応答<br>ノートまとめ |
| 10月6日 | 日 | 文献調査3 | 文献調査4 | 文献整理5 | リーフ作成5 | リーフ作成6 | 質疑・応答<br>ノートまとめ |
| 10月12日 | 土 | リーフ作成7 | リーフ作成8 | リーフ作成9 | リーフ作成10 | リーフ作成11 | 質疑・応答<br>ノートまとめ |
| 10月19日 | 土 | リーフ作成12 | リーフ作成13 | リーフ作成14 | リーフ作成15 | リーフ設置・<br>反省会 | ノートまとめ |

＊実習の成果発表として、展示作品についての解説リーフレット作成を課題とした。作成したリーフレットは展示室内に設置した。

# 入場者数

ブリヂストン美術館

| 月 | 開館日数 | 有料 | | | | 無料 | | 総計 | 一日平均 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | 一般 | 大高生 | 団体 | 合計 | 合計 | (うち中小生) | | |
| 1 | 22 | 4,479 | 748 | 88 | 5,315 | 1,745 | 251 | 7,060 | 321 |
| 2 | 25 | 5,771 | 575 | 134 | 6,480 | 3,159 | 957 | 9,639 | 386 |
| 3 | 17 | 4,214 | 390 | 144 | 4,748 | 2,290 | 195 | 7,038 | 414 |
| 4 | 25 | 7,795 | 325 | 141 | 8,261 | 2,085 | 168 | 10,346 | 414 |
| 5 | 28 | 10,057 | 503 | 82 | 10,642 | 3,735 | 296 | 14,377 | 513 |
| 6 | 16 | 6,364 | 627 | 162 | 7,153 | 3,071 | 295 | 10,224 | 639 |
| 7 | 27 | 8,784 | 1,262 | 278 | 10,324 | 3,384 | 898 | 13,708 | 508 |
| 8 | 27 | 10,489 | 1,149 | 137 | 11,775 | 4,502 | 1,725 | 16,277 | 603 |
| 9 | 16 | 6,573 | 692 | 237 | 7,502 | 2,797 | 293 | 10,299 | 644 |
| 10 | 20 | 10,148 | 662 | 453 | 11,263 | 1,925 | 114 | 13,188 | 659 |
| 11 | 27 | 18,822 | 1,438 | 612 | 20,872 | 4,412 | 396 | 25,284 | 936 |
| 12 | 27 | 28,275 | 2,564 | 446 | 31,285 | 8,988 | 577 | 40,273 | 1,492 |
| 合計 | 277 | 121,771 | 10,935 | 2,914 | 135,620 | 42,093 | 6,165 | 177,713 | 642 |

石橋美術館

| 月 | 開館日数 | 有料 | | | | 無料 | | | 総計 | 一日平均 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | 一般 | 大高生 | 団体 | 合計 | 中小生 | 招待他 | 合計 | | |
| 1 | 18 | 3,001 | 72 | 7,304 | 10,377 | 752 | 1,306 | 2,058 | 12,435 | 690 |
| 2 | 25 | 4,631 | 88 | 9,223 | 13,942 | 1,087 | 2,339 | 3,426 | 17,368 | 694 |
| 3 | 17 | 2,430 | 70 | 3,007 | 5,507 | 204 | 1,313 | 1,517 | 7,024 | 413 |
| 4 | 26 | 1,523 | 40 | 784 | 2,347 | 222 | 1,229 | 1,451 | 3,798 | 146 |
| 5 | 28 | 2,775 | 77 | 1,161 | 4,013 | 156 | 712 | 868 | 4,881 | 174 |
| 6 | 16 | 1,404 | 95 | 677 | 2,176 | 449 | 689 | 1,138 | 3,314 | 207 |
| 7 | 27 | 1,812 | 62 | 1,048 | 2,922 | 511 | 524 | 1,035 | 3,957 | 146 |
| 8 | 27 | 2,909 | 176 | 959 | 4,044 | 946 | 1,406 | 2,352 | 6,396 | 236 |
| 9 | 17 | 1,313 | 53 | 439 | 1,805 | 269 | 365 | 634 | 2,439 | 143 |
| 10 | 28 | 1,693 | 50 | 678 | 2,421 | 689 | 389 | 1,078 | 3,499 | 124 |
| 11 | 27 | 1,648 | 101 | 896 | 2,645 | 1,754 | 454 | 2,208 | 4,853 | 179 |
| 12 | 24 | 939 | 78 | 635 | 1,652 | 451 | 625 | 1,076 | 2,728 | 113 |
| 合計 | 280 | 26,078 | 962 | 26,811 | 53,851 | 7,490 | 11,351 | 18,841 | 72,692 | 260 |

坂本繁二郎旧アトリエ（石橋文化センター内）

| イベント名 | 開催日 | 日数 | 入場者数 |
|---|---|---|---|
| つばきまつり | 3/16 ～ 17 | 2 | 316 |
| SAKURA まつり | 3/30 ～ 31 | 2 | 343 |
| バラフェア | 5/3 ～ 6 | 4 | 1,351 |
| はなしょうぶまつり | 6/22 ～ 23 | 2 | 193 |
| 秋の久留米まち旅博覧会 | 10/1 | 1 | 12 |
| 秋のバラフェア | 10/26 ～ 27 | 2 | 399 |
| | 合計 | 13 | 2,614 |

絵画　Paintings

白髪一雄
SHIRAGA Kazuo
1924-2008

昏杜
1990年
油彩・カンヴァス
145.5×97.0cm
日洋591

Konto
1990
Oil on canvas
145.5×97.0cm

来歴：個人、日本；2013年、石橋財団
Prov.: Private collection, Japan; 2013, Ishibashi Foundation

展覧会歴 Exh.：
「白髪一雄展—黒の世界」、カサハラ画廊（大阪）、1990年

文献 Bibl.：
『白髪一雄展—格闘から生まれた絵画』展図録、白髪一雄展実行委員会、2009年、p.195

白髪一雄は吉原治良に師事し、1955（昭和30）年に具体美術協会会員となり、第１回具体美術展に参加。1970（昭和45）年の第20回展まで出品を続けた。ミッシェル・タピエに認められ、1957年の「世界現代芸術展」（ブリヂストン美術館）、翌年の「新しい絵画展—アンフォルメルと具体」に出品するなど、アンフォルメルの内外美術展に招待出品した。

本作は、画家66歳の時の作品。この頃白髪は、国内外の複数の個展・グループ展に出品しており、作品も精力的に制作を行っていた。同年の11月には、大阪のカサハラ画廊で個展『白髪一雄展—黒の世界』を11月26日から12月15日まで開催しているが、本作は同展に出品されたものである。白髪の作品は、多色を大きな画面に大胆に塗りつける作品が多いが、しばしば単色、あるいは2色といった限られた色彩の作品も制作している。本作は、黒を主題とした作品であり、白の地に黒の絵具が大胆に覆い、それを貫くように黄色の絵具が効果的に用いられ、画面を活気づけている。

ピエール・スーラージュ
Pierre SOULAGES
1919-

絵画　2007年3月26日
2007年
アクリル・カンヴァス
202.0×157.0cm
外洋249

Peinture 26 Mars 2007
2007
Acrylic on canvas
202.0×157.0cm

来歴：ピエール・スーラージュ；2013年、石橋財団
Prov.: Pierre SOULAGES; 2013, Ishibashi Foundation

©ADAGP, Paris & JASPAR, Tokyo, 2014 E0940

1919 年にフランス中南部アヴェイロン県のロデスに生まれたスーラージュは戦後フランスの抽象絵画を代表する画家である。1958 年にザオ・ウーキーとともにブリヂストン美術館を訪れている。
スーラージュの絵画は、色彩の黒と筆触、材質感を特色とするが、この表現について、本人は、様々な試みの結果としながらも、そのなかに日本の美術、特に漆塗りの技法などに関心があった、と語っている。本作品は、黒一色で覆われた画家特有の絵画で、2000年以降のスーラージュの絵画の特徴である、水平方向の複数のテクスチャーを光の反射を含めて提示する。スーラージュは、戦後まもない時期よりフランスにおいて抽象絵画を先導して来たが、ヨーロッパ美術界においては、戦後の一時期のみならず半世紀以上の長きにわたり抽象画を独自に発展させてきた画家としての見直しがなされ

吉原治良
YOSHIHARA Jiro
1905-1972

作品
1969年
アクリル・カンヴァス
45.5×53.0cm
右下に署名と年記：Yoshihara ／ 69
日洋592

Work
1969
Acrylic on canvas
45.5×53.0cm
Signed and dated lower right

来歴：マレットジャパン；2013年、石橋財団
Prov.: Mallet Japan; 2013, Ishibashi Foundation

吉原治良は1905（明治38）年、大阪市に生まれた。1928（昭和3）年、関西学院高等商業学部を卒業。1938（昭和13）年、二科の前衛作家による「九室会」結成に参加。1952（昭和27）年、「現代美術懇談会」（ゲンビ）の発足に幹事として参加。1954（昭和29）年、「具体美術協会」を結成し、代表となった。本作は、吉原が、最晩年に到達した円シリーズのひとつ。勢いよく描かれたように見えながら、青と赤の境界を計算し、細部は緻密に塗り込めるように作られている。円をモチーフにした吉原の最晩年の制作については、前衛書の雑誌『墨美』に関わっていたことから、書の世界との繋がりも指摘されている。円という普遍的なかたちを通して、西洋の熱い抽象と、東洋的な書の手法を結びつけて、まったく新しい絵画の創造を試みた。円の作品の内で明るい青の地に鮮やかな赤の円が際立つ作品である。

堂本尚郎
DOMOTO Hisao
1928-2013

水の四季—春夏秋冬
1990年
アクリル、油彩・カンヴァス
200.0×200.0cm
裏面に署名、題記、書込：Domoto 堂本尚郎、水の四季　春夏秋冬・”Kyoto
日洋590

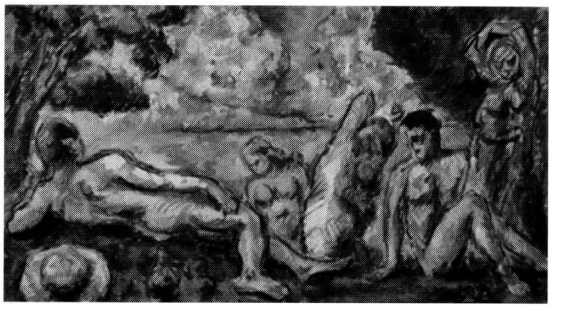
Four Seasons of Water: Spring, Summer, Autumn, Winter
1990
Acrylic on canvas
200.0×200.0cm
Signed, titled and inscribed on the reverse

来歴：マレットジャパン；2013年、石橋財団
Prov.: Mallet Japan; 2013, Ishibashi Foundation

文献 Bibl.：
高階秀爾「（美の季節）堂本尚郎との青春—セーヌ河での語らい」『朝日新聞』2013年10月31日.

堂本尚郎は1928（昭和3）年京都生まれ。京都市立美術工芸学校で日本画を学び、在学中から日展に入選し将来を嘱望された。1952（昭和27）年、堂本印象に同行。55年、渡仏して洋画に転じ、アンフォルメルの運動に身を投じた。1970年代には、円形が繰り返し用いられ、天体と関連する作品名を与えられた作品群が制作された。80年代以降は、様々な色のアクリルを用いて連続するS字状が画面全体に広がる、薄塗りの「連鎖反応」シリーズが生み出された。1980年代中頃以降S字の連鎖の上に支持体の矩形を反復する作品があらわれるが、本作もその延長にあると考えられる。1990年の作品。5枚のカンヴァスがつなぎ合わされて出来ており、それぞれに「春」「夏」「秋」「冬」の題記がある。

ポール・セザンヌ
Paul CÉZANNE
1839-1906



水浴
1865-70年頃
水彩・紙
11.0×19.9cm
外洋231

Male and Women Bathers
c.1865-70
Watercolor on paper
11.0×19.9cm

来歴：アンブロワーズ・ボラール；福島繁太郎；福島葉子；WWFジャパン；2013年、石橋財団
Prov.: Ambroise Vollard, Paris; FUKUSHIMA Shigetaro; FUKUSHIMA Yoko; WWF Japan; 2013, Ishibashi Foundation

展覧会歴 Exh.：1934年、東京府美術館「第9回国画会展覧会 福島コレクション特別出品」；1951年、神奈川県立近代美術館、鎌倉「セザンヌ・ルノワール展」no.10；1955年、ブリヂストン美術館「旧福島コレクション展」no.2；1966年、ブリヂストン美術館「旧福島コレクション展覧会」no.2；1989, Kunstmuseum Basel, Paul Cézanne die Badenden, no.73；2007年、ブリヂストン美術館「特集展示：セザンヌ4つの魅力—人物, 静物, 風景, 水浴」no.16

文献 Bibl.：1914, Paris, Ambroise Vollard, *Cézanne*, no.129；1936, Paris, Lionello Venturi, *Cézanne: Son Art, Son Œuvre*, no.819；1949 年、志賀直哉「セザンヌ『水浴』」『心』2巻7号；1951年、福島繁太郎「セザンヌの水浴図」『アトリエ』302号；1957年、『セザンヌⅡ』（みすず美術ライブラリー no.37）、no.14；1951年、柳亮『近代絵画の百年』美術出版社、p.46；1955年、「旧福島コレクション特集号」『みづゑ』597号、no.2；1977年、島田紀夫「セザンヌの男性水浴図—2点の石版画の成立をめぐって」『ブリヂストン美術館館報』25号、p.24, 図8；1989, Basel, Mary Louise Krumrine, Beiträgen von Gottfried Boehm und Christian Geelhaan, *Paul Cézanne die Badenden*, pp.77, 105, 109, 167, 208；1993, London, John Rewald, *Paul Cézanne: The Watercolours*, no.36, p.92

アンリ・マティス
Henri MATISSE
1869-1954

石膏のある静物
1927年
油彩・カンヴァス
52.0×64.0cm
右下に署名
外洋232

Still Life with Plaster Torso
1927
Oil on canvas
52.0×64.0cm
Signed lower right: Henri Matisse

©2014 Succession H.Matisse / SPDA, Tokyo

来歴：福島繁太郎；福島葉子；WWFジャパン；2013年、石橋財団
Prov.: FUKUSHIMA Shigetaro; FUKUSHIMA Yoko; WWF Japan; 2013, Ishibashi Foundation

展覧会 Exh.：1951年、東京国立博物館「マチス展」no.51；1955年、ブリヂストン美術館「旧福島コレクション展」no.10；1966年、ブリヂストン美術館「旧福島コレクション展覧会」no.11；1981年、ひろしま美術館「ひろしま美術館・ブリヂストン美術館交換展　ブリヂストン美術館名作展」no.54；1981年、東京国立近代美術館 / 京都国立近代美術館「マチス展」no.65；1997-98年、ブリヂストン美術館「西洋美術に魅せられた15人のコレクターたち 1890-1940」no.47；2002年、東京国立近代美術館「未完の世紀—20世紀美術がのこすもの」no.59；2009年、ブリヂストン美術館「テーマ展示：マティスの時代—フランスの野性と洗練」no.43

文献 Bibl.：1929年、『美術新論』2月、口絵；1933年、『美術新論』2月、口絵；1934年、『美術』2月、口絵；1969年、『Matisse・Rouault』（世界美術全集14）、山田書院、no.19；1995年、橋秀文「青山義雄、知られざる芸術とその魅力」『青山義雄展』図録、神奈川県立近代美術館、n.p., 挿図4；1995, Guy-Patrice et Michel Dauberville, *Matisse: Henri Matisse chez Berneim-Jeune*, no.673.

アンリ・マティス
Henri MATISSE
1869-1954

静物
1903年
油彩・カンヴァス
7.0×9.0cm
右下に署名
外洋233

Still Life
1903
Oil on canvas
7.0×9.0cm
Signed lower right: HM

©2014 Succession H.Matisse / SPDA, Tokyo

来歴：福島繁太郎；福島葉子；WWFジャパン；2013年、石橋財団
Prov.: FUKUSHIMA Shigetaro; FUKUSHIMA Yoko; WWF Japan; 2013, Ishibashi Foundation

展覧会 Exh.：1955年、ブリヂストン美術館「旧福島コレクション展」no.4；1966年、ブリヂストン美術館「旧福島コレクション展覧会」no.5；1981年、東京国立近代美術館 / 京都国立近代美術館「マチス展」no.14；2009年、ブリヂストン美術館「テーマ展示：マティスの時代—フランスの野性と洗練」no.8

文献 Bibl.：1955年、「旧福島コレクション特集号」『みづゑ』597号、表紙

アンリ・マティス
Henri MATISSE
1869-1954

マルグリットの頭部
1925年
鉛筆・紙
25.0×19.0cm
右下に献辞・署名
外洋234

Head of Marguerite
1925
Pencil on paper
25.0×19.0cm
Dedicated and signed lower right: Hommage respecteaux / à Madame Fukushima / Henri – Matisse / 5 juillet 1925

来歴：1925年7月5日、マティスより滞仏中の福島慶子に贈られる；福島繁太郎；福島葉子；WWFジャパン；2013年、石橋財団
Prov.: On July 5, 1925, Matisse gifted the work to Mrs. Keiko Fukushima, during her stay in France; FUKUSHIMA Shigetaro; FUKUSHIMA Yoko; WWF Japan; 2013, Ishibashi Foundation

展覧会 Exh.：1955年、ブリヂストン美術館「旧福島コレクション展」no.9；1961年、ブリヂストン美術館「旧福島コレクション展覧会」no.12；1981年、東京国立近代美術館 / 京都国立近代美術館「マチス展」no.120；2009年、ブリヂストン美術館「テーマ展示：マティスの時代―フランスの野性と洗練」no.40

文献 Bibl.：1950年、福島繁太郎『エコール・ド・パリ』第1巻、新潮社、pp.152-153

ジョルジュ・ルオー
Georges ROUAULT
1871-1958

芝居の呼び込み
1906年
油彩・カンヴァスで裏打ちされた紙
28.1×45.0cm
右下に署名
外洋235

Parade
1906
Oil on paper mounted on canvas
28.1×45.0cm
Signed lower right：G. Rouault

©ADAGP, Paris & JASPAR, Tokyo, 2014 E0940

来歴：福島繁太郎；福島葉子；WWFジャパン；2013年、石橋財団
Prov.: FUKUSHIMA Shigetaro; FUKUSHIMA Yoko; WWF Japan; 2013, Ishibashi Foundation

展覧会 Exh.：1953年、東京国立博物館「ルオー展」no.13；1955年、ブリヂストン美術館「旧福島コレクション展覧会」no.27；1958年、ブリヂストン美術館「ルオー遺作展」no.6；1965, Musée du Québec; Montréal, Musée d'art contemporain, *Rouault*, no.13；1966年、ブリヂストン美術館「旧福島コレクション展覧会」no.13；2002年、ブリヂストン美術館「ブリヂストン美術館開館50周年記念：コレクター石橋正二郎―青木繁、坂本繁二郎から西洋美術へ」；2009年、ブリヂストン美術館「テーマ展示：マティスの時代―フランスの野性と洗練」no.11

文献 Bibl.：1929年、『美術新論』2月、口絵；1930年、『ルオー画集』美術新論社、no.11；1924年、『美術』2月、口絵；1936年、『西欧名家原色画集』第1輯、東方美術学院、no.1；1951年、柳亮『近代絵画の百年』美術出版社、p.56；1955年、福島繁太郎（編）『ルオー』（講談社版アート・ブックス20）、大日本雄弁会講談社、no.23；1955年、「旧福島コレクション特集号」『みづゑ』597号、no.48；1958年、福島繁太郎（編著）『ルオー』新潮社、p.33；1963年、座右宝刊行会（編）『現代の絵画』第2巻、小学館、p.113；1965年、『芸術新潮』11月、口絵；1972年、『現代世界美術全集』第12巻、集英社、no.3；1977年、福島慶子「私とルオー」『NHK日曜美術館』第6集、p.159；1988, Monte-Carlo, Bernard Dorival et Isabelle Rouault, *Rouault: L'Œuvre peint*, tome 1, no.89.

ジョルジュ・ルオー
Georges ROUAULT
1871-1958

赤鼻のクラウン
1925-29年
油彩・板で裏打ちされた紙
75.0×52.0cm
右下に署名
外洋236

Clown with the Red Nose
1925-29
Oil on paper mounted on panel
75.0×52.0cm
Signed lower right：G. Rouault

来歴：福島繁太郎；福島葉子；WWFジャパン；2013年、石橋財団
Prov.: FUKUSHIMA Shigetaro; FUKUSHIMA Yoko; WWF Japan; 2013, Ishibashi Foundation

©ADAGP, Paris & JASPAR, Tokyo, 2014 E0940

展覧会 Exh.：1953年、東京国立博物館「ルオー展」no.22；1955年、ブリヂストン美術館「旧福島コレクション展覧会」no.32；1958年、ブリヂストン美術館「ルオー遺作展」no.16；1965, Musée du Québec; Montréal, Musée d'art contemporain, Roulault, no.13；1966年、ブリヂストン美術館「旧福島コレクション展覧会」no.17；1981年、ひろしま美術館「ひろしま美術館・ブリヂストン美術館交換展　ブリヂストン美術館名作展」no.59；1997-98年、ブリヂストン美術館「西洋美術に魅せられた15人のコレクターたち 1890-1940」no.51；2009年、ブリヂストン美術館「テーマ展示：マティスの時代―フランスの野性と洗練」no.24

文献 Bibl.：1928年、『美術新論』7月、口絵；1934年、『美術』2月、口絵；1934年、『アトリエ』2月、口絵；1963年、座右宝刊行会（編）『現代の絵画』第2巻、小学館、p.113；1958年、福島繁太郎（編著）『ルオー』新潮社、p.108；1955年、福島繁太郎（編）『ルオー』（講談社版アート・ブックス20）、大日本雄弁会講談社、no.18；1955年、『現代絵画の四巨匠 Maisse Picasso Braque Rouault』読売新聞社、p.125；1955年、「旧福島コレクション特集号」、『みづゑ』597号、no.40；1963年、『世界美術全集』第37巻、角川書店、no.11；1961年、貝塚茂樹（編）『図説世界文化史大系』第10巻（ヨーロッパ近代）、角川書店、p.231；1960年、『世界名画全集』第15巻（五人の巨匠ピカソ、マティス、ルオー、シャガール、クレー）、平凡社、p.61；1969年、富永惣一『ルオー』（世界美術全集 / 座右宝刊行会編）、第19巻、no.26；1969年、向井潤吉他（編）『Matisse・Rouault』（世界美術全集第14巻）、山田書院、no.30；1972年、『現代世界美術全集』第12巻、集英社、no.18；1977年、福島慶子「私とルオー」『NHK日曜美術館』第6集、p.151；柏木俊秀「福島コレクションと父のこと」『日本美術』150号（春期号）、p.178；1980年、倉田三郎他（編）『世界の美術』第3巻（人物II［半身像］）、ぎょうせい、p.49（※作品解説：信定宏郎）；1972年、高階秀爾・島田紀夫（責任編集）『ルオー』（アートギャラリー現代世界の美術第11巻ルオー）、集英社（※図版解説：島田紀夫）；1988, Monte-Carlo, Bernard Dorival et Isabelle Rouault, *Rouault: L'Œuvre peint*, tome 1, no.898

ジョルジュ・ルオー
Georges ROUAULT
1871-1958

裁判所のキリスト
1935年
油彩・厚紙
75.0×105.0cm
左下に署名
外洋237

Christ at the Court of Justice
1935
Oil on cardboard
75.0×105.0cm
Signed lower Left：G. Rouault

©ADAGP, Paris & JASPAR, Tokyo, 2014 E0940

来歴：ピエール・マティス；福島繁太郎；福島葉子；WWFジャパン；2013年、石橋財団
Prov.: Pierre MATISSE; FUKUSHIMA Shigetaro; FUKUSHIMA Yoko; WWF Japan; 2013, Ishibashi Foundation

展覧会 Exh.：1937年、東京府美術館「第12回国画会展―特別陳列」；1953年、東京国立博物館「ルオー展」no.33；1955年、ブリヂストン美術館「旧福島コレクション展覧会」no.38；1958, Bruxelles, Palais des Beaux-Arts, Brussels, *50 ans d'art moderne* (Exposition universelle et internationale de Bruxelles), no.280；1962, Paris, Musée national d'art moderne, *La Peinture française de Corot à Braque dans la collection Ishibashi de Tokyo*, no.43；1966年、ブリヂストン美術館「旧福島コレクション展覧会」no.17；1981年、ひろしま美術館「ひろしま美術館・ブリヂストン美術館交換展　ブリヂストン美術館名作展」no.60；1977, Museo d'Arte Moderna della Città di Lugano, *Georges Rouault*, no.42；1997-98年、ブリヂストン美術館「西洋美術に魅せられた15人のコレクターたち 1890-1940」no.51；1999年、ブリヂストン美術館「神話と聖書の図像学」no.65；2009年、ブリヂストン美術館「テーマ展示：マティスの時代―フランスの野性と洗練」no.25；2012年、ブリヂストン美術館「パリへ渡った『石橋コレクション』1962年、春」no.41

文献 Bibl.：1930年、『美術新論』2月、口絵；1931年、『美術新論』12月、口絵；1930年、『ルオー画集』美術新論社、no.29；1937年、『アトリエ』5月、口絵；1937年、『美術』5月；1951年、柳亮『近代絵画の百年』美術出版社、p.55；1955年、福島繁太郎（編）『ルオー』（講談社版アート・ブックス20）、大日本雄弁会講談社、no.19, 20；1955年、「旧福島コレクション特集号」『みづゑ』597号、no.52；1958年、福島繁太郎（編著）『ルオー』新潮社、p.39；1963年、座右宝刊行会（編）『現代の絵画』第2巻、小学館、p.113；1963年、『世界美術全集』第26巻、角川書店、p.56；1963年、『世界美術全集』第27巻、角川書店、no.6；1961年、貝塚茂樹（編）『図説世界文化史大系』第10巻（ヨーロッパ近代）、角川書店、p.223；1960年、『世界名画全集』第15巻（五人の巨匠ピカソ、マティス、ルオー、シャガール、クレー）、平凡社、p.62；1962年、矢内原伊作（解説）『現代絵画』第5巻（マチスとルオー―純化の表現）、美術出版社、表紙；1969年、向井潤吉他（編）『Matisse Rouault』（世界美術全集第14巻）、山田書院、no.34；1972年、『現代世界美術全集』第12巻、集英社、no.32；1974年、『大系世界の美術』第20巻（現代美術）、学習研究社、no.110（※図版解説・匠秀夫）；1977年、福島慶子「私とルオー」『NHK日曜美術館』第6集、p.155；1980年、倉田三郎他（編）『世界の美術』第8巻（宗教 / 物語）、ぎょうせい、no.24（※作品解説：信定宏郎）；1986年、高階秀爾・島田紀夫（責任編集）『ルオー』（アートギャラリー現代世界の美術第11巻ルオー）、集英社、no.7（※図版解説：島田紀夫）1987年、柳宗玄『ルオー―キリスト聖画集』、学習研究社、no.53；1988, Monte-Carlo, Bernard Dorival et Isabelle Rouault, *Rouault: L'Œuvre peint*, tome 2, no.1541；1993年、柳宗玄「ルオー―キリスト聖画展に寄せる―油彩画「長き苦しみの古びた町外れで…」をめぐって」『清春』111号、p.47；1994年、島田紀夫・千足伸行（責任編集）『世界美術大全集』第25巻（フォーヴィスムとエコール・ド・パリ）、小学館、no.127

ジョルジュ・ルオー
Georges ROUAULT
1871-1958

エルサレム
1953年
油彩・カンヴァスで裏打ちされた紙
70.0×55.0cm
右下に署名
外洋238

Jerusalem
1953
Oil on paper mounted on canvas
70.0×55.0cm
Signed lower right：G. Rouault

来歴：ピエール・マティス；福島繁太郎；福島葉子；WWFジャパン；2013年、石橋財団
Prov.: Pierre MATISSE; FUKUSHIMA Shigetaro; FUKUSHIMA Yoko; WWF Japan; 2013, Ishibashi Foundation

©ADAGP, Paris & JASPAR, Tokyo, 2014 E0940

展覧会 Exh.：1955年、「第3回日本国際美術展」毎日新聞社；1958年、ブリヂストン美術館「ルオー遺作展」no.44；1966年、ブリヂストン美術館「旧福島コレクション展覧会」no.24；1981年、ひろしま美術館「ひろしま美術館・ブリヂストン美術館交換展　ブリヂストン美術館名作展」no.61；1999年、ブリヂストン美術館「神話と聖書の図像学」no.66；2009年、ブリヂストン美術館「テーマ展示：マティスの時代―フランスの野性と洗練」no.26

文献 Bibl.：1962, Pierre Courthion, *Rouault*, London, no.545；1958年、福島繁太郎（編著）『ルオー』新潮社、p.82；1963年、座右宝刊行会（編）『現代の絵画』第2巻、小学館、p.109；1962年、矢内原伊作（解説）『現代絵画』第5巻（マチスとルオー―純化の表現）、美術出版社、p.7；1972年、『現代世界美術全集』第12巻、集英社、no.73；1976年、ベルナール・ドリヴァル（著）、高階秀爾（訳）『ルオー』新潮世界美術文庫第40巻、新潮社、no.29；1977年、福島慶子「私とルオー」『NHK日曜美術館』第6集、p.163；1987年、柳宗玄『ルオー―キリスト聖画集』、学習研究社、no.117；1988, Monte-Carlo, Bernard Dorival et Isabelle Rouault, *Rouault: L'Œuvre peint*, tome 2, no. 2482；鈴木治雄・柳宗玄「ルオーの世界―対談」『清春』18号、p.43

パブロ・ピカソ
Pablo PICASSO
1881-1973

馬
1923年
油彩・カンヴァス
19.0×24.0cm
右上に署名・年記
外洋239

Horse
1923
Oil on canvas
19.0×24.0cm
Signed and dated *upper right*: Picasso / 23

来歴：ピエール・マティス；福島繁太郎；福島葉子；WWFジャパン；2013年、石橋財団
Prov.: Pierre MATISSE; FUKUSHIMA Shigetaro; FUKUSHIMA Yoko; WWF Japan; 2013, Ishibashi Foundation

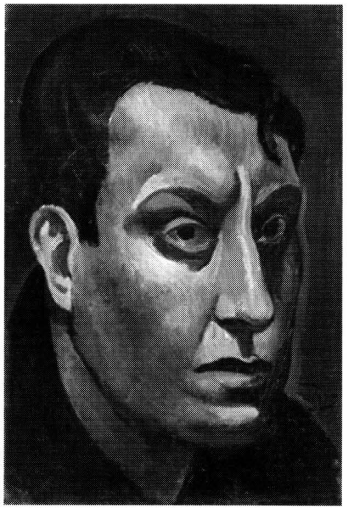
展覧会 Exh.：1953年、東京国立近代美術館「近代美術展—近代洋画の歩み（西洋と日本）」no.92；1955年、ブリヂストン美術館「旧福島コレクション展」no.45；1952年、ブリヂストン美術館「ピカソ版画展」no.4；1966年、ブリヂストン美術館「旧福島コレクション展覧会」no.2；1981年、ひろしま美術館「ひろしま美術館・ブリヂストン美術館交換展　ブリヂストン美術館名作展」no.68；1997-98年、ブリヂストン美術館「西洋美術に魅せられた15人のコレクターたち 1890-1940」no.57

文献 Bibl.：1929年、『美術新論』2月、口絵；1934年、『美術』2月、口絵；1934年、『アトリエ』2月、口絵；1955年、『芸術新潮』、口絵；1936年、『西欧名家原色画集』第1輯、東方美術学院、no.3；1952, Paris, Christian Zervos, *Pablo Picasso*, Vol.5, no.147 ; 1963年、座右宝刊行会（編）『現代の絵画』第1巻、小学館、p.101；1955年、「旧福島コレクション特集号」『みづゑ』597号、no.57；1964年、『世界の名画』第8巻（ピカソ・レジェ）、学習研究社、no.19；1993年、河北倫明『河北倫明美術時評集』第4巻（作家評・作品評［下］）、思文閣出版、pp.491-492；1996, San Francisco, Alan Wofsy, The Picasso Project, *Picasso's Paintings, Watercolors, Drawings and Sculpture: A Comprehensive Illustrated Catalogue 1885-1973, Neoclassism II, 1922-1924*, no.23-244；1996年、小林俊介「難波田龍起『ギリシヤ連作』と油彩の個展技法」『現代芸術研究』no.1（1995年）、p.100

アンドレ・ドラン
André DERAIN
1880-1954

自画像
1913年
油彩・カンヴァス
37.2×25.3cm
右下に署名
外洋240

Self-Portrait
1913
Oil on canvas
37.2×25.3cm
Signed lower right: Derain



©ADAGP, Paris & JASPAR, Tokyo, 2014 E0940

来歴：福島繁太郎；福島葉子；WWFジャパン；2013年、石橋財団
Prov.：FUKUSHIMA Shigetaro; FUKUSHIMA Yoko; WWF Japan; 2013, Ishibashi Foundation

展覧会 Exh.：1955年、ブリヂストン美術館「旧福島コレクション展」no.12；1956年、神奈川県立近代美術館、鎌倉 / 白木屋、東京「ほんもの・にせもの展」；1961年、石橋美術館「石橋美術館開館5周年記念近代西洋絵画名作展」no.34；1962, Paris, Musée national d'art moderne, *La Peinture française de Corot à Braque dans la collection Ishibashi de Tokyo*, no.18；1966年、ブリヂストン美術館「旧福島コレクション展覧会」no.26；1967年、心斎橋大丸、大阪「エコール・ド・パリ展」no.37；1981年、ひろしま美術館「ひろしま美術館・ブリヂストン美術館交換展　ブリヂストン美術館名作展」no.64；1994, Musée d'art modern de la ville de Paris, *André Derain: Le peintre du "troubre modern"*, no.108；1997-98年、ブリヂストン美術館「西洋美術に魅せられた15人のコレクターたち 1890-1940」no.54；2002年、ブリヂストン美術館「ブリヂストン美術館開館50周年記念：コレクター石橋正二郎―青木繁、坂本繁二郎から西洋美術へ」；2009年、ブリヂストン美術館「テーマ展示：マティスの時代―フランスの野性と洗練」no.3；2012年、ブリヂストン美術館「パリへ渡った『石橋コレクション』1962年、春」no.44

文献 Bibl.：1955年、『芸術新潮』4月、口絵；1963年、座右宝刊行会（編）『現代の絵画』第2巻、小学館、p.104；1955年、「旧福島コレクション特集号」『みづゑ』597号、no.16；1934年、『美術』2月、口絵；1969年、『Matisse・Rouault』（世界美術全集14）、山田書院、no.52；1956年、安井曾太郎「ドランの自画像」『画家の眼』座右宝刊行会、p.145；1991年、辻井喬「ドランの自画像」『清春』13号、pp.5-7

ロジェ・ド・ラ・フレネー
Roger de LA FRESNAYE
1885-1925

花
1924年
鉛筆・紙
26.0×20.0cm
右下に署名
外洋241

Flower
1924
Pencil on paper
26.0×20.0cm
Signed lower right: La Fresnaye, 24

来歴：福島繁太郎；福島葉子；WWFジャパン；2013年、石橋財団
Prov.: FUKUSHIMA Shigetaro; FUKUSHIMA Yoko; WWF Japan；2013, Ishibashi Foundation

展覧会 Exh.：1955年、ブリヂストン美術館「旧福島コレクション展」no.62；1966年、ブリヂストン美術館「旧福島コレクション展覧会」no.43

ロジェ・ド・ラ・フレネー
Roger de LA FRESNAYE
1885-1925

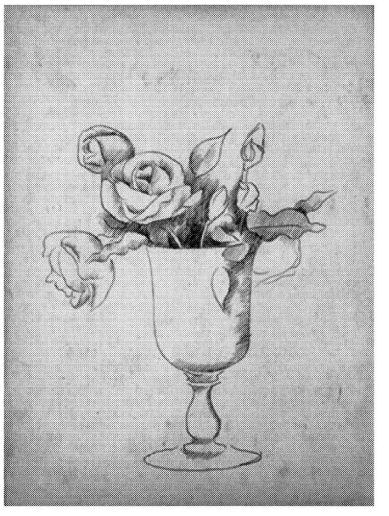
静物
1921年
水彩・紙
18.0×23.0cm
外洋242

Still Life
1921
Watercolor on paper
18.0×23.0cm

来歴：福島繁太郎；福島葉子；WWFジャパン；2013年、
石橋財団
Prov.: FUKUSHIMA Shigetaro; FUKUSHIMA Yoko; WWF Japan; 2013, Ishibashi Foundation

展覧会 Exh.：1955年、ブリヂストン美術館「旧福島コレクション展」no.61；1966年、ブリヂストン美術館「旧福島コレクション展覧会」no.41；1967年、心斎橋大丸、大阪「エコール・ド・パリ展」no.58

ロジェ・ド・ラ・フレネー
Roger de LA FRESNAYE
1885-1925



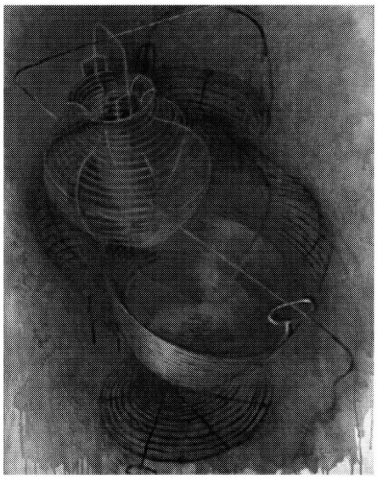
ばら
制作年不詳
ペン、インク・紙
25.0×18.5cm
外洋243

Roses
Date unknown
Pen and ink on paper
25.0×18.5cm

来歴：福島繁太郎；福島葉子；WWFジャパン；2013年、石橋財団
Prov.: FUKUSHIMA Shigetaro; FUKUSHIMA Yoko; WWF Japan; 2013, Ishibashi Foundation

展覧会 Exh.：1955年、ブリヂストン美術館「旧福島コレクション展」no.61；1966年、ブリヂストン美術館「旧福島コレクション展覧会」no.41；1967年、心斎橋大丸、大阪「エコール・ド・パリ展」no.58

ポール・チェリチェフ
Paul TCHELITCHEW
1898-1957



静物（サラダ籠）
1928年
油彩・カンヴァス
92.0×73.0cm
外洋244

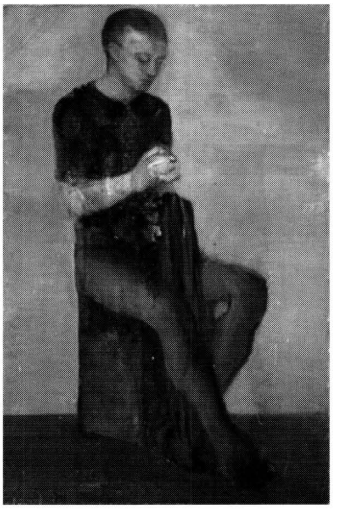
Still Life (Salad Basket)
1928
Oil on canvas
92.0×73.0cm

来歴：福島繁太郎；福島葉子；WWFジャパン；2013年、石橋財団
Prov.: FUKUSHIMA Shigetaro; FUKUSHIMA Yoko; WWF Japan；2013, Ishibashi Foundation

展覧会 Exh.：1955年、ブリヂストン美術館「旧福島コレクション展」no.59；1961年、石橋美術館「石橋美術館開館5周年記念近代西洋絵画名作展」no.41；1966年、ブリヂストン美術館「旧福島コレクション展覧会」no.45

文献 Bibl.：1955年、「旧福島コレクション特集号」『みづゑ』597号、no.2

クリスチャン・ベラール
Christian BERARD
1902-1949



人物
1928年
油彩・カンヴァス
91.7×60.4cm
外洋245

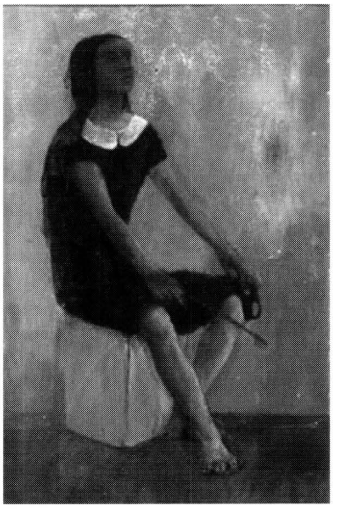
A Figure
1928
Oil on canvas
91.7×60.4cm

来歴：福島繁太郎；福島葉子；WWFジャパン；2013年、石橋財団
Prov.: FUKUSHIMA Shigetaro; FUKUSHIMA Yoko; WWF Japan；2013, Ishibashi Foundation

展覧会 Exh.：1955年、ブリヂストン美術館「旧福島コレクション展」no.55；1955年、東京国立近代美術館「巨匠の二十代」；1961年、石橋美術館「石橋美術館開館5周年記念近代西洋絵画名作展」no.37；1966年、ブリヂストン美術館「旧福島コレクション展覧会」no.47

文献 Bibl.：1955年、「旧福島コレクション特集号」『みづゑ』597号、no.73；1955年、『美術新論』1月、口絵

クリスチャン・ベラール
Christian BERARD
1902-1949



坐婦
1928年
油彩・カンヴァス
55.0×33.0cm
外洋246

Seated Woman
1928
Oil on canvas
55.0×33.0cm

来歴：福島繁太郎；福島葉子；WWFジャパン；2013年、石橋財団
Prov.: FUKUSHIMA Shigetaro; FUKUSHIMA Yoko; WWF Japan; 2013, Ishibashi Foundation

展覧会 Exh.：1934年、東京府美術館「第21回二科展」；1955年、ブリヂストン美術館「旧福島コレクション展」no.57；1955年、東京国立近代美術館「巨匠の二十代」；1961年、石橋美術館「石橋美術館開館5周年記念近代西洋絵画名作展」no.37；1966年、ブリヂストン美術館「旧福島コレクション展覧会」no.46

文献 Bibl.：1955年、「旧福島コレクション特集号」『みづゑ』597号、no.71；1951年、福島繁太郎『エコール・ド・パリ』第3巻、新潮社、p.113；1955年、福島繁太郎「巨匠の二十代—ヨーロッパ」『現代の眼』（東京国立近代美術館）、p.7

ベルナール・ビュッフェ
Bernard BUFFET
1928-1999

海藻とうに
1949年
ペン、インク・紙
50.0×65.0cm
右上に署名・年記
外洋247

Seaweed and Sea Urchins
1949
Pen and ink on paper
50.0×64.0cm
Signed and dated upper right：Bernard Buffet, 49

©ADAGP, Paris & JASPAR, Tokyo, 2014 E0940

来歴：福島繁太郎；福島葉子；WWFジャパン；2013年、石橋財団
Prov.: FUKUSHIMA Shigetaro; FUKUSHIMA Yoko; WWF Japan；2013, Ishibashi Foundation

展覧会 Exh.：1959年、神奈川県立近代美術館、鎌倉「ビュッフェ展」；1966年、ブリヂストン美術館「旧福島コレクション展覧会」no.46

パウル・クレー
Paul KLEE
1879-1940

冬
1932年
水彩・紙
48.0×42.0cm
左下に署名・年記
右下に題名
外洋248

Winter
1932
Watercolor on paper
48.0×42.0cm
Signed lower left: Klee
Dated lower left：1932. 7.18.
Titled lower right: Winter im Stromgebiet

来歴：福島繁太郎；福島葉子；WWFジャパン；2013年、石橋財団
Prov.: FUKUSHIMA Shigetaro; FUKUSHIMA Yoko; WWF Japan；2013, Ishibashi Foundation

展覧会 Exh.：1958 年、ブリヂストン美術館「特別陳列　パウル・クレー作品展覧会」；1966年、ブリヂストン美術館「旧福島コレクション展覧会」no.46；2006年、宮城県美術館「開館25周年記念　パウル・クレー：創造の物語」no.100

文献 Bibl.：1963年、座右宝刊行会（編）『現代の絵画』第2巻、小学館、p.115

# 新収図書

ブリヂストン美術館

| | 購入 | 寄贈 | 計 |
|---|---|---|---|
| 和書 | 1 冊 | 74 冊 | 75 冊 |
| 洋書 | 25 冊 | 33 冊 | 58 冊 |
| 計 | 26 冊 | 107 冊 | 133 冊 |

（展覧会図録・逐次刊行物は含まない）

石橋美術館

| | 購入 | 寄贈 | 計 |
|---|---|---|---|
| 和書 | 45 冊 | 46 冊 | 91 冊 |
| 洋書 | 0 冊 | 1 冊 | 1 冊 |
| 計 | 45 冊 | 47 冊 | 92 冊 |

（展覧会図録・逐次刊行物は含まない）

## 修復記録

萩生田文太郎《湖》
油彩・カンヴァス
41.0×31.8cm
IMA
日洋414

調査・写真記録、亀裂・浮き上がり部分の接着、画面と裏面の埃除去、木枠から支持体を分離、支持体にあいた釘穴の補修・補強、仮張り、支持体の矯正、支持体裏面から目留め、新調した木枠に裏面保護用の布および支持体を張り込み、固定、木枠に楔を装着、画面の洗浄、画面側辺端部の亀裂を充填・整形・補彩、ニスの塗布、処置後の写真撮影、額装の復元、報告書作成。

＊内容は修復担当者による報告書に基づく。

## 〈保存環境調査の実施〉

ブリヂストン美術館とブリヂストン美術館永坂分室（以下永坂分室とする）の収蔵庫および展示室の環境測定、虫菌害調査をおこなった。調査日、実施日、場所、内容は下記の通りである。

1. 調査者　：イカリ消毒株式会社　深川営業所　関東CPS
2. 調査実施日：・ブリヂストン美術館　2013年8月19日（トラップ設置期間8月19日－9月2日）
　・永坂分室　2013年8月20日（トラップ設置期間8月20日－9月3日）
3. 調査場所　：・ブリヂストン美術館　1F正面エントランス、搬出入口、
　2F展示室（1室－10室、彫刻ロビー、収蔵庫、展示室倉庫等）
　・永坂分室　展示室（1室－2室）、エントランスホール、修復室、閲覧室
4. 調査項目　：・ブリヂストン美術館
　（1）空中浮遊カビ調査（2）室内浮遊塵埃数調査（3）昆虫類捕獲調査（4）温湿度調査
　・永坂分室
　（1）空中浮遊カビ調査（2）室内浮遊塵埃数調査（3）昆虫類捕獲調査（4）温湿度調査
　（5）照度・紫外線強度調査

# 作品貸出記録　ブリヂストン美術館

*Manet: Portraying Life*
Royal Academy of Arts, London ／ January 26 – April 14, 2013

1)エドゥアール・マネ《自画像》(外洋121)

*Monet's Garden: The Musée Marmottan Monet, Paris*
National Gallery of Victoria, Melbourne ／ May 10 – September 8, 2013

1)クロード・モネ《睡蓮》(外洋22)

「ル・コルビュジエと20世紀美術」展
国立西洋美術館 ／ 2013年8月6日 – 2013年11月4日

1)フェルナン・レジェ《抽象的コンポジション》(外洋219)

「クレラー＝ミュラー美術館所蔵作品を中心に　印象派を超えて―点描の画家たち」展
国立新美術館 ／ 2013年10月4日 – 2013年12月23日

1)ピート・モンドリアン《砂丘》(外洋203)

「昭和モダン　絵画と文学　1926 – 1936」展
兵庫県立美術館 ／ 2013年11月2日 – 2013年12月29日

1)安井曾太郎《薔薇》(日洋143)

# 作品貸出記録　石橋美術館

「日本の水彩画」
下関市立美術館 / 2013年2月7日－2013年3月17日

1)青木繁《水浴》(日洋101)
2)青木繁《春》(日洋92)
3)古賀春江《筑後川》(日洋471)
4)古賀春江《地蔵尊》(日洋315)

「平成の大遷宮　出雲大社」展
島根県立古代出雲歴史博物館 / 2013年4月12日－2013年6月16日

1)青木繁《大穴牟知命》(日洋197)

「芝川照吉コレクション展　―青木繁・岸田劉生を支えたコレクター」
京都国立近代美術館 / 2013年5月18日－2013年6月30日

1)青木繁《秋の夜》(日洋88)
2)青木繁《光明皇后》(日洋102)
3)青木繁《丘に立つ三人》(日洋93)

「夏目漱石の美術世界」展
静岡県立美術館 / 2013年7月13日－2013年8月25日

1)青木繁《わだつみのいろこの宮》(日洋104)
2)青木繁《輪転》(日洋90)
3)浅井忠《ヴェネツィア》(日洋5)

「青山熊治」展
姫路市立美術館 / 2013年9月14日－2013年10月20日

1)青山熊治《男の像》(日洋135)

「横山大観展　良き師、良き友」
横浜美術館 / 2013年10月5日－2013年11月24日

1)横山大観《糺の森　秋雨》(日書22)
2)今村紫紅《海の幸山の幸》(日書88、89)

# 刊行物一覧

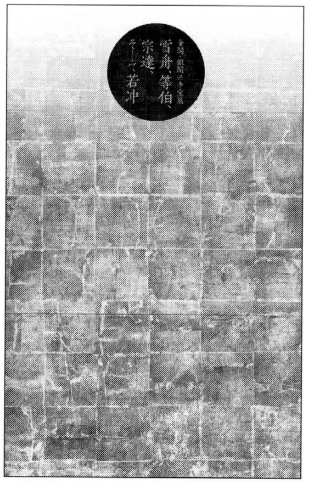
## 〈展覧会カタログ〉

「筆あとの魅力―点・線・面」（コレクション展示）
The Power of Brush－Points, Lines, Planes

出品目録
編集・発行：石橋財団ブリヂストン美術館（2013年1月）
30×21cm　三つ折りリーフレット

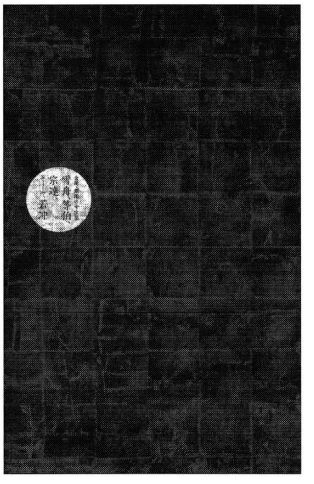
「金閣・銀閣の寺宝展―雪舟、等伯、宗達、そして若冲」（特別展）
Treasures from Kinkaku-ji and Ginkaku-ji: Sesshu, Tohaku, Sotatsu, and Jakuchu

本文：
展覧会に寄せて ／ 有馬頼底（p.5）
イマジネーションで楽しむ日本美術 ／ 福田善子（pp.8-13）
若冲断章 ／ 狩野博幸（pp.14-22）
伝来から見えること ／ 平間理香（pp.168-171）
カタログ：
第1章　日本美術の立役者、集結
第2章　色彩の魔術師　若冲
第3章　悠久の美　器を愛でる
資料：
出品目録 ／ List of works
図版（カラー 71図）
編集・執筆：福田善子、平間理香
翻訳：小川紀久子
デザイン：西岡勉
組版：中村亮太
印刷：サンエムカラー
発行：久留米市、石橋財団石橋美術館、有馬記念館保存会（2013年1月）
30×19cm　183p



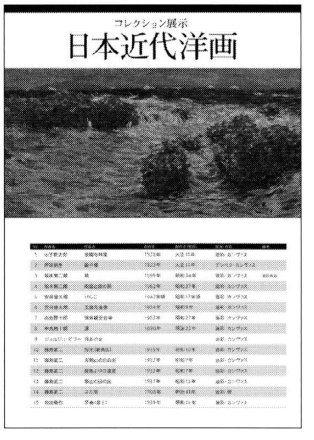
「金閣・銀閣の寺宝展—雪舟、等伯、宗達、そして若冲」（特別展）

出品目録
発行：石橋財団石橋美術館、有馬記念館保存会（2013年1月）
30×19cm　二つ折りリーフレット

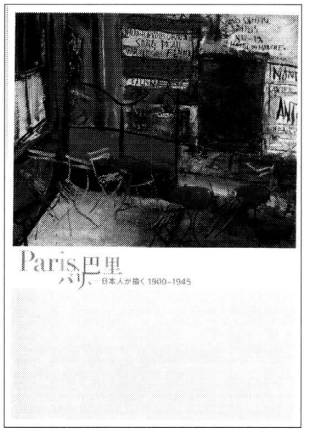


「コレクション展示　日本近代洋画」（コレクション展示）

出品目録
図版（モノクロ1図）
編集・発行：石橋財団石橋美術館（2013年1月）
30×21cm　二つ折りリーフレット



「Paris、パリ、巴里—日本人が描く1900－1945」（テーマ展示）
Through Japanese Eyes: Paris, 1900-1945



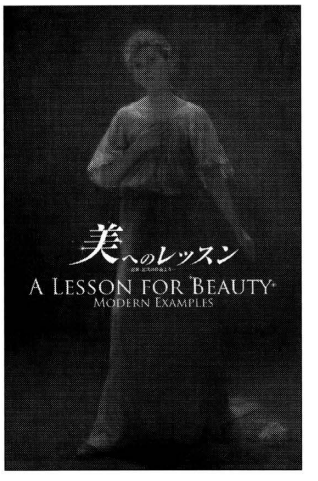

本文：
パリと日本の洋画家たち1900-1945 ／ 貝塚健（pp.9-24）
Japanese Artists in Paris, 1900-1945 ／ Kaizuka Tsuyoshi（pp.135-149）
カタログ：
第1章　パリ万博から第一次世界大戦まで 1900-1914
第2章　黄金の1920年代と両大戦間期 1918-1945
資料：
年表パリの日本人画家たち1900-1940（pp.113-130）
作品リスト（英文併記）
図版（カラー 40図、参考29図）
編集：貝塚健
執筆：貝塚健
翻訳：ルシー・S. マクレリー
表紙デザイン：ムオト・デザイン
制作：エディタス
印刷：凸版印刷
発行：石橋財団ブリヂストン美術館（2013年3月）
26×19cm　152p　ISBN978-4-901528-14-6 C0071

「Paris、パリ、巴里—日本人が描く1900－1945」（テーマ展示）
Through Japanese Eyes: Paris, 1900-1945

出品目録
編集・発行：石橋財団ブリヂストン美術館（2013年3月）
30×21cm　三つ折りリーフレット

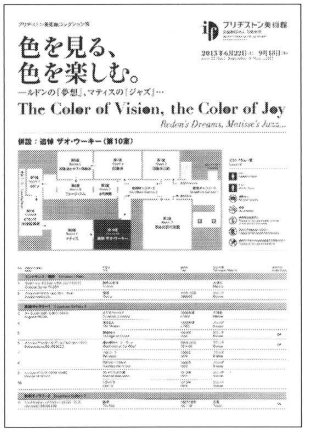
「美へのレッスン—近世・近代の作品より」（コレクション展示）
A Lesson for Beauty: Modern Examples

出品目録
図版（モノクロ1図）
編集・発行：石橋財団石橋美術館（2013年3月）
30×19cm　二つ折りリーフレット

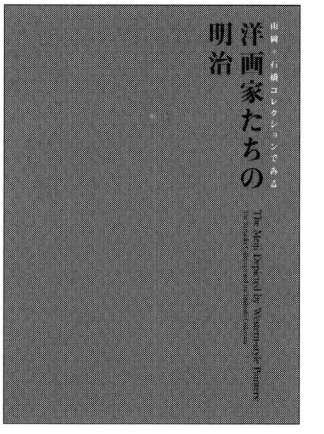



「色を見る、色を楽しむ。—ルドンの『夢想』、マティスの『ジャズ』…」（コレクション展示）
The Color of Vision, the Color of Joy − Redon's Dreams, Matisse's Jazz

出品目録
編集・発行：石橋財団ブリヂストン美術館（2013年6月）
30×21cm　三つ折りリーフレット



「山岡＋石橋コレクションでみる　洋画家たちの明治」（特別展）
The Meiji Depicted by Western-style Painters: the Yamaoka Collection and the Ishibashi Collection

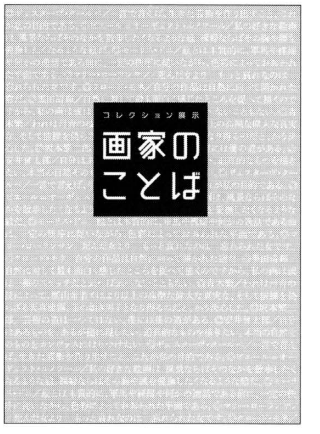



本文：
はじめに―ふたつのコレクション / 森山秀子（pp.8-11）
明治洋画のここがおもしろい / 森山秀子（pp.12-15）
カタログ：
第1章　記録する絵画（Paintings as records）
第2章　外国人作家（Foreign artists）
第3章　教育（Education）
第4章　留学（Studying abroad）
第5章　歴史を描く（Painting history）
第6章　日常を描く（Painting everydayness）
第7章　生活の中の絵画（Painting in everyday life）
第8章　博覧会から展覧会へ（From expositions to exhibitions）
資料：
関連年表
作品リスト / List of works
図版（カラー 161図）
執筆：森山秀子、伊藤絵里子
翻訳：小川紀久子
デザイン：analogue
印刷・制作：石田大成社
編集・発行：石橋財団石橋美術館（2013年6月）
30×21cm　191p

「山岡＋石橋コレクションでみる　洋画家たちの明治」（特別展）

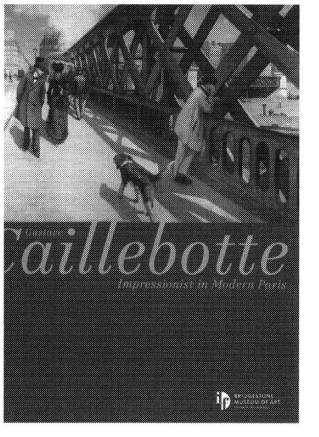
出品目録
図版（モノクロ1図）
編集・発行：石橋財団石橋美術館（2013年6月）
30×21cm　二つ折りリーフレット

「コレクション展示　画家のことば」（コレクション展示）




出品目録
図版（カラー 17図）
編集・発行：石橋財団石橋美術館（2013年9月）
26×18cm　12p

「カイユボット展—都市の印象派」（特別展）
Gustave Caillebotte: Impressionist in Modern Paris




本文：
印象派グループ展のなかのカイユボットの位置—ルノワールへの信頼、モネとの友情、そしてドガとの確執 / 島田紀夫（pp.8-21）
Gustave Caillebotte and the Impressionist Exhibitions: Bonds of Trust with Renoir, Friendship with Monet, Conflict with Degas / Shimada Norio（pp.22-31）
ギュスターヴ・カイユボット作《ピアノを弾く若い男》再考 / 新畑泰秀（pp.32-40）
Reexamining Gustave Caillebotte's *Young Man Playing the Piano* / Shimbata Yasuhide（pp.41-45）
ギュスターヴ・カイユボットの《ヨーロッパ橋》（1876年）を脱構築する / クロード・P. J. ゲーツ、ピエトロ・ガリフィ・デッラ・バリヴァ（pp.214-229）
Deconstructing Gustave Caillebotte's *Le Pont de l'Europe*（1876）/ Claude P. J. Ghez, Pietro Galifi della Bagliva（pp.230-241）
カタログ：
Ⅰ．自画像 Self-Portraits
Ⅱ．室内、肖像画 Interior Scenes and Portraits
Ⅲ．近代都市パリの風景 Cityscape of Paris as a Modern City
Ⅳ．イエール、ノルマンディー、プティ・ジュヌヴィリエ Yerres, Normandy and Petit Gennevilliers
Ⅴ．静物画 Still Life and Garden Plants
Ⅵ．マルシャル・カイユボットの写真 Photographs by Martial Caillebotte
コラム：カイユボットと近代都市パリ—激動の時代のただ中で / 新畑泰秀、カイユボットとイエール、ブルジョワのヴァカンス / 新畑泰秀、カイユボットの終の棲家、プティ・ジュヌヴィリエ / 新畑泰秀、カイユボットと印象派の画家たち—モネとルノワールを中心に / 賀川恭子、カイユボットと写真的視覚 / 倉石信乃、カイユボットとジャポニスム / 新畑泰秀、カイユボット・コレクション / 島田紀夫

資料：
作品リスト（英仏文併記）
図版（カラー 63図、モノクロ59図）
編集：新畑泰秀
執筆：クロード・P. J. ゲーツ、ピエトロ・ガリフィ・デッラ・バリヴァ、倉石信乃、島田紀夫、新畑泰秀、賀川恭子
編集協力：岩田高明
翻訳（和文英訳）：スタンレー・N. アンダーソン、ルシー・S. マクレリー、山川純子 / キャロライン・エルダー
翻訳（英文和訳）：中山ゆかり
表紙デザイン：渡辺一人
デザイン：川野直樹、森重智子
制作：美術出版デザインセンター
印刷：大日本印刷株式会社
発行：石橋財団ブリヂストン美術館（2013年10月）
30×23cm　276p

「カイユボット展—都市の印象派」（特別展）
Gustave Caillebotte: Impressionist in Modern Paris

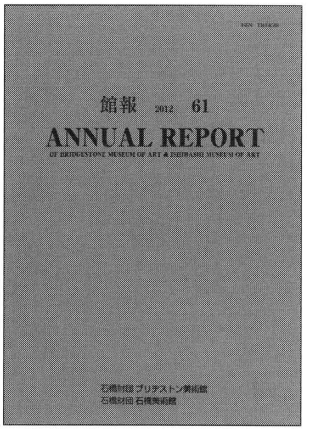
出品目録
編集・発行：石橋財団ブリヂストン美術館（2013年10月）
30×21cm　三つ折りリーフレット

## 〈その他の刊行物〉

「夏休みこどもプログラム　クイズに挑戦！」

編集・発行：石橋財団石橋美術館（2013年6月）
26×9cm　四つ折りリーフレット

「館報」61号（2012年度）
Annual Report of Bridgestone Museum of Art & Ishibashi Museum of Art




内容：
設立趣旨、機構・運営
展覧会（コレクション展示、特別展）
教育普及（講座、ギャラリートーク、ファミリープログラム、インターンシップ、サポートボランティア、実習生受入など）
入場者数（2012年度）
新収蔵作品（作品6点）
新収図書
修復記録
作品貸出記録
刊行物一覧
研究報告　　関根正二《子供》のいま / 貝塚健（pp.74-82）
美術館案内
石橋財団職員
編集・発行：石橋財団ブリヂストン美術館、石橋財団石橋美術館（2013年3月）
印刷：株式会社昭和堂
26×19cm　84p　ISSN1341-8548

# 安井曾太郎《F夫人像》について

貝塚健

2012年に石橋財団が購入した安井曾太郎《F夫人像》(fig.1)のモデルは、稀代のコレクター・美術評論家だった福島繁太郎(1895－1960)の妻で、随筆家として知られた福島慶子(1900－83)である(fig.2)。夫妻から注文を受けた安井が目白のアトリエで制作し、1939(昭和14)年11月23日から始まる第3回一水会展に、《肖像》の題名で出品した。

福島繁太郎は、1895(明治28)年3月29日、東京市京橋区に父・浪蔵、母・多幾の長男(第3子)として生まれた。浪蔵(1860－1919)は、日本橋区兜町で株式仲買店・福島浪蔵商店(のちの山叶証券。現・みずほ証券株式会社)を営んだ相場師で、一代で莫大な資産を築いた人物である。山一証券の創始者・小池国三、紅葉屋商会の経営者・神田雷蔵とともに兜町の「三ぞう」と呼ばれた。株売買の辛酸を知り尽くしたからか、浪蔵は子どもたちに自分の事業を継ぐことを固く禁じる。進取な考えの持ち主で、晩年には自動車産業に進出したい意思を持っていたという。繁太郎は東京高等師範学校附属小学校(現・筑波大学附属小学校)、附属中学校に進学する。同期に、幼馴染みでのちに画家となる高畠達四郎(1895－1976)、三菱商事社長となる荘(しょう)清彦(1894－1967)がいた。旧制第七高等学校(現・鹿児島大学)を経て、1918(大正7)年、東京帝国大学法科大学に入学。翌年1月18日、父・浪蔵が58歳で死去する。同年10月28日、荘の妹・慶子と結婚した。

慶子は、1900(明治33)年5月13日、荘清次郎、千賀の四女として神戸に生まれた。清次郎(1862－1926)は肥前大村藩士・荘新右衛門とテイの長男。新右衛門が藩内の尊皇派と佐幕派の抗争により非業の死を遂げた後、残された清次郎は苦しい少年時代を過ごすが、意を決し14歳で亡父の遺骨を抱いて上京する。刻苦勉励の末やがて岩崎弥之助に認められ、その援助で東京帝国大学、ついでイェール大学大学院で学んだ。請われて三菱に入社。神戸支店長を務めていたときに慶子が生まれた。のち三菱財閥の要職を歴任する。その長男・清彦は、東京高等師範学校附属中学校、旧制第二高等学校、東京帝国大学を卒業し、父親を追って三菱に入社。第二次世界大戦後には三菱商事の社長、会長を務めた。その妹が慶子である。慶子は九段精華高等女学校に学んだ。

繁太郎と慶子が結婚する9カ月前に亡くなった浪蔵は、多大な遺産を残した。安井雄一郎が二人の遺児・葉子から聞いたところによると、「遺産についても遺言を残し、当時の慣例からすれば民主的ともいえるが、遺産を三分割し、三分の一を妻多幾に、三分の一を長男繁太郎に、そして最後の三分の一を残りの子ども(姉二人、弟、妹)に

fig.1
安井曾太郎《F夫人像》1939年、油彩・カンヴァス、石橋財団ブリヂストン美術館蔵

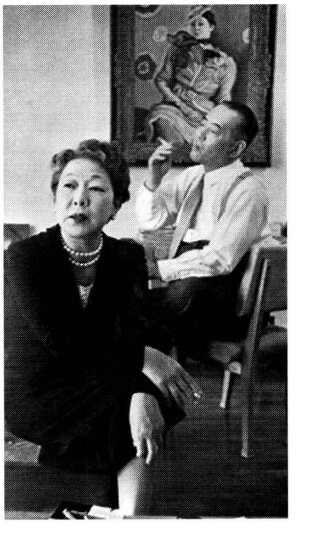


fig.2
福島慶子と繁太郎(福島慶子『うちの宿六』文藝春秋新社、1955年、口絵より転載)

分与したという。このとき福島に分与された遺産額は、当時の金で200万円ともいい、彼は100万を一生の生活費にあて、残りの100万をどう使うかと思案したあげく決めたのが絵画蒐集だった、という話が兜町の伝説として伝わっているという」[1]。

1920（大正9）年6月3日には、一人娘の葉子（1920－2011）が生まれる。翌年4月、繁太郎は東京帝国大学法学部政治学科を卒業した。1年後、国際法を学ぶために慶子とともにロンドンに渡る。ロンドン大学に籍を置いた。1923（大正12）年7月、初めてパリを訪れ、三菱商事パリ支店長・久我貞三郎の勧めにより、デュラン・リュエル画廊でルノワール《アルジャントゥイユ風景》（1874年）を購入。初めてのフランス絵画のコレクションだった。9月、夫妻はロンドンを引き上げてパリに移住し、郊外のヌイイに住む。以来、久我や2年前からパリに来ていた高畠達四郎に導かれて画廊めぐりを楽しむようになった。翌年には、最初のドラン作品をベルネーム=ジュヌ画廊で購入。その翌年には初めてのピカソ、ルオーを購入する。1925（大正14）年、夫妻はいったん帰国し、繁太郎は翌年5月にパリに戻り、ブールドネイ街に住む。その秋、慶子は、母・多幾に預けていた長女の葉子を連れて渡仏。1927（昭和2）年には、16区アヴェニュー・ヴィヨン・ウィットコムに転居した。このころから福島邸には、青山義雄や宮田重雄らの日本人洋画家や、親日家のピアニスト・ジルマルシェクスらが訪れ、一つの文化サロンを形成していた。1929（昭和4）年12月には、繁太郎は美術雑誌『フォルム』を創刊し、33年まで33号を英仏の二カ国語で刊行した。アンリ・フォシオン、ルネ・ユイグ、リオネル・ヴェントゥーリ、アンドレ・マルロー、ジャン・コクトーらが寄稿している。

この間、絵画収集を続けた繁太郎は、パリで約120点のコレクションを築いた。当時はまだ評価が定まっていたとはいえない同時代美術に焦点をあてる。アンリ・マティス、ジョルジュ・ルオー、パブロ・ピカソ、アンドレ・ドランなどがその中心で、とくにルオー、ドランとは直接に親しく交流を重ねた。1929（昭和4）年5月、画商のアッシェールに仲介を頼み、夫妻はドランに慶子の肖像画を依頼する。アッシェールとともに慶子が打合せのため、パリ郊外のドラン宅を訪ね、25号の大きさで2週間後に着手することまで決まる。ところがまもなく慶子が結核性腹膜炎に罹り、転地療養のため一家はスイスに移ってしまう。このため結局、ドランによる肖像画制作は流れてしまった[2]。

1933（昭和8）年6月、通算12年の滞欧生活に区切りをつけ、福島夫妻は葉子を連れて日本に帰国する。フランス絵画コレクションの一部を処分し、約80点を携えていた。そのうちの36点を、翌年2月、東京・有楽町の日劇5階ホールで国画会主催により展示公開した。内訳は、ドラン12点、ルオー9点、マティス5点、ピカソ5点、ユトリロ2点、モディリアーニ1点、ブラック1点、スーチン1点である。このとき、会場で旧知の梅原龍三郎夫妻によって、細川護立と安井曾太郎夫妻を紹介された。

5年後、福島夫妻は安井に慶子像の制作を依頼した。慶子は38歳だった。その経緯については、慶子が安井の生前、1951（昭和26）年に以下のように書き残している。

> 其時分私は日本画壇のことは少しも知らず、安井先生の画はパリのサロン・ドートンヌで小品を一枚見たきり、その他は毎日写真版でしか知りませんでした。後に私もだんだん日本の画壇の様子も判るやうになりますと、年が経つに従つて安井先生に気を取られ、静物から始まつて人物に心を奪はれ、或年の展覧会の和服の婦人像を観て、すつかりこの画に打ち込んでしまひました。
>
> 巴里でドランに肖像を描いて貰ふ筈だつたのが私が病気になつて、そのまゝ帰国してしまつたのを残念に思つてゐたので、私はこの頃より秘かに安井先生に描いて頂けたらと考へ始めました。あまり婆さんにならぬ中に好きな画家（有名なら誰でもよいなどとは毛頭考へませんでした）に肖像を御願ひして老後の慰めにし度いと望んではゐたものゝ何となく気遅れがして口には出せなかつたのです。
>
> ずつと後になつて何かのキツカケでこの事を話すと、福島は大賛成でさつそく石原求龍堂を介して安井先生にお伺ひを立てゝ貰ひ、兎や角して私の願ひは実現したのですが、そんな経緯から、先生とは急速に親しく御近づきとなり、以後は年が重なるにつれ、益々深いお交りを頂いて居ります。[3]

安井は1955（昭和30）年12月14日に亡くなる。そのまもない時期に繁太郎も以下の、同じような思い出を記している。

> フランス滞在中、安井先生の作品を知ったが、それは日本から送って来る美術雑誌によつてである。向こうで日本の美術雑誌を見ている内に、日本での作家では、梅原、安井、岸田だと思う様になつたが、震災の後二年程して帰って見る

と、それが皆当つているので喜んだ。安井先生は、物の輪郭を柔く、ぼかした様に風景を描いて居られた。おとなしいつつましやかな絵だが美しかった。私は間もなくフランスに戻ってしまい、又数年の後、日本に帰って見ると、和服姿のお嬢さんの肖像をかいて居られた。デッサンが実にしつかりしていて、しかも自然を模倣しているのではなく、その人物をよく想い出させ乍ら説明に終らず、造型的に扱ってゐる。肖像画の理想である。安井先生がこの域に達せられているのに驚いた。フランスに於ても、肖像画をここまで描く人は少い。そこで慶子の肖像画をお頼みする事にした。[4]

二人は安井を選んだきっかけに、「或年の展覧会の和服の婦人像」を挙げている。展覧会に出品された和服の女性像は、1929（昭和4）年9月の第16回二科展に出された《座像》（個人蔵、fig.3）と、同じ女性をモデルにした翌年9月第17回二科展の《婦人像》（京都国立近代美術館蔵）があげられる。福島夫妻は12年間の滞欧中、度々帰国した。1929年が慶子の病気などで慌ただしかったことを考慮すれば、おそらく1930年の後者を目にしたのだろう。

繁太郎が回想で、一時帰国中の1925（大正14）年前後に見た「安井先生は、物の輪郭を柔く、ぼかした様に風景を描いて居られた。おとなしいつつましやかな絵だが美しかった」と語っている。この時期、安井の作風は「ドラン風」と呼ばれた。嘉門安雄は、「この時期の、このような作品は、スタイルとしては、まさにドランの影響といえよう。特に裸婦の稚拙感、風景における太く、ずんぐりとした木々の幹や枝の扱い方にそれがみられる」[5]と指摘している。安井のアンドレ・ドランへの接近に、繁太郎は注目したに違いない。その数年後に繁太郎が見た和服の女性像は、安井の画期となるまったく新しい作風を示していた。

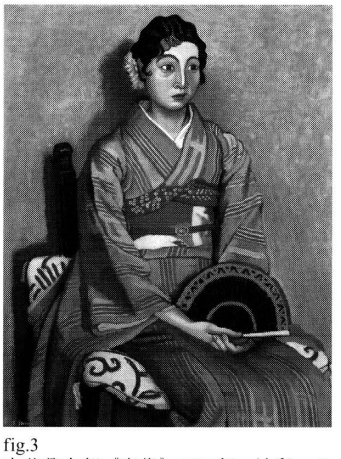


fig.3
安井曾太郎《座像》1929年、油彩・カンヴァス、個人蔵

1929年の《座像》は、帰朝後15年間の苦闘の末に安井が生み出した新たなスタイル、のちに「安井様式」と呼ばれるものを十全に備えている。霧がはれるように忽然として登場したその特徴は、以下の5点に絞られる。《座像》に即してまとめてみよう。

まず第一に、頭部を頂点とする安定した三角形構図が形作られている。右袖と裾が画面外へ流れ出していく様子も自然で、画面の安定感を増すのに効果を示している。四分の一、右向きの上半身は、古典主義的な肖像画の定型を踏襲しているといえる。安井の肖像画には座像が多いが、無理のない姿勢の安定した構図がこののちも選ばれていくことになる。

第二に、配色のコントラストが十分に吟味されていて、軽快感、爽快感を醸し出していることである。青磁色の着物と赤い帯の対比、扇面の黒と黄褐色との対比、座蒲団の白と黒の対比。複数の対比する組合せが画面上に存在し、それらがまた絡み合って全体で一つの調和が図られている。

第三に、白をまぜたことによって生じる不透明感が画面全体に統一を生み出していることである。しっとりとした質感が画面を覆う。石井柏亭は「此頃から色調が非常に明るくなると同時にぼかしが少なくなり、全面的に不透明性の白がちの盛上げが拡がるようになつた」[6]と指摘している。この白の効果について、有川幾夫は「この作品から感じられることは、色彩に混入される白色が増し透明度が減る一方で、光の表現からずいぶん自由になったのではないかということである。[……]色彩や質感や対象の細部は、光のもとでの正確さからもっと自由になり、その分のびのびとしている」[7]と述べている。

第四に、ところどころに加えられた黒が画面全体を引き締め、同時に、黒以外の色彩の鮮やかさを強めていることである。黒は、髪、椅子、扇、座蒲団の模様などに使われている。それらはみな隣接する色彩の明度と彩度を上げることに役立っている。黒を自在に使いこなせるようになったことが、安井様式の誕生に大きく関わっている。

第五に、油絵具の特質を生かした明瞭でのびのびとした輪郭線で画面が構成されることである。直線と曲線が、注意深くバランスよく配置される。人体が有機物であることから、人物画にはお

のずから有機的曲線が多くなる。その一方、直線は、椅子の背もたれと脚、そして開いた扇の端である。これらが直角をなすのは単なる偶然とは言えないだろう。安井の周到な計算のもとに、曖昧さを排して選び抜かれた直線と曲線が、互いに生かしあう働きを与えられている。

この安井様式は風景画、静物画、女性ヌードにおいても展開されていくのだが、もっとも典型的に示されていくのが肖像画だった。こののち安井は、《婦人像》(1930年、第17回二科展)、《玉蟲先生像》(1934年、東北大学史料館蔵、第21回二科展)、《金蓉》(1934年、東京国立近代美術館蔵、第21回二科展)、《本多光太郎肖像画》(1936年、東北大学金属材料研究所蔵)、《深井英五氏像》(1937年、東京国立博物館蔵、第1回一水会展)を次々に発表していく。「肖像画の名手」という名声を勝ち得た安井には、肖像画制作の依頼が67歳で亡くなるまで終生、途切れることがなく続いた。

福島夫妻もこれらの発表作に強い関心を持っていたことだろう。満を持して、1939(昭和14)年、慶子の肖像画制作を依頼する。安井の妻・はまによると、制作が始まったのは「丁度二月の寒い頃だった」[8]という。渋谷区松濤に住んでいた慶子が、目白にあった安井のアトリエに通いモデルを務めた。その後の制作の進み具合について、繁太郎が記しているところをみてみよう。

> 肖像画は実に時間がかかつた。始めは顔などの部分のデッサン、それから全体のデッサン、それを何度もくり返した後に、水彩でかかれ、いよいよ油絵になつたが、相当進行した時に「どうもいかぬ、やり直し」という事になつた。毎日の様にポーズに通ったのにもかかわらず、冬着で始めたのが夏になり、とても暑くて冬着はもう着られず夏の着物となつたから、また部分のデッサンからやり始められた。先生は実に根気のいい方だ。冬の着物の時から算えて半年以上もかかつて出来たのが今私が所蔵している二十五号の油絵である。その外に、冬着で毛皮を持っている始めのポーズの水彩画もコレクションの中にある、今はよき記念となったのが悲しい。[9]

逆に安井のほうは、制作の状況について以下のように述べている。

> 福島繁太郎夫人慶子さん(25号)、の場合は、初めに黒い服を着た二十五号を描いたが、どちらかの都合で休んでゐる内に何だかうまく描けさうもない気がしてやめてしまつた。黒服のはやめませうと言つたら、夫人は明るい派手な服を着て現はれた。この洋服は仲々むづかしかつた。白地にこまかい縞の洋服は実に美しかつたが、むづかしかつた。黒い紗の様な襟巻の様な飾も美しくむづかしかつた。全体白、黒、赤の取り合せが綺麗だつた。随分張り切つて描いた。この服は大変良かつたが、盗まれたさうで惜しいことである。夫人は今よりも肥つてゐられたと思ふが、ポーズ中に、私があまり睨むので怖かつたといふ話だ。しかし私が描いたモデルの中では福島夫人が一番賑やかな方だつた。非常に熱心で、自分が描いてゐるやうに一生懸命だつた。ちよくちよく絵を眺め、家にかへつてそれを御主人に報告してゐられたやうであつた。御主人への絵の進行振り報告、それが私には仲々つらかつた。[10]

最初は黒い冬服姿で描かれた。そのときの鉛筆と水彩による素描が残されている(《F夫人像》個人蔵、fig.4)。素描が終わり、ポーズが決定したのち安井は油彩にとりかかった。しかし、ほとんどできかかった油彩肖像画が、「なんだか描けさうもない気がし」て破棄されてしまう。やり直しは画家にとっても根気の要ることだが、モデルにとっても同じことだっただろう。制作途中の作品を覗き込んでは繁太郎に報告する夫人を、安井は「つらかった」と感じたが、モデルの熱心さには感銘を受けている。安井は制作中の作品を見られることを、肖像画に限らず、極度に嫌った。慶子がアトリエで画架の上のカンヴァスを覗き込むと

fig.4
安井曾太郎《F夫人像》1939年、鉛筆、水彩・紙、個人蔵

きの反応から、そのたびごとに安井がどんなものを感じとっていたのかは、杳として知れない。だが、慶子とその背後にいる繁太郎の視線から、安井は逃れられることはなかっただろう。福島夫妻とのいわば協働作業ともいうべき制作だったのである。慶子は、モデルをしていたときの様子について以下のように思い出を語っている。

「のん気な人間はポーズの最中居眠りをするし、神経質な人間はイライラしてくるものだが、あなたはちょうどいいところだネ」と、[安井]先生はおっしゃいましたが、私は初めて先生の恐ろしいばかりの目の動きを見て、身のすくむ思いがしました。皮膚を貫いて骨まで浸み通るような鋭い視線としかめ顔、これを家に戻ってから実演してみせますと、家族の者は笑い転げるのでしたが、私はそれどころではなく、ポーズをした日は骨の節々まで疲れました。[11]

仕切り直しにあたって慶子は、白黒の細い縞模様がある夏服を着て、透き通る黒いスカーフをつけ、赤い帽子をかぶった。服装は慶子の発案か、あるいは夫妻で考えた可能性もある。白地に縞模様の服を描くのに、安井はたいへん困難を感じているが、逆に意欲も掻き立てられた。このときの習作素描は知られていないが、制作は素描から再開している。油彩による写生が終わった段階の実写図（fig.5）を見ると、安井はモデルの量感を巧みに捕らえている。

安井は依頼肖像画を制作する際、まずその人となりが端的にあらわれ、かつモデルにとって負担にならない自然なポーズを探る。数日間で鉛筆、水彩で複数のデッサンがつくられ、最終的な構図が決定される。その後、油彩にうつりごく客観的に、写実的に描写する。描写力に優れた安井にとってはここまでは、2週間から3週間で十分だったようだ。この段階の見たままを写した油彩画を「実写図」と名付けたのは、富山秀男である[12]。安井は実写図をモノクロ写真で記録する。その後、その実写図に加筆をしていって、完成図まで仕上げるのである。その間は、モデルを目の前にして制作される場合と、モデルなしで進められる場合とがあった。手許にはつねに立ち戻れる原点としての実写図写真があったと思われる。完成図にいたるまでは、短くても数カ月、長いときには数年がかかった。モデルの人格を的確にとらえながらも、デフォルメ、様式化、単純化、細部の取捨選択が念入りに繰り返された。

この《F夫人像》の場合にも、完成後の作品と実写図を較べると、実写図に安井が全面的に加筆修正を施しているのが分かる。たとえば、縞模様はまったく異なるし、体の輪郭は細かく修正されている。顔は、モデルの知的な快活さを失わせないように配慮しながら、単純化を図っている。背景には、黄褐色の地に花の文様のようなものを散らしているが、これは実写図でもアタリを付けるような線が見え、写生段階でも意図されていたことが想像される。文様の存在によって背景が手前に押し出され、奥行きが失われて、作品全体がきわめて平面的な画面に仕上がっている。興味深いのは、背景の下部に塗られた床のような深青色の色面である。左上がりの輪郭線は、夫人の両肩が作る斜線、両肘が作る斜線と平行になっていて、作品全体の動勢のリズムを刻むのに奏功している。

福島夫妻は肖像画の出来上がりに満足した。その後の安井との交友は、しだいに深いものになっていった。

《F夫人像》は、文字通り、《座像》に始まる1930年代肖像画の掉尾を飾るものとなった。黒によって強調され補強される艶麗な色彩、メリハリの効いた確信的な輪郭線、大胆な色彩で平面的に処理される背景、一見無造作に引かれているかに見えて実は計算されつくされた筆遣い、背景を抑えて人物を浮かび上がらせるように組み合わされるハイライト、心地よいリズムを刻む細部のモティーフ。こうした特徴は、安井の1930年代の肖像画に顕著なものである。《F夫人像》ののち、1940年代に入ると、安井はより平面化を進め、彩度を落とした渋い色調に惹かれていくようになる。戦時下の状況がどのように安井の画業に影響を及ぼ

fig.5
福島慶子像実写図

したのか軽々には判断できないが、少なくとも40年代にゆるやかな変貌を安井は遂げていった。この《F夫人像》は、1937年の《深井英五氏像》とならび、艶麗な画面を繰り広げる安井の30年代様式の集大成といえる作品である。

註

1) 安井雄一郎「福島繁太郎―人と生涯」『戦後洋画と福島繁太郎―昭和美術の一断面』(展覧会図録)、山口県立美術館、1991年、p.151。
2) 福島慶子「ドランの思い出」『朝日新聞』1981年4月9日。
3) 福島慶子「安井画伯の肖像を描く」『文藝春秋』29巻4号、1951年3月。福島慶子『うちの宿六』文藝春秋新社、に所収。
4) 福島繁太郎「肖像画の理想」『心』9巻3号、1956年3月。
5) 嘉門安雄『安井曽太郎』日本経済新聞社、1979年、p.204。
6) 石井柏亭「安井曾太郎」『みづゑ』507号、1948年。
7) 有川幾夫「作品解説」『没後50年 安井曾太郎展』(図録)、東京新聞、2005年。
8) 安井はま「安井のこと」『美術手帖』1956年6月号。
9) 前掲註4。
10) 安井曾太郎「私の描いた肖像画」『文藝春秋』29巻5号、1951年4月。
11) 福島慶子「恐ろしい目 名作のモデル 安井曾太郎遺作展 (5)」『毎日新聞』1956年5月8日。
12) 富山秀男編『近代の美術 (42) 安井曾太郎』至文堂、1977年。

# ピエール・スーラージュへの６つの質問

新畑泰秀

I.

ブリヂストン美術館は、2011年春に「アンフォルメルとは何か？」展を開催した。この展覧会を構成する重要な作家として、ピエール・スーラージュによる作品、すなわち当館の《絵画、1969年5月26日》や、ポンピドゥ・センター国立近代美術館所蔵になる《絵画　195×130cm　1956年8月10日》などが展示された[1]。この展覧会開催の準備をしている最中に、われわれは、戦後フランスの抽象絵画の興隆をとりまく状況を調査すべく、パリのスーラージュのアトリエを訪ねて画家へのインタビューを行うことができた[2]。2011年3月23日に行われたインタビューは、ジャン・ミシェル・ムーリス（Jean-Michel Meurice）によって撮影され、その映像は日本で編集された後、展覧会場で「ピエール・スーラージュへの６つの質問」と題して鑑賞者に提示された（fig. 1）。ブリヂストン美術館は、これをひとつの契機として画家のアトリエより近作のひとつである《絵画　2007年3月26日》（fig.2,3, p.58参照）を蒐集することになった。

《絵画　2007年3月26日》は、「アンフォルメルとは何か？」展に出品された作品ではないが、一方で他のいかなる展覧会にもこれまで出品されず、画家のアトリエを出たことがない。黒一色で覆われ、水平方向の複数のテクスチャーを、光の反射により多様な表情を観賞者に提示する、画家の近作を代表する作品のひとつである。スーラージュは、戦後間もない時期よりフランスにおいて抽象絵画を先導して来たが、戦後の一時期のみならず半世紀以上の長きにわたり抽象画を独自に発展させてきた画家として、特にヨーロッパで見直しが急速に進んでいる。画家の集大成とも言える今回の収集は、戦後抽象絵画を新たなコレクションの核に据えるブリヂストン美術館においては、重要な機会となった。

スーラージュへのインタビューは、上述の通りブリヂストン美術館の展示室で2011年に公開したものの、同展図録にその内容をテキストとして掲

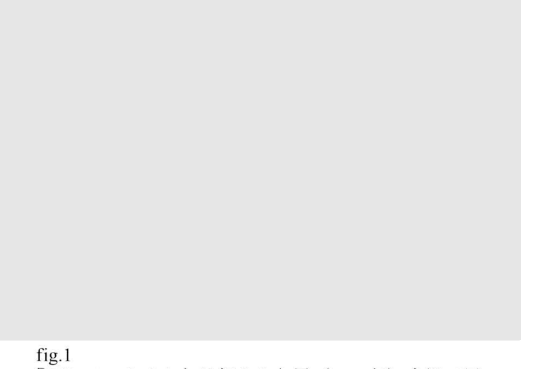


fig.1
「アンフォルメルとは何か？」展（2011年）会場で展示したインタヴュー映像の1コマ



fig.2
ピエール・スーラージュ近影、2013年5月、パリにて



fig.3
ピエール・スーラージュ《絵画　2007年3月26日》
©ADAGP, Paris & JASPAR, Tokyo, 2014 E0940

載することはなく、その一部抜粋が展覧会会期中に刊行された『週間読書人』で紹介されたのみである[3]。映像は短編（12分）ではあるものの、スーラージュ自身を知ることはもちろんのこと、このたびの収集作品《絵画　2007年3月26日》を理解するためにも重要なものであり、本稿においてこれをあらためて紹介することとしたい。

II.

第二次大戦後のパリで起こった前衛的絵画運動「アンフォルメル」。フランス語で「非定形なるもの」を意味するこの言葉は、1950年に批評家ミシェル・タピエによって戦後のフランスに胎動する新たな非具象的な絵画として提唱された。これはフォートリエ、ヴォルス、デュビュッフェを先駆者として、ミショー、スーラージュといった作家たち、加えて当時パリにいたザオ・ウーキー、堂本尚郎、今井俊満などがこれにかかわった。彼らは、それまでの絵画の具象的、構成的、幾何学的なイメージを脱却し、理性では捉えられない意識下の心の状態から生み出されるものの表現を試みた。現在、ブリヂストン美術館では、戦後フランスにおいて、モネ、セザンヌ、ピカソを超えた新しい絵画の創造を目指した画家たちによる作品を展示した「アンフォルメルとは何か？―20世紀フランス絵画の挑戦」展を開催している。この展覧会にあわせて、われわれは、戦後フランスの抽象絵画を代表する作家であり、本展においても重要な位置を占めているピエール・スーラージュへのインタビューを試みた。

ピエール・スーラージュは1919年、フランス中南部アヴェイロン県のロデーズに生まれた。故郷には、ケルトやロマネスクの遺跡が多く、彼はとりわけ12世紀のコンクの教会堂を毎日眺めて育ち、ロデーズ博物館の先史時代の遺跡メンヒルに刻まれた抽象的記号に興味をひかれたという。一方で同じ頃、ヴァン・ゴッホの作品に強い興味を抱き、さらに1938年、19歳の時、はじめてパリに出て、ポール・セザンヌとパブロ・ピカソの絵画から強い衝撃を受けたという。その後、モンペリエの美術学校で学び、1946年、27歳の時、パリの郊外に移り住み、本格的な画業を開始した。20世紀の中頃から現在に至るまでフランス画壇を代表する画家であり2009年にポンピドゥ・センターで大規模な回顧展が開催された[4]。この展覧会は1979年に同館で回顧展が行われて以来、30年の時を経て開催されたものであり、60年以上にわたる画家の足跡を振り返り、近作までの作品の発展に重点を置きながら、画家の全作に新しい解釈を示そうとする試みであった。その後も大きな美術館で個展が続くが、2014年5月24日には、故郷アヴェイロン県ロデーズにはピエール・スーラージュ美術館が誕生する[5]。

スーラージュの作品は、アンフォルメル運動の主導者ミシェル・タピエが1952年に著した『別の芸術』に作品が掲載された（fig.4）。しかし、その活動は、終戦直後から独自の抽象表現を展開する画家として注目されていた。このあたりの状況について、筆者が最初に「アンフォルメルの芸術」について話題にした時より、作家は、これは「運動」ではなく、「傾向の顕れ」であった、と言及していた。これを踏まえて制作された今回のインタビュー映像は、これまで主に研究者や批評家の言説に依拠していた戦後フランスに胎動した新しい抽象絵画について、明らかにに側面を浮かび上がらせることになった。

III.

ピエール・スーラージュへの6つの問い
2011年3月23日、パリのアトリエにて

Q. 1940年代末から50年代初めにおいて、絵画創造のインスピレーションをどこからか受けていましたか？

PS. 私自身がインスピレーションの源でした。私はあちこちからインスピレーションを得る画家ではありませんでした。東洋の美術、黒人の美術、

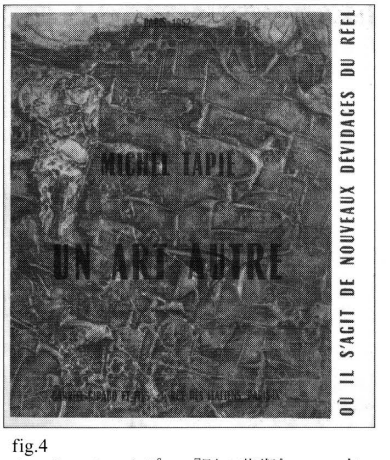



fig.4
ミッシェル・タピエ『別の芸術』、1952年
ブリヂストン美術館蔵

イスラム美術などからインスピレーションを得る人もいますが、私はそうではありませんでした。そういうものが、私のインスピレーションと考えたことはありません。だいたい、そういう芸術について当時、良く知りませんでしたし。当時、あまりよく知らなかったので。今は、少しは知っていますが。そういうことです。私に影響を与えたもの。それは、私自身であろうとしました。そういうことです。

Q. ミシェル・タピエについて、どのようにお考えですか？

PS. タピエは興味深い人物でした。しかし、残念ながら小さな、小さな集団でした。タピエは、私たちと近い立場を擁護していましたから、重要な人でしたが、小さな存在でした。「私たち」とは、ギャラリーの2人の友人のことです。私をいれて3人いました。アルトゥング、シュネーデル、そして私です。アルジャンソン通りにあった小さなギャラリーです。1940年代末のことでした。人としてタピエはよかったですね。感じのいい人でした。

次は、タピエが企画した展覧会をどう思うか？というご質問ですね。ええ、面白かったですね、皆が注目するというものではありませんでしたが、興味深いものでした。他にも、小さな画廊のやっていることも面白かったですね。コレット・アレンディとか、ニナ・ドーセといった小さな画廊のことです。

Q.「アンフォルメル」という言葉について、どのようにお考えですか？

PS. 私は、この言葉は感じがいいと思います。アメリカ人が使った「抽象的表現主義」よりずっと良い言葉です。私は、全く表現主義の画家ではないので、「抽象的表現主義」という言葉には同意できませんでした。抽象的表現主義とは逆の宣言を私たちはしたのです。絵画は感動、感覚、感情を表したものではない。私にとってはそうではなかったのです。1948年、ドイツで開催された展覧会の図録にこれを書きました[6]。(fig.5) ドイツの大きな美術館で行われた巡回展です。10人の抽象画家による展覧会でした。クプカ、エルバンなども出品していましたが、彼らはむしろ戦前の抽象画家でした。私を含めて2、3人は、タピエが言うところの「アンフォルメル」と呼ばれる抽象画家でした。幾何学的ではありませんでしたから。また、表現主義でもありませんでした。アルトゥングは、自分自身の絵を表現主義と言っているようですが。私の絵は、表現主義ではありません。その時、私はこう書きました。絵画のリアリティーとは3つのものの関係から成り立ちます。まず「もの (chose)」。これは記号ではありません、記号はまた別物です。オブジェでもない、「もの」なのです。その「もの」に対しては意味を与えることも、またその意味を奪うこともできます。「もの」が意味を伝達するのではなく、「見る人」がそこに意味を見いだすのです。絵画のリアリティーとは、3つのものの関係から成り立ちます。すなわち、「画家」と、絵画という「もの」、そして「見る人」の3つのものの関係から成り立つのです。「見る人」がその「もの」、すなわち絵画を変えるのです。それが作品の現実です。「見る人」の役割が、作品の現実の一部を成しているのです。今でも私はそう思っています。1948年にそのことを書いたのです。あれからずいぶん年数も経ちました。

Q. 1958年にザオ・ウーキーとブリヂストン美術館にいらっしゃいましたね。

ザオ・ウーキーとはニューヨークで会って、一緒に日本に来たいというので、一緒に来ました。彼はあちこち、私たちについて来たのです。石橋幹一郎さんのことをとても良く覚えています。当時、石橋さんが自宅に呼んでくれました。とても、感

fig.5
「フランス抽象絵画展」図録、ビュルテンベルギッシュ・クンストフェライン、シュトゥットガルト、1948年（Exhibition Catalogue, *Suoulages*, 2009 より引用）

じのいい方でした。今でもご存命ですか？私は存じ上げないのですが。私がよく覚えているのは、ブリヂストン美術館において歓迎してもらったことです。1958年にはじめて日本を訪れたので、とてもよく覚えています。（fig.6）

Q. 1950年代の作品が、あなたの現在の作品に影響していますか？

今の私の絵画に影響を及ぼしているものは、それよりずっと以前の、子ども時代のことです。結局、子ども時代に最も好きだったことに立ち返ったのです。私が好きだったのは、まず「黒」でした。家族が後に繰り返し話題にした、私の子ども時代の逸話があります。私自身はと言えば、幼すぎて覚えておりませんでした。私に色を使うように仕向けたけれど、私は黒を使うことを好んだというのです。それで「何をやっているの？」と聞くと、「雪を描いている」と言ったそうです。それで皆は笑ったと言うのです。白い紙に黒い線を描いていたものですから。今、振り返って説明してみると、それが正しいかどうかはわかりませんが。灰色の紙に黒で線を描くことによって、より白く見せようとしていたのだと思います。この話は、後から私の記憶に蘇ってきました。自分の歩みを顧みても、結局私の制作は、いつも「光」と関係があるのです。最初は、暗い色を明るく見せるために、黒を使いました。白のような色をより光り輝かせるために、黒を使ったのです。そして、1979年から現在にかけては、最も暗い黒を描いています。光の反射を表す手段として、黒を使っているのです。これはパラドクス（逆説）なのです。黒は最も光のない色で、私の作品ではその黒から「光」が生まれるのです。それはもちろん表面の構造によります。

fig.6
ブリヂストン美術館を訪れたスーラージュ、ザオ・ウーキーとともに、1958年

Q. 現在の芸術についてどのようにお考えですか？

PS. 私は常に黒を使って、大きな絵画を描いています。反射の表面のようです。そして、反射でありながらただの反射ではないのです。というのもある色に衝突した光は変化します。光がことなる色によって反射されるとき、光はもう同じではなくなります。黄色に反射する光と、青色に反射する光、緑色に反射する光は、黒に反射する光とはとても違います。光の反射の仕方によっても異ります。つまり、そういう反射を、どう組み立てていくかが私の絵画なのです。それから重要なことがあります。この現象を分析すると、そこに私達が見るものは表面です。伝統的絵画では、表面を突き抜けていかにも奥行きがあるように描いています。遠近法が、ある種の幻視を見る者に与えているのです。幻視は芸術ではありません。芸術は「存在」なのです。私は、それを発見しました。
私は若い頃、ルネサンス以降の絵画、幻視を求める絵画を批判しています。現実の幻視、あたかも丸いように見せたり、空間があるように見せたりする絵画を。それは芸術を考えるに当たっては誤った方法だと若い頃から感じていました。芸術は幻想ではありません。「存在」なのです。私の描く絵画においては、光は絵画から見る人に向かって放たれます。絵画の空間は、絵の前方向にあるのです。そして見る人はその空間の中に居ることになります。つまり空間との関係が、奥行きを描こうとする作品や、平坦を描こうとする作品とは異なるのです。そこが違うのです。それに、視点が変わると光も変わります。同じ反射ではないのです。もちろん、もとは同じ作品なので、よく似た光の具合になるのですが。でも作品は見られる瞬間に存在するのです。その次の瞬間、見る人の位置が変わると、もう同じ作品ではなくなります。見ているその瞬間に絵画は存在します。伝統的な絵画と比べると、私の絵は時間との関係も異なるのです。伝統的な絵画は、どこに見る人が立っていても同じ絵画です。これが、私が今描いている作品の２つの特徴です。それを1979年以降ずっと行ってきました。
これで全てです。でも私の話を聞くよりも絵を見ていただいた方がいいと思います

ピエール・スーラージュへの6つの質問—2011年3月22日、画家のアトリエ（パリ）にて
12分24秒、ビデオ
撮影：ジャン=ミシェル・ムーリス
映像編集：播本和宜
翻訳：高野勢子
協力：五辻通泰・五辻洋祐
企画・監修　新畑泰秀

註

1）『アンフォルメルとは何か？—20世紀フランス絵画の挑戦』展図録、2011年4月29日-7月6日、石橋財団ブリヂストン美術館。
2）このインタビューは、五辻通泰氏と五辻洋祐氏の助力を得て実現した。
3）「ピエール・スーラージュ氏に聞く—『アンフォルメルとは何か？ 20世紀フランス美術の挑戦』展によせて」、『週間読書人』、第2894号、2011年6月24日、6頁。
4）Exhibition Catalogue, *Suoulages*, Catalogue publié sous la direction de Pierre Encrevé and Alfred Pacquement, Centre national d' art et de culture Georges Pompidou, 2009.
5）Musée Soulages, Rodes (http://musee-soulages.grand-rodez.com)
6）*Grosse Ausstellung französischer abstracter Malerei*, Württermbergischer Kunstverein de Stuttgart, November 1948.

# 美術館案内　Guide to the Museums

## ブリヂストン美術館

所在地　東京都中央区京橋1-10-1（〒104-0031）
TEL（03）3563-0241
URL　http://www.bridgestone-museum.gr.jp
開館時間　午前10時－午後6時
午前10時－午後8時（祝日を除く金曜日）
休館　毎月曜日　年末年始
入場料　個人：
一般 800円　シニア（65歳以上）600円
大・高生 500円　中学生以下 無料
団体（15名以上）：
一般 600円　シニア（65歳以上）500円
大・高生 400円　中学生以下 無料
なお、特別展の場合は変更することがある。

## Bridgestone Museum of Art

Address　1-10-1, Kyobashi, Chuo-ku,
Tokyo104-0031, Japan
Phone　+81 (3) 3563-0241
Hours　10:00 to 18:00
10:00 to 20:00 (Friday except for holidays)
Closed on Mondays, New Year holidays
Admission Individual:
Adults ¥800; Seniors 65 or over ¥600;
Students ¥500; Children under 15 free
Group (15 or more):
Adults ¥600; Seniors 65 or over ¥500;
Students ¥400; Children under 15 free
Different fees will be charged during special exhibitions.

## 石橋美術館

所在地　福岡県久留米市野中町1015（〒839-0862）
TEL（0942）39-1131
URL　http://www.ishibashi-museum.gr.jp
開館時間　午前10時－午後5時
休館　毎月曜日　年末年始
入場料　個人：
一般 500円　シニア（65歳以上）300円
大・高生 300円　中学生以下 無料
団体（15名以上）：
一般 400円　シニア（65歳以上）200円
大・高生 200円　中学生以下 無料
なお、特別展の場合は変更することがある。

## Ishibashi Museum of Art

Address　1015, Nonaka-machi, Kurume-shi,
Fukuoka-ken 839-0862, Japan
Phone　+81 (942) 39-1131
Hours　10:00 to 17:00
Closed on Mondays, New year holidays
Admission Individual:
Adults ¥500; Seniors 65 or over ¥300;
Students ¥300, Children under 15 free
Group (15 or more):
Adults ¥400; Seniors 65 or over ¥200;
Students ¥200, Children under 15 free
Different fees will be charged during special exhibitions.

（2013 年 12 月現在）

# 石橋財団職員

| | |
|---|---|
| 常務理事 | 西嶋　大二 |
| 常務理事付 | 深堀　幸男 |

## 事務局

| | | |
|---|---|---|
| 事務局長 | | 山内　和徳 |
| 総務課 | 総務課長 | 森田麻利子 |
| | 総務課課長 | 菊地　　浩 |
| | 総務課課長 | 田村　嘉晃 |
| | | 鈴木　弥生 |
| | | 田所　夏子 |

## ブリヂストン美術館

| | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| 館長 | | 島田　紀夫 | 学芸課 | 学芸課長 | 新畑　泰秀 |
| クリエイティブディレクター | | 田畑多嘉司 | | 学芸課課長 | 貝塚　　健 |
| 総務課 | 総務課長 | 小藪　泰生 | | | 賀川　恭子 |
| | | 金森　大輔 | | | 細矢　　芳 |
| | | 小原田鶴子 | | | |
| | | 石川　久子 | | | |
| | | 久野　朝子 | | | |

## 石橋美術館

| | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| 館長 | | 島田　紀夫 | 学芸課 | 学芸課長 | 森山　秀子 |
| 総務課 | 総務課長 | 後藤　純子 | | | 平間　理香 |
| | | 原　　朋子 | | | 伊藤絵里子 |
| | | 平島たか子 | | | 泉田　佳代 |

2013 年 12 月 31 日現在